

厚生労働科学研究費補助金

障害者政策総合研究事業

「障害者に対する社会リハビリテーション支援プログラム
及びその評価手法開発に関する研究」

令和 2 年度 総括・分担研究報告書

研究代表者 菊地 尚久

令和 3 (2021) 年 5 月

I. 総括研究報告

- 障害者に対する社会リハビリテーション支援プログラム
及びその評価手法開発に関する研究 ----- 1
- 菊地尚久
(資料) 評価指標調査票、プログラム調査票

II. 分担研究報告

1. 機能訓練での標準化された評価手法の確立へ向けた
試験調査に関する研究 ----- 17

菊地尚久、田中康之
(資料) 機能訓練項目別統計データ
2. 生活訓練での標準化された評価手法の確立へ向けた
試験調査に関する研究 ----- 49

小島正平、田中康之
(資料) 生活訓練項目別統計データ
3. 自立訓練のプログラム及び支援内容に関する
試験調査研究 ----- 81

鈴木智敦、渡邊崇子
(資料) 障害別プログラム等職員効果実感率・利用者効果実感率データ
4. 回復期リハビリテーション病院の生活期支援に関する
実態調査の研究 ----- 113

鈴木智敦
(資料) 回復期リハビリテーション病院 生活期支援実態調査票 (案)

令和2年度厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）

総括 研究報告書

障害者に対する社会リハビリテーション支援プログラム
及びその評価手法開発に関する研究

研究代表者 菊地 尚久 千葉県千葉リハビリテーションセンター センター長

研究要旨

それぞれの事業所において標準的な評価手法のもとに十分な効果がある支援プログラムが利用者全てに適用されることを目的として研究を行った。R2年度には①それぞれの事業所のデータを基に機能訓練、生活訓練ともに標準化された評価手法の確立を行うこと、②事業所を類型化し、各類型の中で共通して行っている支援手法と、特定のニーズに対応した支援手法の把握を行った。ADL、IADL、QOL等の代表的な既存指標を集め、機能訓練・生活訓練の共通指標としてするため検証した結果、「機能的自立度評価（FIM）」「手段的日常生活活動（IADL）尺度」「WHODAS」「Recovery Assessment Scale」「WHOQOL」に加え、社会参加の指標となる活動範囲や移動範囲の広がり測る指標として「Life Space Assessment」「実用的歩行能力分類」を加え、機能訓練、生活訓練とも有意な効果を示すことができた。ただし被験者の回答による評価指標についてはどのような訓練・支援が結果をもたらしたかという因果関係を説明することは難しいため、標準的な評価手法に組み入れるにはよく検討する必要があることがわかった。類型化された事業所での支援手法の把握に関しては、幅広い分野に渡って多くのプログラム等を提供していることが示された。加えて、プログラム等の提供側の職員だけでなく、プログラム等を通じ「自立した日常生活又は社会生活を営む」ことを目標としている利用者も効果を実感できるプログラム等が実施されていることがわかった。来年度は標準的な評価手法としてこれら既成の指標の使い方についてさらに検討を進める予定である。

A. 研究目的

本研究はそれぞれの事業所において標準的な評価手法のもとに十分な効果がある支援プログラムが利用者全てに適用されることを目的として行う。R2年度には①それぞれの事業所のデータを基に機能訓練、生活訓練ともに標準化された評価手法の確立を行うこと、②事業所を類型化し、各類型の中で共通して行っている支援手法と、特定のニーズに対応した支援手法の把握を行う。回復期リハビリテーション病棟の生活期支援に関する認識調査、R3年度にはモデルとする事業所において、そ

れぞれに適した支援プログラムを作成・試行し、標準化された評価手法によりその効果を検証し、自立訓練の標準的な支援プログラムを提案する。

B. 研究方法

1. 機能訓練での標準化された評価手法の確立
研究代表者菊地尚久と研究分担者田中康之が担当し、全国の機能訓練を行っている自立訓練事業所に研究協力を依頼する。全国障害者自立訓練事業所協議会に参加している施設を中心にデータ提出に協力する20施設を目標に依頼する。目標症例数

は200症例とする。データは匿名化した状態でexcelに入力を行う。データ入力には事業所の規模・種別、事業所利用開始時、可能であれば6か月後、利用終了時とする。入力項目は性別、年齢、家族背景、発症前の就労状況、疾患名、障害名などの基本情報、事業所利用のニーズ、ADLの指標としてFIM（機能的自立度）、IADLの指標としてLife Space Assessment、屋外移動能力、福祉サービスの利用項目・頻度、ゴール達成度などとする。収集したデータをクリーニングした後、SPSSを用いて事業所利用前後での変化、各因子の相関等について統計ソフトSPSS V26を用いて解析する。

2. 生活訓練での標準化された評価手法の確立
研究分担者小島正平と研究分担者田中康之が担当し、全国の生活訓練を行っている自立訓練事業所に研究協力を依頼する。全国障害者自立訓練事業所協議会に参加している施設を中心にデータ提出に協力する20施設を目標に依頼する。目標症例数は200症例とする。データは匿名化した状態でexcelに入力を行う。データ入力には事業所の規模・種別、事業所利用開始時、可能であれば6か月後、利用終了時とする。入力項目は性別、年齢、家族背景、発症前の就労状況、疾患名、障害名などの基本情報、事業所利用のニーズ、ADLの指標としてFIM（機能的自立度）、IADLの指標としてLife Space Assessment、屋外移動能力、福祉サービスの利用項目・頻度、ゴール達成度などとする。収集したデータをクリーニングした後、SPSSを用いて事業所利用前後での変化、各因子の相関等について統計ソフトSPSS V26を用いて解析する。

3. 類型化された事業所での支援手法の把握と回復期リハビリテーション病棟の生活期支援の認識調査をおこなう。機能訓練に関しては研究分担者渡邊崇子が、生活訓練に関しては研究分担者鈴木智敦が担当する。標準化された評価手法の確立で依頼した事業所に依頼し、プログラム内容に関

するアンケートと個人名を秘匿した状況での代表的疾患・障害に対するプログラム内容について調査する。データ提出に協力する。20施設を目標にデータ提出を依頼する。プログラム内容の調査については目標症例数を50症例とする。回復期リハビリテーション病棟の生活期支援の認識調査については高次脳機能障害を持つ患者を治療している回復期リハビリテーションを実施している医療機関にアンケート形式で、高次脳機能障害者の社会参加についてどのように認識しているか、生活期における当事者等に対して、生活期にどのような支援が望ましいかについて調査する。協力する回復期リハビリテーション病棟は20施設を目標とする。

4. 研究代表者菊地尚久が高次脳機能障害の社会参加の先進国であるイギリスの専門家が会長で2020年7月に開催される17th Neuropsychological Rehabilitation Special Interest Group of the WFNR's Neuropsychological Rehabilitation Conferenceに参加し、高次脳機能障害者の施設利用の社会参加支援について情報収集を行う。

C. 研究結果

1. 標準化された評価手法の確立

(1) 評価指標調査票の検討

社会リハビリテーションの効果を測定する手法として、どのような項目が評価として適しているかを検討するため、研究計画で挙げた評価指標と併せてADL、IADL、QOL等の代表的な既存指標を集め、機能訓練・生活訓練の共通指標としてするため検証した結果、「機能的自立度評価（FIM）」「手段的日常生活活動（IADL）尺度」「WHODAS」「Recovery Assessment Scale」「WHOQOL」に加え、社会参加の指標となる活動範囲や移動範囲の広がり測る指標として「Life Space Assessment」「実用的歩行能力分類」を加えた。（表1）

評価手法の検討結果

評価指標	効果が見えるか		備考
	機能訓練	生活訓練	
[ADL評価]			
FIM	○	△	「回復期病棟の入院料の基準としており、機能訓練で使われている所もあり、平均7〜8点程度の向上が見られる。他の社会生活評価等と併せて評価するのであれば妥当。・短・精神では「運動項目」の評価は、身体機能ではなく認知の課題の結果によるものとなるが、どの程度の変化がでるか分からない。
バーゼインデックス	△	×	「時点基準が大幅に変化が出にくい。・短・精神では、認知機能の課題が身体動作に影響している重層の場合に「一部介助」「介助」となることが予想されることから、生活訓練対象者レベルにはなじまない。
KI	×	×	「時点基準が大幅に変化が出にくい。・短・精神では、認知機能の課題が身体動作に影響している重層の場合に「介助」となることが予想されることから、生活訓練対象者レベルにはなじまないではないか。
[ADL・社会生活]			
CHIEF	△	×	「この1年間」という期間は、期間が長すぎるため評価しづらい。・主に環境因子(物的、人的、環境)の要因因子を扱っているため、改善された場合においても訓練による効果であるか分かりにくい。・本人への質問による回答が事実から分らない。・入所利用者は施設環境にあるため評価しづらい。 ※失語者に対するCIG、CHIEFについての研究論文からは、ICFの特長による標準的評価法の策定の必要性が認められている。
CIG	×	×	「Q6までの質問では主に家族との役割分担について問われており、家族関係等の要因もあるため、直接的には訓練効果が測れない。・Q7以降も、利用中の評価では変化が分からない。・本人への質問による回答が事実から分らない。
DASC	△	×	「プラス…認知症の予せメントであるため項目に偏りがある、社会生活面が少なく就労や社会参加が低い。
FAI	×	△	「プラス…項目が重複しているため評価しづらい。・短・精神とは分けて「座仕事」「家や車の手入れ」「読書」があり、家事項目が多く含まれている等項目に偏りを感じる。
IADL尺度	△	△	「プラス…利用中に評価しやすい、選択肢が分かりやすい マイナス…項目が網羅的ではない(「健康管理」は「服薬管理」のみ等)、就労や社会参加が少ない、生活項目が少ない。
老研式活動評価	×	×	「高齢者用である項目に偏りがある。・就労、社会参加が低い。・時点基準が大幅に変化をつかみにくい。
GAF	×	△	「各項目の前掲は「症状」についての記述であり、精神障害以外に該当しない。・後段の薬理項目の表が大きいため判断が主観的になりやすく、自立訓練レベルの利用者では変化が大きい(特に機能訓練では)。
精神保健福祉手帳能力障害状況評価	×	△	「プラス…具体的でわかりやすい、変化が捉えやすい マイナス…機能訓練には使えない、精神に特化しているためこのままでは使えない、総合評価が低い。
日本精神科協会調査	×	△	「プラス…精神についてICD-10(社会復帰施設/主治医用)を活用・整理すれば、利用時と終了時に評価することで変化が捉えられる マイナス…このままでは使えない。
WHODAS	△	△	「プラス…信頼性が高く完成されている、そのため対外的にもアピールしやすい、ICFの考えに基づいている、項目ごとで評価のための外付の記述がある(含まれている) マイナス…評価者が十分理解した上で質問が必要、「領域B 社会への参加」の項目は、環境因子に対する質問となっており、社会生活力の変化を測るものではない、交通機関の利用や買い物等の外出能力が高まったことの評価ができない。 ※WHODASがあることから、入所利用者には評価しづらいが、活動範囲の広がりを通じて社会参加の能力を評価できる可能性がある。
L.S.A.	○	△	
S.A.C. (special activities checklist)			
[QOL・その他]			
[KALINL - index]	△	×	「項目が限られている。・時点基準が大幅である
R.A.S.	○	○	「訓練・支援による環境変化を捉えるのに適しているように思われる。・客観的な社会生活力についての評価と捉えよう。
[SISR-A_B]	×	△	「プラス…Q1はすべての障害に適している、項目数が少ないため回答が簡単 マイナス…Aは対象者精神障害に限定してしまつたため、生活訓練を知的と精神で分けた場合には有効、Bは項目の記述の次元が高く、良い評価が得られにくい 「項目が大幅に異なる(社会生活面が「ふだんの活動」にひとまめにしている)。「ふだんの活動」は、本人自身で実施できずして実施してはならない。
EuroQol	×	×	「活動状況について」の項目は、社会生活が高まった結果としての満足度の測定ができるもの、このため活用するまでもない。
SFB, 12, 36	△	△	「信頼性が高い。・項目数はSFBより少なく、社会生活上の項目はSFBより多い。・SFBの評価であるため変化が捉えやすい。 ※WHODASの短所では、WHODASの併用が勧められている。
WHOQOL	○	○	「信頼性が高い。・項目数はSFBより少なく、社会生活上の項目はSFBより多い。・SFBの評価であるため変化が捉えやすい。 ※WHODASの短所では、WHODASの併用が勧められている。
ASCOT	×	×	「入所利用の場合、限られた施設環境の中では評価しづらい。
SIP	×	△	「プラス…具体的でわかりやすい マイナス…項目が多い、全てが客観的表現となっており質問しにくい、往や来し移動がマイナス点となっている。「自分の名前が書けることができません」、名前も書けない人がチェック数が少なくなる等、表現上の問題がある。
CGIC	×	×	「CIGの質問に「満足度」を加えたものであるため、基本的にはCIGと同様の課題を抱える ※家族参加者の参加評価についての論文からは、「自分らしく暮らす」という主題に関するアウトカム評価の必要性が認められている。
CGOLC	×	×	「家族の意向に対する項目でありマッチしない。
S.A.S.O. (S-O)			
下線のある評価指標は、社会生活+QOLにカテゴリ移動したものを、赤字は調査しても良いが資料が見つからなかったもの			

表 1: 評価手法の検討結果

また、基礎項目として性別、年齢、家族背景、疾患名、障害名その他、障害者手帳、支援区分、介護区分の他利用意向や支援の到達度について調査を行い、成果項目として開始時と終了時の社会参加や収入状況などの生活状況を比較する事で支援効果の因果関係を測れるよう調査を行った。

(2) 試験調査の実施

研究分担者、協力者の関連施設を始め、研究協力団体である全国障害者自立訓練事業所協議会の協力により機能訓練 12 事業所、生活訓練 12 事業所の合計 24 事業所の協力により、機能訓練 83 症例、生活訓練 54 症例、宿泊型自立訓練 8 症例の計 145 症例を集計した。

(3) 機能訓練の試験調査結果

分担研究の結果から、既存指標を用いて機能訓

練の利用前後を比較したところ、身体面、精神面、日常生活や社会生活面での向上・改善を数値化できた。特に活動力や活力、余暇活動、対人関係づくり、支援の依頼、生活設計など客観的評価が難しい項目も数値化できた。

今回調査した評価指標には、FIM、IADL 尺度、実用的歩行能力分類といった客観的評価指標と、RAS や WHO/QOL、WHO/DAS 等の被験者の回答による評価指標があり、内面的変化そのものは客観的事実であり評価の対象となりうるものの、どのような訓練・支援が結果をもたらしただかという成果との因果関係を説明することは難しい。帰結状況等から推論しても、訓練・支援と利用者の変化との関連性が強いことは予想されるものの、これらの評価結果をそのまま機能訓練の利用効果であるとするには難しく、評価指標の確立という点からは、提供したプログラムとの因果関係についても研究が必要となる。

(2) 生活訓練の試験調査結果

分担研究の結果から、生活訓練では利用前後で利用者の精神面、日常生活や社会生活面で大きく向上・改善されていることが明らかとなった。

特に、評価指標の項目別で見ると、課題解決力、活力、集中力等の認知面や精神活動、生活設計や外出、余暇活動、対人関係づくり、支援の依頼等の社会生活力や就労面においてプラスの変化が認められた。一方で、機能訓練同様に内面的変化を支援の結果として因果関係を説明することは難しい。帰結状況等から推論しても、訓練・支援と利用者の変化との関連性が強いことは予想されるものの、生活訓練の利用効果であるとするには難しく、評価指標の確立という点からは、提供したプログラムとの因果関係についても研究が必要となる。

2. 類型化された事業所での支援手法の把握

(1) プログラム調査票の検討

機能訓練・生活訓練において標準的なプログラムを検討するため、「自立訓練の実態把握に対す

る調査研究」厚生労働省平成 30 年度障害者総合福祉推進事業の報告書を参考にプログラム項目を検討した。

(2) 試験調査の実施

今回の試験調査の分析にあたっては、評価指標と紐付けるため、評価指標調査の対象者から機能訓練・生活訓練の事例として機能訓練（実施者 21 名）、生活訓練（実施者 12 名）事例収集を行った。

(3) 試験調査結果

分担研究の結果から、幅広い分野に渡って多くのプログラム等を提供していることが示された。加えて、プログラム等の提供側の職員だけでなく、プログラム等を通じ「自立した日常生活又は社会生活を営む」ことを目標としている利用者も、効果を実感できるプログラム等が実施されていることがわかった。利用期間中は、プログラム等による影響だけでなく、職員や他の利用者など他者との関わりから様々な影響を受けるので、各プログラムに、目標達成との関連性を客観的に示すことは難しいと思われる。目標達成したケースについて、プログラム等の実施率と効果実感率を複合的に分析することで、効果があると思われるプログラム等を障害種別ごとに類型化できる可能性は示唆された。

3. 回復期リハビリテーション病棟における生活期支援の認識調査

今年度は様々な社会事情により、調査実施まではできなかったが、回復期リハビリテーション病院や自立訓練提供施設からのヒアリングを行い、調査票案を作成した。

D. 考察

本研究はそれぞれの事業所において標準的な評価手法のもとに十分な効果がある支援プログラムが利用者全てに適用されることを目的として行った。今年度には①それぞれの事業所のデータを基

に機能訓練、生活訓練ともに標準化された評価手法の確立を行うこと、②事業所を類型化し、各類型の中で共通して行っている支援手法と、特定のニーズに対応した支援手法の把握を行った。新型コロナ感染蔓延下で当初の計画の内容で、入所者数が例年よりやや減少傾向にあったこと、調査にあたり様々な制約があったことからサンプル数が当初の計画より少なめであったことは否めないが、それでも分担研究者および研究協力者の尽力により、ほぼ予定通りに研究を遂行できたことは幸いであった。本研究の遂行に関わったすべての関係者に感謝したい。

評価指標調査票の検討に関しては、社会リハビリテーションの効果を測定する手法として、どのような項目が評価として適しているかを検討するため、研究計画で挙げた評価指標と併せて ADL、IADL、QOL 等の代表的な既存指標を集め、機能訓練・生活訓練の共通指標とするために検証した結果、「機能的自立度評価 (FIM)」「手段的日常生活活動 (IADL) 尺度」「WHODAS」「Recovery Assessment Scale」「WHOQOL」に加え、社会参加の指標となる活動範囲や移動範囲の広がり測る指標として「Life Space Assessment」「実用的歩行能力分類」を加えることになった。社会リハビリテーションのアプローチは幅広く、またその効果の判定もさまざまであり、機能訓練と生活訓練に共通した指標を探ることは困難であり、評価方法の選択は難渋したが、上記の「機能的自立度評価 (FIM)」「手段的日常生活活動 (IADL) 尺度」「WHODAS」「Recovery Assessment Scale」「WHOQOL」「Life Space Assessment」「実用的歩行能力分類」はその多くあるいはいずれかが、様々な施設のいずれのアプローチについても効果判定指標として使えることがわかった。来年度は標準的な評価手法としてこれら既成の指標の使い方についてさらに検討を進める予定である。

機能訓練に関する調査結果に関しては FIM、IADL 尺度、実用的歩行能力分類といった客観的評価指

標と、RAS や WHO/QOL、WHO/DAS 等の被験者の回答による評価指標の評価結果を検討したところ、後者については利用者の内面的変化そのものは客観的事実であり評価の対象となりうるものの、どのような訓練・支援が結果をもたらしたかという成果との因果関係を説明することは難しいことがわかった。帰結状況等から推論しても、訓練・支援と利用者の変化との関連性が強いことは予想されるものの、これらの評価結果をそのまま機能訓練の利用効果であるとするには難しく、これを標準的な評価手法に組み入れることについては、十分に検討する必要があると思われた。

生活訓練に関する調査結果に関しては、今回の指標のデータから生活訓練では利用前後で利用者の精神面、日常生活や社会生活面で大きく向上・改善されていることが明らかとなった。項目別では特に課題解決力、活力、集中力等の認知面や精神活動、生活設計や外出、余暇活動、対人関係づくり、支援の依頼等の社会生活力や就労面においてプラスの変化が認められた。一方で、機能訓練同様に内面的変化を測る項目に関しては、支援の結果としての因果関係を説明することは難しいことがわかった。したがって、これを標準的な評価手法に組み入れることについては、機能訓練同様に十分に検討する必要があると思われた。

類型化された事業所での支援手法の把握に関しては幅広い分野に渡って多くのプログラム等を提供していることが示された。その内容に関してはプログラム等の提供側の職員だけでなく、プログラム等を通じ「自立した日常生活又は社会生活を営む」ことを目標としている利用者が効果を実感できるプログラム等が実施されていることがわかった。利用期間中は、プログラム等による影響だけでなく、職員や他の利用者など他者との関わりから様々な影響を受けるので、各プログラムに、目標達成との関連性を客観的に示すことは難しいと思われた。目標達成したケースについて、プログラム等の実施率と効果実感率を複合的に分析す

ることで、効果があると思われるプログラム等を障害種別ごとに類型化できる可能性が示唆され、来年度の研究において進める予定である。

E. 結論

それぞれの事業所において標準的な評価手法のもとに十分な効果がある支援プログラムが利用者全てに適用されることを目的として研究を行った。今年度には①それぞれの事業所のデータを基に機能訓練、生活訓練ともに標準化された評価手法の確立を行うこと、②事業所を類型化し、各類型の中で共通して行っている支援手法と、特定のニーズに対応した支援手法の把握を行った。既存の指標を活用して評価を行い、機能訓練、生活訓練とも有意な効果を示すことができた。ただし被験者の回答による評価指標についてはどのような訓練・支援が結果をもたらしたかという成果との因果関係を説明することは難しいため、標準的な評価手法に組み入れるにはよく検討する必要があることがわかった。類型化された事業所での支援手法の把握に関しては幅広い分野に渡って多くのプログラム等を提供していることが示された。

F. 健康危険情報

特記なし

G. 研究発表

1. 論文発表

菊地尚久, 吉永勝訓: 回復期頸髄損傷患者の上肢痙縮に対するボツリヌス治療効果. 日本脊髄障害医学会誌, 2020, 33, 1, 134-135.

神保和正, 高浜功丞, 安森太一, 吉村友宏, 菊地尚久, 吉永勝訓. 頸髄損傷者に特化した上肢機能評価「GRASSP」および「CUE-T」の有用性の検証. 日本脊髄障害医学会誌, 2020, 33, 1, 120-122.

吉村友宏, 神保和正, 高浜功丞, 安森太一, 菊地尚久, 吉永勝訓. 上肢機能評価バッテリー「GRASSP」を用いた頸髄損傷者の ADL 状況について症例から

の検討. 日本脊髄障害医学会誌, 2020, 33, 1, 124-126.

菊地尚久. 基本的動作能力の回復を図る治療を行うための運動療法 -リハ医から理学療法士に求めるもの-. 理学療法福岡, 2020, 33, 1, 41-45

菊地尚久. 脊髄損傷と老化. 臨床リハ, 2020, 29, 7, 725-732.

菊地尚久. 回復期リハビリテーションにおける頸部痛, Medical Rehabilitation, 2020, 250, 145-150.

2. 学会発表

菊地尚久. シンポジウム 義肢診療における多職種連携 ~何を考えてどう連携するのか?-医師の立場から-. 第57回日本リハビリテーション医学会学術集会, 京都, 2020-8-19/8-22, 第57回日本リハビリテーション医学会学術集会抄録集.

菊地尚久, 浅野由美, 中山 一, 赤荻英理, 近藤美智子, 吉永勝訓: 頸髄損傷回復期の痙縮に対する

ボツリヌス治療効果. 第57回日本リハビリテーション医学会学術集会, 京都, 2020-8-19/8-22, 第57回日本リハビリテーション医学会学術集会抄録集.

菊地尚久. シンポジウム -脊髄障害者の痙縮治療- 痙縮治療のバリエーションとその選択のポイント. 第4回日本リハビリテーション医学会秋期学術集会, 神戸, 2020-11-20/11-22, 第4回日本リハビリテーション医学会秋期学術集会抄録集.

菊地尚久: 関節型エーラス・ダンロス症候群に対する装具療法の考察, 第1回日本エーラスダンロス研究会, オンライン, 2020年12月.

菊地尚久: 関節型エーラス・ダンロス症候群に対する装具療法の考察, 第1回日本エーラスダンロス研究会, オンライン, 2020年12月.

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

特記なし

資料1: 評価指標調査票

【1】 調査対象者の基礎項目

項目	内容								
1 利用サービス名(日中)	<input type="radio"/> 機能訓練事業		<input type="radio"/> 生活訓練事業		<input type="radio"/> 宿泊型自立訓練事業				
2 性別	<input type="radio"/> 男性		<input type="radio"/> 女性						
3 (利用開始時)年齢							歳		
4 (主たる)障がい	<input type="radio"/> 肢体(上肢)		<input type="radio"/> 肢体(下肢)		<input type="radio"/> 肢体(体幹)		<input type="radio"/> 視覚		
	<input type="radio"/> 聴覚・言語		<input type="radio"/> 内部		<input type="radio"/> 知的		<input type="radio"/> 精神		
	<input type="radio"/> 発達		<input type="radio"/> 高次脳機能		<input type="radio"/> 難病		<input type="radio"/> その他		
5 重複障がい(複数可)	<input type="checkbox"/> 肢体(上肢)		<input type="checkbox"/> 肢体(下肢)		<input type="checkbox"/> 肢体(体幹)		<input type="checkbox"/> 視覚		
	<input type="checkbox"/> 聴覚・言語		<input type="checkbox"/> 内部		<input type="checkbox"/> 知的		<input type="checkbox"/> 精神		
	<input type="checkbox"/> 発達		<input type="checkbox"/> 高次脳機能		<input type="checkbox"/> 難病		<input type="checkbox"/> その他		
※精神分類(複数可)	<input type="checkbox"/> 依存症		<input type="checkbox"/> うつ病		<input type="checkbox"/> 解離性障がい		<input type="checkbox"/> 強迫性障がい		
	<input type="checkbox"/> 睡眠障がい		<input type="checkbox"/> 摂食障がい		<input type="checkbox"/> 双極性障がい		<input type="checkbox"/> 適応障がい		
	<input type="checkbox"/> 統合失調症		<input type="checkbox"/> 認知症		<input type="checkbox"/> パニック障害		<input type="checkbox"/> PTSD		
	<input type="checkbox"/> パーソナリティ障がい				<input type="checkbox"/> その他				
6 (主たる障がい)疾患名	<input type="radio"/> 脳血管疾患		<input type="radio"/> 外傷性脳損傷		<input type="radio"/> 脳性麻痺		<input type="radio"/> 神経疾患		
	<input type="radio"/> 脊髄損傷・疾患		<input type="radio"/> 変形性股・膝関節		<input type="radio"/> 関節リウマチ		<input type="radio"/> 切断		
	<input type="radio"/> その他外傷		<input type="radio"/> その他脳器質		<input type="radio"/> 難病等		<input type="radio"/> その他		
7 身体手帳等級	<input type="radio"/> 1級	<input type="radio"/> 2級	<input type="radio"/> 3級	<input type="radio"/> 4級	<input type="radio"/> 5級	<input type="radio"/> 6級	<input type="radio"/> 7級	<input type="radio"/> なし	
8 精神手帳等級	<input type="radio"/> 1級	<input type="radio"/> 2級	<input type="radio"/> 3級	<input type="radio"/> なし					
9 療育手帳等級	<input type="radio"/> A	<input type="radio"/> B	<input type="radio"/> なし						
10 障害支援区分	<input type="radio"/> 区分1	<input type="radio"/> 区分2	<input type="radio"/> 区分3	<input type="radio"/> 区分4	<input type="radio"/> 区分5	<input type="radio"/> 区分6	<input type="radio"/> なし	<input type="radio"/> 非該当	
11 その他診断書等	<input type="checkbox"/> 身体	<input type="checkbox"/> 精神	<input type="checkbox"/> その他	※サービス支給決定判断に至る診断書等					
12 要介護度	<input type="radio"/> 要支援1		<input type="radio"/> 要支援2		<input type="radio"/> 要介護1		<input type="radio"/> 要介護2		
	<input type="radio"/> 要介護3		<input type="radio"/> 要介護4		<input type="radio"/> 要介護5		<input type="radio"/> 非該当		
	<input type="radio"/> 未申請		<input type="radio"/> その他						
13 (主たる)利用意向									
14 (初期)到達目標									
15 利用日数(延べ日数)							0.0	ヶ月	
16 支援の到達度/終了の有無									

※上記「終了の有無」は【利用終了者】=退所済みの利用者、【利用終了予定者】=利用(支援)終了間際であり且つ地域生活(移行)・社会参加先がほぼ確定している利用者としてします。

項目 / Before After	利用開始時	利用終了時
17 主な利用形態		
項目 / Before After	利用開始前	利用終了後
18 生活拠点		
19 家族背景		

【2】 成果項目

※以下の社会参加項目に関しては日中活動状態です。

1回目

利用開始前

収入状況	年金等	<input type="checkbox"/> 障害基礎	<input type="checkbox"/> 障害厚生	<input type="checkbox"/> 老齢年金	<input type="checkbox"/> 共済年金	<input type="checkbox"/> 労災年金
		<input type="checkbox"/> その他年金		<input type="checkbox"/> 生活保護		
収入状況	他 収入	賃金等	<input type="checkbox"/> 労働収入	<input type="checkbox"/> 家族収入	<input type="checkbox"/> 休業手当(賃金)	<input type="checkbox"/> その他賃金
		雇用/健康/労災 保健給付等	<input type="checkbox"/> 傷病手当(雇用) <input type="checkbox"/> 休業補償(労災)	<input type="checkbox"/> 失業手当(雇用) <input type="checkbox"/> その他給付・手当	<input type="checkbox"/> 傷病手当金(健康)	
就労状況		<input type="checkbox"/> 正規職員	<input type="checkbox"/> 非正規職員	<input type="checkbox"/> 期限付き	<input type="checkbox"/> 自営	<input type="checkbox"/> その他雇用
		<input type="checkbox"/> 無職		<input type="checkbox"/> 休職中		
社会参加	介護保険	在宅(訪問)	<input type="checkbox"/> 訪問介護	<input type="checkbox"/> 訪問リハ	<input type="checkbox"/> その他訪問	
		在宅(通所)他	<input type="checkbox"/> 通所介護	<input type="checkbox"/> 通所リハ	<input type="checkbox"/> その他通所	
	障害者福祉	介護等給付	<input type="checkbox"/> 居宅介護 <input type="checkbox"/> 生活介護	<input type="checkbox"/> 行動援護 <input type="checkbox"/> 療養介護	<input type="checkbox"/> 同行援護 <input type="checkbox"/> その他介護等給付	<input type="checkbox"/> 放課後等デイ
		訓練等給付	<input type="checkbox"/> 機能訓練 <input type="checkbox"/> 就労継続B	<input type="checkbox"/> 生活訓練 <input type="checkbox"/> 就労定着	<input type="checkbox"/> 就労移行 <input type="checkbox"/> 自立生活援助	<input type="checkbox"/> 就労継続A <input type="checkbox"/> 他訓練等給付
		指定相談支援	<input type="checkbox"/> 計画相談	<input type="checkbox"/> 地域定着	<input type="checkbox"/> 地域移行	
	地域生活支援事業等	<input type="checkbox"/> 地活センター	<input type="checkbox"/> ナカポツセンター	<input type="checkbox"/> 基幹相談センター	<input type="checkbox"/> 他地域生活支援	
	地域参加	学校等	<input type="checkbox"/> 大学・高校(特別支援学校を除く)		<input type="checkbox"/> 特別支援学校	<input type="checkbox"/> 専修学校
その他		<input type="checkbox"/> 職業能力開発校	<input type="checkbox"/> その他学校		<input type="checkbox"/> 休学中	
医療	病院等	<input type="checkbox"/> 地域サークル	<input type="checkbox"/> 家事手伝い	<input type="checkbox"/> 活動なし	<input type="checkbox"/> 他フォーマル活動	
		<input type="checkbox"/> 入院治療・リハ	<input type="checkbox"/> 通院リハ	<input type="checkbox"/> 精神科デイケア	<input type="checkbox"/> その他医療	

2回目

利用終了後

収入状況	年金等	<input type="checkbox"/> 障害基礎	<input type="checkbox"/> 障害厚生	<input type="checkbox"/> 老齢年金	<input type="checkbox"/> 共済年金	<input type="checkbox"/> 労災年金
		<input type="checkbox"/> その他年金		<input type="checkbox"/> 生活保護		
収入状況	他 収入	賃金等	<input type="checkbox"/> 労働収入	<input type="checkbox"/> 家族収入	<input type="checkbox"/> 休業手当(賃金)	<input type="checkbox"/> その他賃金
		雇用/健康/労災 保健給付等	<input type="checkbox"/> 傷病手当(雇用) <input type="checkbox"/> 休業補償(労災)	<input type="checkbox"/> 失業手当(雇用) <input type="checkbox"/> その他給付・手当	<input type="checkbox"/> 傷病手当金(健康)	
就労状況		<input type="checkbox"/> 正規職員	<input type="checkbox"/> 非正規職員	<input type="checkbox"/> 期限付き	<input type="checkbox"/> 自営	<input type="checkbox"/> その他雇用
		<input type="checkbox"/> 無職		<input type="checkbox"/> 休職中		
社会参加	介護保険	在宅(訪問)	<input type="checkbox"/> 訪問介護	<input type="checkbox"/> 訪問リハ	<input type="checkbox"/> その他訪問	
		在宅(通所)他	<input type="checkbox"/> 通所介護	<input type="checkbox"/> 通所リハ	<input type="checkbox"/> その他通所	
	障害者福祉	介護等給付	<input type="checkbox"/> 居宅介護 <input type="checkbox"/> 生活介護	<input type="checkbox"/> 行動援護 <input type="checkbox"/> 療養介護	<input type="checkbox"/> 同行援護 <input type="checkbox"/> その他介護等給付	<input type="checkbox"/> 放課後等デイ
		訓練等給付	<input type="checkbox"/> 機能訓練 <input type="checkbox"/> 就労継続B	<input type="checkbox"/> 生活訓練 <input type="checkbox"/> 就労定着	<input type="checkbox"/> 就労移行 <input type="checkbox"/> 自立生活援助	<input type="checkbox"/> 就労継続A <input type="checkbox"/> 他訓練等給付
		指定相談支援	<input type="checkbox"/> 計画相談	<input type="checkbox"/> 地域定着	<input type="checkbox"/> 地域移行	
	地域生活支援事業等	<input type="checkbox"/> 地活センター	<input type="checkbox"/> ナカポツセンター	<input type="checkbox"/> 基幹相談センター	<input type="checkbox"/> 他地域生活支援	
	地域参加	学校等	<input type="checkbox"/> 大学・高校(特別支援学校を除く)		<input type="checkbox"/> 特別支援学校	<input type="checkbox"/> 専修学校
その他		<input type="checkbox"/> 職業能力開発校	<input type="checkbox"/> その他学校		<input type="checkbox"/> 休学中	
医療	病院等	<input type="checkbox"/> 地域サークル	<input type="checkbox"/> 家事手伝い	<input type="checkbox"/> 活動なし	<input type="checkbox"/> 他フォーマル活動	
		<input type="checkbox"/> 入院治療・リハ	<input type="checkbox"/> 通院リハ	<input type="checkbox"/> 精神科デイケア	<input type="checkbox"/> その他医療	

手段的日常生活活動 (IADL) 尺度

FALSE

項目	採点		得点	
	男性	女性	開始時	終了時
A 電話をする能力				
1. 自分から電話をかける(電話帳を調べたり、ダイヤル番号を回すなど)	1	1		
2. 2~3のよく知っている番号をかける	1	1		
3. 電話に出るが自分からかけることはない	1	1		
4. 全く電話を使用しない	0	0		
B 買い物				
1. 全ての買い物は自分で行う	1	1		
2. 小額の買い物は自分で行える	0	0		
3. 買い物に行くときはいつも付き添いが必要	0	0		
4. まったく買い物はできない	0	0		
C 食事の準備				
1. 適切な食事を自分で計画し準備し給仕する		1		
2. 材料が供与されれば適切な食事を準備する		0		
3. 準備された食事を温めて給仕する、あるいは食事を準備するが適切な食事内容を維持しない		0		
4. 食事の準備と給仕をしてもらう必要がある		0		
D 家事				
1. 家事を一人でこなす、あるいは時に手助けを要する(例: 重労働など)		1		
2. 皿洗いやベッドの支度などの日常的仕事はできる		1		
3. 簡単な日常的仕事はできるが、妥当な清潔さの基準を保てない		1		
4. 全ての家事に手助けを必要とする。		1		
5. 全ての家事にかかわらない		0		
E 洗濯				
1. 自分の洗濯は完全に行う		1		
2. ソックス、靴下のゆすぎなど簡単な洗濯をする		1		
3. 全て他人にしてもらわなければならない		0		
F 移送の形式				
1. 自分で公的機関を利用して旅行したり自家用車を運転する	1	1		
2. タクシーを利用して旅行するが、その他の公的輸送機関は利用しない	1	1		
3. 付き添いがいたり皆と一緒に公的輸送機関で旅行する	1	1		
4. 付き添いか皆と一緒に、タクシーか自家用車に限り旅行する	0	0		
5. まったく旅行しない	0	0		
G 自分の服薬管理				
1. 正しいときに正しい量の薬を飲むことに責任が持てる	1	1		
2. あらかじめ薬が分けて準備されておれば飲むことができる	0	0		
3. 自分の薬を管理できない	0	0		
H 財産取り扱い能力				
1. 経済的問題を自分で管理して(予算、小切手下記、掛け金支払、銀行へ行く)一連の収入を得て、維持する	1	1		
2. 日々の小銭は管理するが、預金や大金などでは手助けを必要とする	1	1		
3. 金銭の取扱いができない	0	0		
	合計得点		0	0
	利得		0	

(Lawton, M.P & Brody. E.M. Assessment of older people :Self Maintaining and instrumental activities of daily living. Geroulologist. 9: 179 168, 1969)

Recovery Assessment Scale(RAS)

	まったくそう思わない	そう思わない	どちらともいえない	そう思う	とてもそう思う
開始時					
1 生きがいがある	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5
2 不安があっても、自分のしたい生き方ができる	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5
3 自分の人生で起きることは、自分で何とかできる	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5
4 自分のことが好きだ	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5
5 人々が自分のことをよく知ったら、好ましく思ってくれるだろう	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5
6 自分がどんな人間になりたいかという考えがある	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5
7 自分の将来に希望を持っている	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5
8 いつも好奇心がある	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5
9 ストレスに対処することができる	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5
10 成功したいという強い願望がある	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5
11 元気でいたり、元気になったりするのための、自分なりの計画がある	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5
12 到達したい人生の目標がある	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5
13 現在の自分の目標を達成できると信じている	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5
14 手助けを求めた方がよいのがどのような時か、知っている	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5
15 手助けを求めてもかまわないと思う	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5
16 必要な時には、手助けを求める	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5
17 たとえ自分で自分のことを気にかけていなくても、他の人は私を気にかけてくれる	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5
18 何か良いことが、いつかは起きるだろう	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5
19 頼りにできる人がいる	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5
20 たとえ自分のことを信じていない時でも、他の人が信じてくれる	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5
21 さまざまな友達を持つことは、大切なことだ	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5
22 精神の病気に対処することは、いまでは私の暮らしで最も重要なことではない	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5
23 症状が私の生活の妨げとなることは、だんだん少なくなっている	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5
24 私の症状が問題になる時間の長さは、毎回短くなっているようだ	<input type="radio"/> 1	<input type="radio"/> 2	<input type="radio"/> 3	<input type="radio"/> 4	<input type="radio"/> 5

(Corrigan PW, Salzer M, Ralph RO, Sangster Y, Keck L. (2004). *Schizophr Bull*, 30(4), 1035-1041, 2004.

Chiba R, Miyamoto Y, Kawakami N. (2010). *Int J Nurs Stud*, 47(3), 314-322.

千葉理恵, 宮本有紀, 川上憲人. (2011). *精神科看護*, 38(2), 48-54.)

Life Space Assessment (LSA)

1回目	2回目
開始時	終了時
0	0
利得	

生活空間レベル 1	a.	この4週間、あなたは自宅で寝ている場所以外の部屋に行きましたか。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ
	b.	この4週間で、上記生活空間に何回行きましたか。	<input type="radio"/> 週1回未満 <input type="radio"/> 週4~6回	<input type="radio"/> 週1~3回 <input type="radio"/> 毎日
	c.	上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使用しましたか。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ
	d.	上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ
生活空間レベル 2	a.	この4週間、玄関外、ベランダ、中庭、(マンションの)廊下、車庫、庭または敷地内の通路などの屋外に出ましたか。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ
	b.	この4週間で、上記生活空間に何回行きましたか。	<input type="radio"/> 週1回未満 <input type="radio"/> 週4~6回	<input type="radio"/> 週1~3回 <input type="radio"/> 毎日
	c.	上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使用しましたか。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ
	d.	上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ
生活空間レベル 3	a.	この4週間、自宅の庭又はマンションの建物以外の近隣の場所に外出しましたか。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ
	b.	この4週間で、上記生活空間に何回行きましたか。	<input type="radio"/> 週1回未満 <input type="radio"/> 週4~6回	<input type="radio"/> 週1~3回 <input type="radio"/> 毎日
	c.	上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使用しましたか。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ
	d.	上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ
生活空間レベル 4	a.	この4週間、近隣よりも離れた場所(ただし町内)に外出しました。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ
	b.	この4週間で、上記生活空間に何回行きましたか。	<input type="radio"/> 週1回未満 <input type="radio"/> 週4~6回	<input type="radio"/> 週1~3回 <input type="radio"/> 毎日
	c.	上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使用しましたか。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ
	d.	上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ
生活空間レベル 5	a.	この4週間、町外に外出しました。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ
	b.	この4週間で、上記生活空間に何回行きましたか。	<input type="radio"/> 週1回未満 <input type="radio"/> 週4~6回	<input type="radio"/> 週1~3回 <input type="radio"/> 毎日
	c.	上記生活空間に行くのに、補助具または特別な器具を使用しましたか。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ
	d.	上記生活空間に行くのに、他者の助けが必要でしたか。	<input type="radio"/> はい	<input type="radio"/> いいえ
			合計得点	0

Parker M, Baker PS, Allman RM. A life-space approach to functional assessment of mobility in the elderly. Journal of Gerontological Social Work 2001; 34(4): 35-55.

実用的歩行能力分類(改訂版)

1回目		2回目	
開始時		終了時	
class		class	

実用的歩行能力分類	要件
class 6 「公共交通機関自立」 特に制限なく公共交通機関の利用が可能	電車やバス等の公共交通機関の利用に支障のないもの
class 5 「公共交通機関限定自立」 一定の条件下で、公共交通機関の利用が可能	①屋外歩行は自立 ②公共交通機関の利用は一定の経路や時間帯に限られるもの ③商店街など人通りの多いところでは、監視や介助を要するもの *①に加えて②または③に該当するもの⇒class 5
class 4 「屋外・近距離自立」 階段があっても外出可能で、慣れた場所なら屋外歩行も可能	①階段昇降は手すりがあれば自立 ②自宅周辺など慣れた場所での歩行は自立 ③安全性、耐久性に問題があり、長距離の歩行は困難なもの ④商店街など人通りの多いところでは、歩行が困難なもの *①と②に加えて③または④に該当するもの⇒class 4
class 3 「屋内・平地自立」 平地歩行は可能だが、階段や不整地では監視・介助が必要	①屋内など平地歩行は自立しているが、階段や不整地の歩行には監視または介助を要するもの ②階段では監視または介助を要するが、エレベーターなどを利用して病院や施設内の歩行は自立しているもの *①または②に該当するもの⇒class3
class 2 「平地・監視歩行」 屋内・平地なら監視または指示の下で歩行可能	①介助者は身体に触れず、監視または指示のみで歩行可能なもの ②歩行可能だが、安全性の問題などから監視を要するもの ③介助者が身体に軽く触れる程度の介助で歩行しているもの *①～③のいずれかに該当するもの⇒class 2
class 1 「介助歩行」 常に身体介助が必要	①患肢の振り出しに介助を要するもの ②介助者が体幹や上肢をしっかりと支えて歩行しているもの *①～②のいずれかに該当するもの
class 0 「歩行不能」 歩行または車椅子乗車不能	①まったく歩行できないもの。 ②療法士などが支えて訓練として歩行できる程度のもの *①または②に該当するもの⇒class0

第 46 回日本リハビリテーション医学会学術集会 (2009 年 6 月 4 日～6 日、静岡市)

横浜市総合リハビリテーションセンター

Kobayashi Hirota, Iwasaki Noriko, Takaoka Toru, Koike Junko, Ito Toshiyuki

「日本語版 WHOQOL26」

(copyright 1997 WHO/World Health Organization, CH 1211 GENEVA 27, SWITZERLAND.

Reproduction of this form by any means strictly prohibited. WHO QOL 26 Japanese Version [Translated by Miyako TAZAKI, Ph. D. and Yoshibumi NAKANE M. D., Dr. Med. Sci.]

参考文献

WHOQOL26 手引き改訂版 田崎美弥子・中根允文 著 発行／金子書房

「WHODAS2.0」

参考文献

Measuring Health and Disability

Manual for WHO Disability Assessment Schedule

健康及び障害の評価 WHO 障害評価面接基準マニュアル WHODAS2.0

田崎美弥子・山口哲生・中根允文 訳 発行／一般社団法人 日本レジリエンス医学研究所

資料2：プログラム調査票

調査項目

1、機能維持・向上訓練について

身体機能・認知機能の維持・向上に向けた訓練で、ICFの「心身機能・身体構造」へのアプローチを指します。実施した訓練内容すべてにチェックを入れてください。チェックした項目について、「形式」、「頻度」、「1回あたりの時間数」、「評価指標の有無」、「実感としての効果(職員・利用者)」についてもご回答ください。

No	項目	実施状況	形式(個別/集団/訪問)						評価指標	実感としての効果	
			個別頻度	個別時間	集団頻度	集団時間	訪問頻度	訪問時間		職員	利用者
1)	身体機能の維持・向上訓練	<input type="checkbox"/>									
2)	利き手交換訓練	<input type="checkbox"/>									
3)	高次脳機能・認知訓練	<input type="checkbox"/>									
4)	言語訓練	<input type="checkbox"/>									
5)	摂食・嚥下訓練	<input type="checkbox"/>									
6)	感覚統合訓練	<input type="checkbox"/>									
7)	記憶・情緒の安定	<input type="checkbox"/>									
8)	代替え手段の活用(手話、文字盤、メモリーノート、意思伝達装置の活用など)	<input type="checkbox"/>									
9)	その他	<input type="checkbox"/>									
↳具体的に											

2、ADL訓練について

日常生活を送るために最低限必要な日常的な活動(安全配慮、習慣化に向けた訓練を含む。そのため、認知機能の低下によりできなくなったそれらの行為ができるようにするための訓練や、習慣化に向けた訓練を含む)の向上を目的とした、日常生活活動訓練を指します。実施した訓練内容すべてにチェックを入れてください。チェックした項目について、「形式」、「頻度」、「1回あたりの時間数」、「評価指標の有無」、「実感としての効果(職員・利用者)」についてもご回答ください。

No	項目	実施状況	形式(個別/集団/訪問)						評価指標	実感としての効果	
			個別頻度	個別時間	集団頻度	集団時間	訪問頻度	訪問時間		職員	利用者
10)	起居訓練	<input type="checkbox"/>									
11)	転倒訓練	<input type="checkbox"/>									
12)	移乗	<input type="checkbox"/>									
13)	屋内移動	<input type="checkbox"/>									
14)	屋外移動	<input type="checkbox"/>									
15)	車いす操作	<input type="checkbox"/>									
16)	食事	<input type="checkbox"/>									
17)	更衣	<input type="checkbox"/>									
18)	排せつ	<input type="checkbox"/>									
19)	入浴	<input type="checkbox"/>									
20)	みだしなみ・整容	<input type="checkbox"/>									
21)	白杖操作	<input type="checkbox"/>									
22)	点字	<input type="checkbox"/>									
23)	その他	<input type="checkbox"/>									
↳具体的に											

3、IADL訓練について

より生活に密着した実践的な活動に対する訓練を指します(ADLと同様に、動作、安全配慮、習慣化等の単純な活動までを含む)。また、ここでは、「IADL尺度(Lawton他1969)」に基づいて項目立てしています。実施した訓練内容すべてにチェックを入れてください。チェックした項目について、「形式」、「頻度」、「1回あたりの時間数」、「評価指標の有無」、「実感としての効果(職員・利用者)」についてもご回答ください。

No	項目	実施状況	形式(個別/集団/訪問)						評価指標	実感としての効果	
			個別頻度	個別時間	集団頻度	集団時間	訪問頻度	訪問時間		職員	利用者
24)	電話の使用	<input type="checkbox"/>									
25)	買い物	<input type="checkbox"/>									
26)	調理	<input type="checkbox"/>									
27)	洗濯	<input type="checkbox"/>									
28)	掃除	<input type="checkbox"/>									
29)	その他家事(ゴミだし含む)	<input type="checkbox"/>									
30)	服薬管理	<input type="checkbox"/>									
31)	金銭・財産取り扱い(価値の理解・使い方)	<input type="checkbox"/>									
32)	公共交通機関の利用	<input type="checkbox"/>									
33)	自動車利用・運転	<input type="checkbox"/>									
34)	その他	<input type="checkbox"/>									
↳具体的に											

4、社会生活力訓練について

ここでは社会生活力プログラムマニュアル(SFA)(奥野他、2020)に基づき項目立てしていますが、小項目を目的とするすべての訓練を指します。そのため、マニュアルにある実施方法や形態に限定しておらず、また、グループプログラムだけでも限定していません。(IADL訓練に類似する項目のものについては、**より良い活動に参加を考慮して行うことが、ここに含まれます**)。実施した訓練内容すべてにチェックを入れてください。チェックした項目について、「形式」、「頻度」、「1回あたりの時間数」、「評価指標の有無」、「実感としての効果(職員・利用者)」についてもご回答ください。

No	項目	実施状況	形式(個別/集団/訪問)						評価指標	実感としての効果	
			個別頻度	個別時間	集団頻度	集団時間	訪問頻度	訪問時間		職員	利用者
35)	疾病・健康管理	<input type="checkbox"/>									
36)	食生活・栄養管理	<input type="checkbox"/>									
37)	セルフケア	<input type="checkbox"/>									
38)	生活リズム	<input type="checkbox"/>									
39)	安全・危機管理(災害時の対応方法含む)	<input type="checkbox"/>									
40)	金銭・財産管理(管理に関すること、銀行・役所の利用含む)	<input type="checkbox"/>									
41)	すまい	<input type="checkbox"/>									
42)	掃除・整理	<input type="checkbox"/>									
43)	買い物	<input type="checkbox"/>									
44)	服装	<input type="checkbox"/>									
45)	自己理解	<input type="checkbox"/>									
46)	障害の理解	<input type="checkbox"/>									
47)	人間関係(親の介護、近隣の方との付き合い方含む)	<input type="checkbox"/>									
48)	コミュニケーション(対人面、発声・発語練習は「1機能維持・向上訓練」でチェック)	<input type="checkbox"/>									
49)	教育と学習	<input type="checkbox"/>									
50)	就労生活	<input type="checkbox"/>									
51)	恋愛・結婚・子育て(性についても含む)	<input type="checkbox"/>									
52)	外出・余暇活動(通勤訓練は除く)	<input type="checkbox"/>									
53)	地域生活・参加	<input type="checkbox"/>									
54)	社会保障制度活用支援	<input type="checkbox"/>									
55)	障害福祉制度・サービス	<input type="checkbox"/>									
56)	介護保険制度・サービス	<input type="checkbox"/>									
57)	支援の活用(相談の仕方、生活資源活用含む)	<input type="checkbox"/>									
58)	権利の行使と擁護	<input type="checkbox"/>									
59)	その他	<input type="checkbox"/>									
↳(具体的に											

5、一般就労に向けた職業訓練について

就職や復職を目指す利用者に対する職業訓練や就労支援を指します。実施した訓練内容すべてにチェックを入れてください。チェックした項目について、「形式」、「頻度」、「1回あたりの時間数」、「評価指標の有無」、「実感としての効果(職員・利用者)」についてもご回答ください。

No	項目	実施状況	形式(個別/集団/訪問)						評価指標	実感としての効果	
			個別頻度	個別時間	集団頻度	集団時間	訪問頻度	訪問時間		職員	利用者
60)	職業前訓練(就労移行支援、就労継続支援A型の利用の見極めのための作業・創作活動含む)	<input type="checkbox"/>									
61)	職業訓練・復職訓練(通勤訓練含む)	<input type="checkbox"/>									
62)	就職活動支援(履歴書の書き方・面接練習など)	<input type="checkbox"/>									
63)	職場実習支援	<input type="checkbox"/>									
64)	資格取得のための訓練	<input type="checkbox"/>									
65)	その他	<input checked="" type="checkbox"/>									
↳(具体的に											

6、その他の訓練

実施した訓練内容すべてにチェックを入れてください。チェックした項目について、「形式」、「頻度」、「1回あたりの時間数」、「評価指標の有無」、「実感としての効果(職員・利用者)」についてもご回答ください。

No	項目	実施状況	形式(個別/集団/訪問)						評価指標	実感としての効果	
			個別頻度	個別時間	集団頻度	集団時間	訪問頻度	訪問時間		職員	利用者
66)	スポーツ活動	<input type="checkbox"/>									
67)	PCなどのICT活用	<input type="checkbox"/>									
68)	一般教養・教科学習	<input type="checkbox"/>									
69)	ソーシャルスキルトレーニング(手法であるため、既にチェックした小項目の再計となります)	<input type="checkbox"/>									
70)	音楽療法	<input type="checkbox"/>									
71)	園芸療法	<input type="checkbox"/>									
72)	アニマルセラピー	<input type="checkbox"/>									
73)	模擬生活訓練	<input type="checkbox"/>									
74)	家庭実習	<input type="checkbox"/>									
75)	その他	<input type="checkbox"/>									
↳(具体的に											

7、地域移行・社会参加に向けた支援について

地域移行や社会参加に向けた、訓練以外の様々な支援を指します。情報提供、制度活用等の補助、環境調整を含みます。実施した支援内容すべてにチェックを入れてください。チェックした項目について、「形式」、「頻度」、「1回あたりの時間数」、「評価指標の有無」、「実感としての効果(職員・利用者)」についてもご回答ください。

No	項目	実施状況	形式(個別/集団/訪問)						評価指標	実感としての効果	
			個別頻度	個別時間	集団頻度	集団時間	訪問頻度	訪問時間		職員	利用者
76)	サービス担当者会議(開催・参加)・関係機関との調整	<input type="checkbox"/>									
77)	住環境面の改善(住宅改造、福祉用具の購入など)	<input type="checkbox"/>									
78)	医療機関・事業所探し・選定支援(相談支援・ケアマネ・日中活動)	<input type="checkbox"/>									
79)	事業所見学同行	<input type="checkbox"/>									
80)	事業所利用体験実習支援(グループホーム、入所施設含む)	<input type="checkbox"/>									
81)	求職活動(職場探し・選定)の支援	<input type="checkbox"/>									
82)	職場見学同行	<input type="checkbox"/>									
83)	職場体験実習同行	<input type="checkbox"/>									
84)	職場との調整	<input type="checkbox"/>									
85)	就労中の職場との調整・生活支援	<input type="checkbox"/>									
86)	その他の同行支援	<input type="checkbox"/>									
87)	住まい探し(不動産等仲介業者への同行、物件の見学同行など、サ高住等含む)	<input type="checkbox"/>									
88)	契約行為等の手続き	<input type="checkbox"/>									
89)	消費者トラブルなど危険回避	<input type="checkbox"/>									
90)	職場・地域等周囲の理解促進	<input type="checkbox"/>									
91)	地域生活の中でのレクリエーション・余暇活動支援(機会や場の提供も含む)	<input type="checkbox"/>									
92)	各種制度の活用	<input type="checkbox"/>									
93)	その他	<input type="checkbox"/>									
	↳(具体的に										

8、家族支援について

家族を対象とした訓練・支援を指します。実施した支援内容すべてにチェックを入れてください。チェックした項目について、「形式」、「頻度」、「1回あたりの時間数」、「評価指標の有無」、「実感としての効果(職員・利用者)」についてもご回答ください。

No	項目	実施状況	形式(個別/集団/訪問)						評価指標	実感としての効果	
			個別頻度	個別時間	集団頻度	集団時間	訪問頻度	訪問時間		職員	利用者
94)	障害理解促進(個別対応・学習・講座含む)	<input type="checkbox"/>									
95)	相談対応	<input type="checkbox"/>									
96)	その他	<input type="checkbox"/>									
	↳(具体的に										

9、地域貢献活動について

利用者に対する訓練・支援や利用者とともに行う活動等を通して、地域住民の理解を高めたり、地域での役割を持つなど、地域でともに生きる環境を作る活動や支援を指します。実施した支援内容すべてにチェックを入れてください(再計となります:利用者に対する訓練項目にチェックしたのものについて、以下の該当するものにチェックしてください)。チェックした項目について、「形式」、「頻度」、「1回あたりの時間数」、「評価指標の有無」、「実感としての効果(職員・利用者)」についてもご回答ください。

No	項目	実施状況	形式(個別/集団/訪問)						評価指標	実感としての効果	
			個別頻度	個別時間	集団頻度	集団時間	訪問頻度	訪問時間		職員	利用者
97)	地域等に対するボランティア活動	<input type="checkbox"/>									
98)	他の障害者等に対するピアサポート活動	<input type="checkbox"/>									
99)	利用者が(と共に)行う地域交流活動	<input type="checkbox"/>									
100)	利用者が(と共に)行う地域づくり活動	<input type="checkbox"/>									
101)	その他	<input type="checkbox"/>									
	↳(具体的に										

参考文献

吉永勝訓ほか(2019) 自立訓練(機能訓練、生活訓練)の実態把握に関する調査研究, 厚生労働省 平成30年度障害者総合福祉推進事業

令和2年度厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）

分担 研究報告書

機能訓練での標準化された評価手法の確立へ向けた試験調査に関する研究

研究代表者	菊地 尚久	千葉県千葉リハビリテーションセンター	センター長
研究分担者	田中 康之	千葉県千葉リハビリテーションセンター	地域リハ推進部長
研究協力者	三好 尉文	国立障害者リハビリテーションセンター	総合相談支援部長
	青木 一男	神奈川県総合リハビリテーションセンター	七沢自立支援ホーム副所長
	篠山 潤一	兵庫総合リハビリテーションセンター	自立生活訓練部部长
	篠原 正倫	千葉県千葉リハビリテーションセンター	更生園支援部部长

研究要旨

機能訓練では、地域生活を営む上で身体機能・生活能力の維持・向上等のため 理学療法、作業療法などのリハビリテーション、生活等に関する相談及び助言等の支援を提供しているが、利用意向や帰結が障害種別によって多様性があることが先行研究からわかっている。そして、目標達成に向けた支援を行うにあたり、帰結だけではプログラム提供の効果測定ができない。また、機能訓練の標準的なアウトカム評価がないことから、事業所によって評価指標や評価基準に相違がある。当研究において標準的な評価指標について検討するための試験調査として、特定の事業所を対象に、既存の評価指標を用いて、機能訓練の効果に対する調査を実施した。この調査結果をもとに、設問や分析方法の修正を行ったうえで、令和3年度に本調査を行い、最終的には、標準的な評価指標を作成することを目指す。

A. 研究目的

機能訓練は十分な効果がある支援プログラムにより行われるべきであり、この効果を実証するための標準的な評価手法があるべきである。「自立訓練の実態把握に対する調査研究」の報告からはそれぞれの事業所により訓練内容や質が異なること、社会リハビリテーションの内容の広さもあって、適切に標準化された評価手法が確立されていないことが課題として挙げられている。本研究はそれぞれの事業所において標準的な評価手法のもとに十分な効果がある支援プログラムが利用者全てに適用されることを目的として行う。

令和2年度の研究においては、機能訓練の提供サービスに適した評価項目を検証するため、既存

の評価指標を用い試験的に調査し、評価項目ごとの傾向を分析し、次年度実施予定の大規模調査の調査票を完成させるために必要な情報収集を行うことを目的とする。

B. 研究方法

1. 対象

研究分担者・研究協力者の事業所及び研究協力団体(12事業所/83事例)

2. 調査内容

評価指標調査票に従い、機能訓練事業所の支援者及び利用者に対し、過去の評価データと聞き取りにて回答してもらった。

3. 方法

基礎項目として性別、年齢、家族背景、疾患名、障害名、障害者手帳、支援区分、介護区分の他、利用意向や支援の到達度。成果項目として社会参加、収入状況などの生活状況。評価項目として既存指標である FIM、IADL 尺度、RAS、WHO/QOL26、WHODAS、LSA、実用的歩行能力分類の 7 指標を用い収集したデータをクリーニングした後に、利用前後での変化、各因子の相関等について解析した。

4. 調査期間

令和 2 年 11 月 24 日～令和 3 年 1 月 10 日

5. 倫理面への配慮

調査対象となる利用者は匿名にてデータ収集を行い、分析の際には統計処理したデータを使用した。

C. 調査結果

1. 基本項目

本調査における対象者の属性ほか基礎項目については以下の通りであった。

(1) 性別と年齢

調査対象者の性別は、総数 83 名に対して男性が 80.7%、女性が 19.3%となっていた。(図 1)

また年齢分布は、20代が 10.8%、30代が 12.0%、40代が 34.9%、50代が 33.7%となっており、40代～50代で全体の約 7割を占めていた。(図 2)

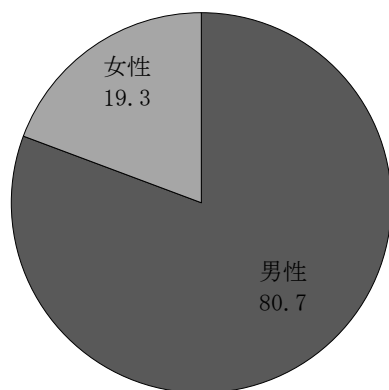


図 1:対象者の性別の割合 (n=83)

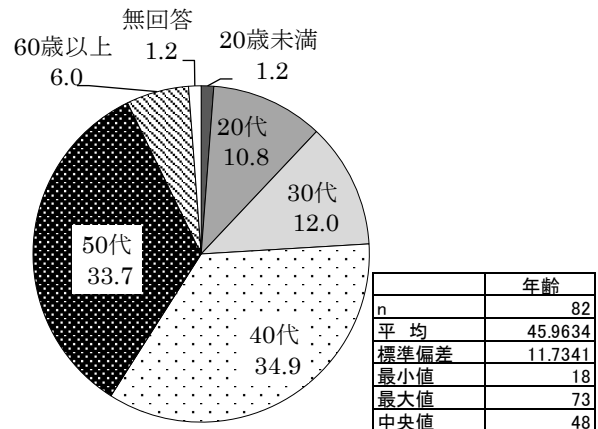


図 2:対象者の年齢分布 (n=83)

(2) 主たる障害と重複障害

主たる障害 (単一回答) については、「肢体 (下肢)」が 36.1%と最も多くなっており、これに続いて「肢体 (上肢)」が 28.9%、「視覚」が 15.7%、「高次脳機能」が 12.0%となっていた。

また重複障害 (複数回答) では、「肢体 (下肢)」が 43.4%、「肢体 (上肢)」が 38.6%、「高次脳機能」が 34.9%となっていた。(図 3)

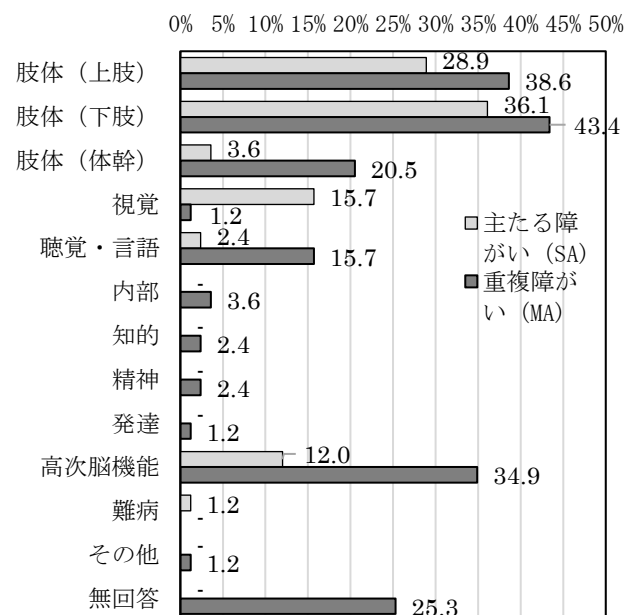


図 3:主たる障害・重複障害 (n=83)

(3) 精神分類

精神分類については、無回答が 76 名と多くなっ

ているが、回答においては「うつ病」が2.4%であり、その他「依存症」や「解離性障害」「強迫性障害」「睡眠障害」「統合失調症」「認知症」であった。

(図4)

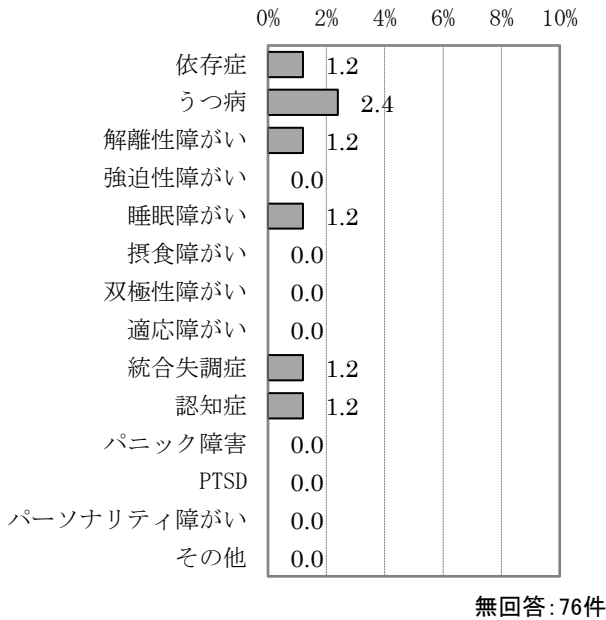


図4:精神分類 (n=83)

(4) 疾患名

疾患名では「脳血管疾患」が48.2%と最も多く、次いで「脊髄/頸髄損傷・疾患」が20.5%となっており、その他「外傷性脳損傷」や「脳性まひ」「難病等」となっていた。(図5)

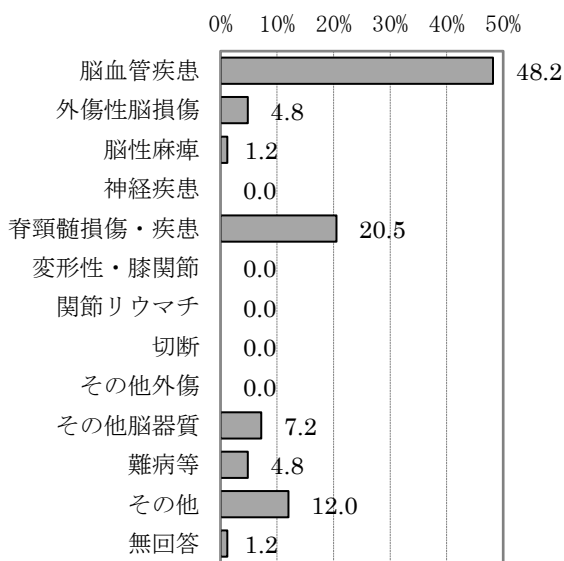


図5:対象者の疾患名 (n=83)

(5) 身体障害者手帳

対象者の身体障害者手帳の等級は「1級」が51.8%と最も多く、「2級」は30.1%となっており、「なし」と回答した方の割合は8.4%であった。

(図6)

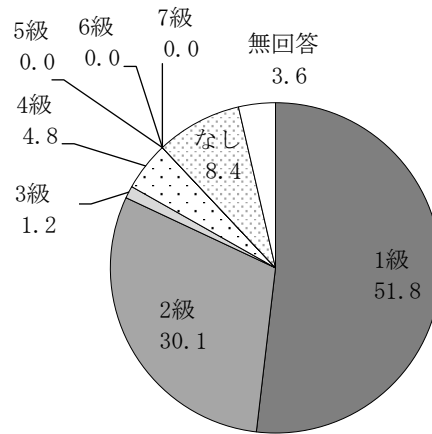


図6:身体障害者手帳の等級 (n=83)

(6) 精神障害者保健福祉手帳

対象者の精神障害者保健福祉手帳の等級については「なし」が44.6%となっており、「2級」で8.4%となっていた。(図7)

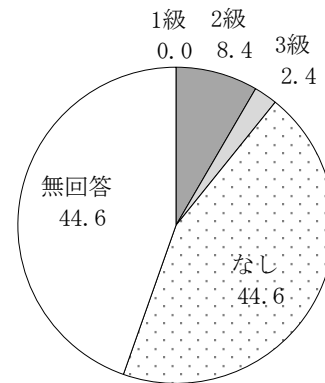


図7:精神障害者保健福祉手帳の等級 (n=83)

(7) 療育手帳

対象者の療育手帳の等級については「なし」が48.2%であった。(図8)

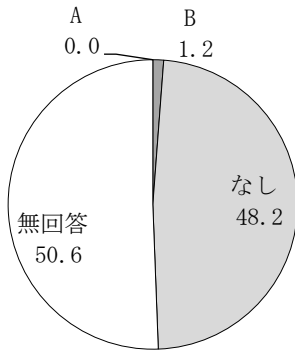


図 8:療育手帳の等級 (n=83)

(8) 障害支援区分

対象者の障害支援区分では「区分 3」が 21.7%で最も多く、次いで「区分 2」が 10.8%、「区分 4」および「区分 6」が 9.6%となっていた。(図 9)

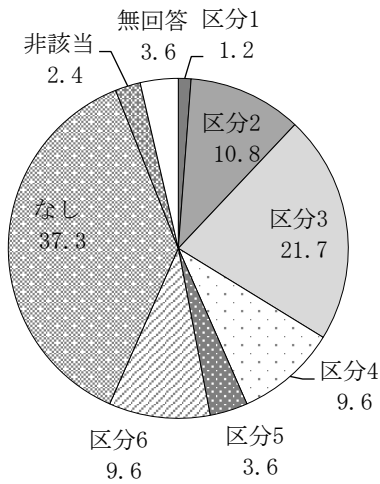


図:9 障害支援区分 (n=83)

(9) その他診断書など

対象者のその他診断書などでは「身体」が 26.5%で「精神」が 10.8%となっていた。(図 10)

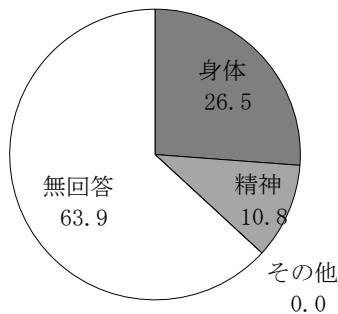


図 10 : その他診断書など (n=83)

(10) 要介護度

対象者の要介護度は「要介護 2」が 13.3%と最も多くなっており、次いで「要介護 1」が 8.4%となっていた。また「非該当」は 14.5%、「未申請」は 26.5%となっていた。(図 11)

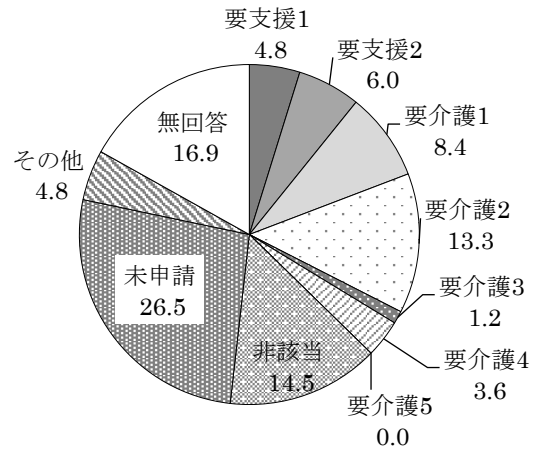


図 11:要介護度 (n=83)

2. 利用状況

本調査における対象者の利用状況については以下の通りであった。

(1) 利用意向と到達目標

調査対象者の利用意向は、「就労・就学への支援」が 32.5%と最も多く、次いで「身体機能の維持・向上」が 15.7%、「家庭復帰・地域生活移行への支援」が 13.3%となっていた。

また到達目標では、「身体機能の維持・向上」が 26.5%と最も多く、次いで「ADL・IADL の向上」が 24.1%、「移動方法の獲得・範囲の拡大」が 13.3%となっていた。(図 12)

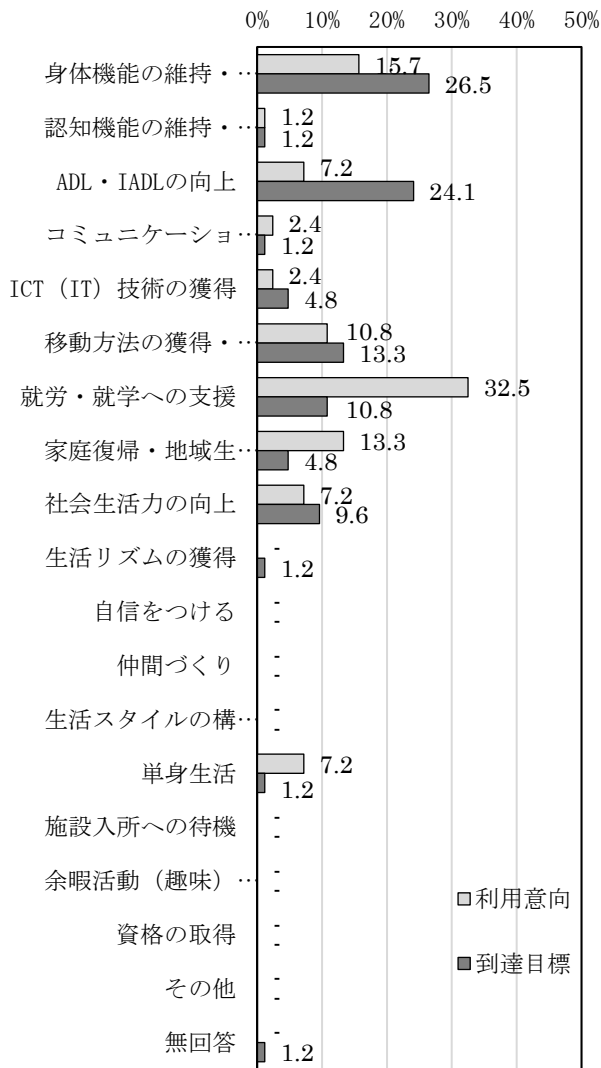


図 12: 利用意向と到達目標 (n=83)

(2) 利用日数

利用日数は「360～480 日未満」が 31.3%と最も多く、全体の 3 割を占めていた。平均日数は 355.8 日であった。(図 13)

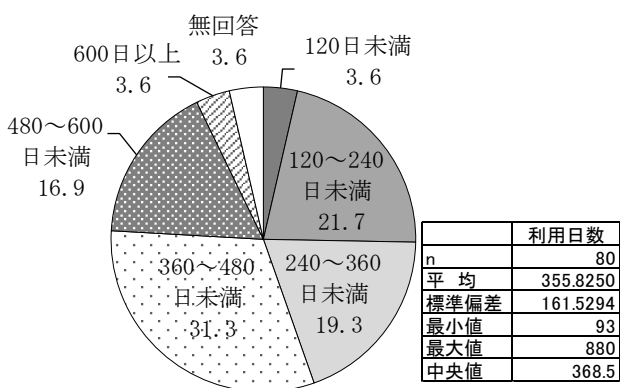


図 13: 利用日数 (n=83)

(3) 利用形態

利用形態では、開始時は「施設入所支援」が 75.9%であるのに対し、終了時では 59.0%と低下し、一方で「通所支援」は開始時 14.5%であったものが終了時には 32.5%と増加していた。(図 14)

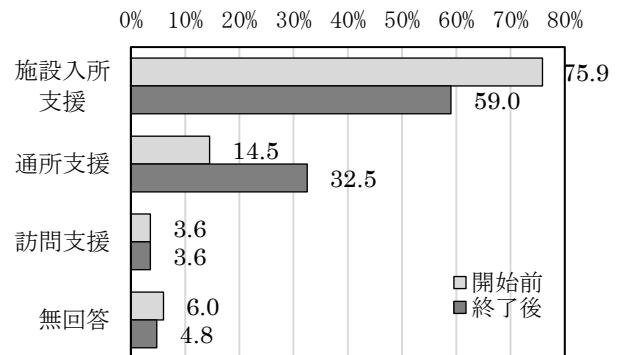


図 14: 利用形態 (n=83)

(4) 生活拠点

生活拠点は、開始時は「家族同居」が 45.8%であったものが、終了時には 60.2%と増加した。(図 15)

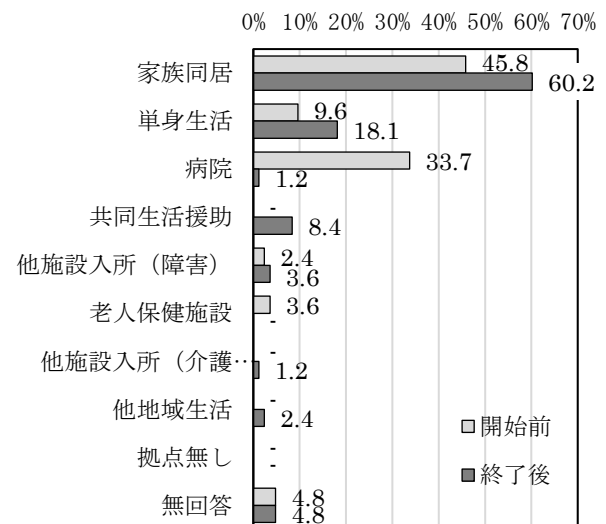


図 15: 生活拠点 (n=83)

(5) 家族背景

家族背景では、「単身」が訓練の開始前は 19.3%であったものが、終了時には 27.7%と増加しており、また「配偶者 (子供) と同居」は開始前 43.4%であったものが終了時 34.9%と減少、「両親 (兄弟)

と同居」も開始前 24.1%から終了時 21.7%へと減少していた。(図 16)

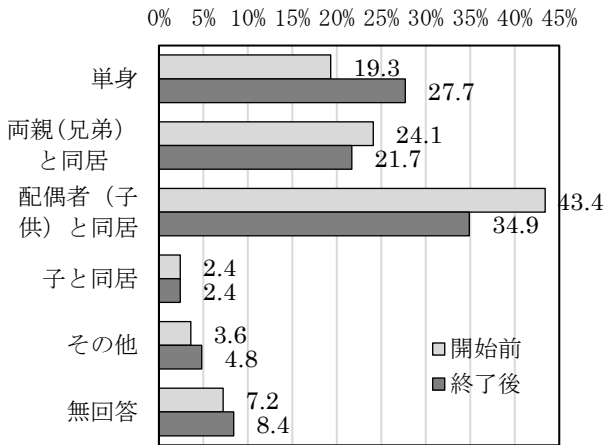


図 16: 家族背景(n=83)

3. 利用結果

本調査における対象者の利用結果について、以下の通りまとめた。

(1) 支援の到達度

支援の到達度では「目標が達成できた」が 28.9%であり、「75%以上目標を達成できた」が 43.4%となっていた。これらを合わせると全体の 7 割となっている。(図 17)

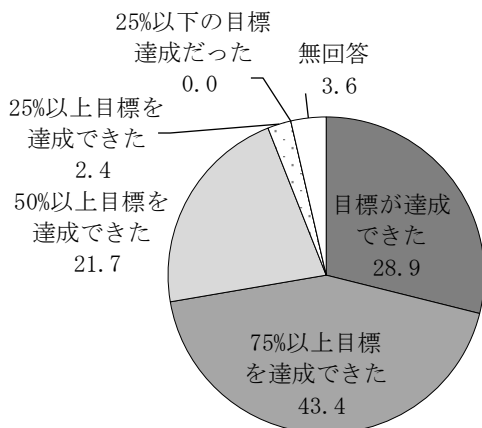


図 17: 支援の到達度(n=83)

(2) 社会参加の状況

社会参加の状況を見ると、訓練開始前は「活動なし」が 25.3%と最も多く、次いで「機能訓練」が 14.5%、「計画相談」が 13.3%となっていたが、

訓練終了後になると「計画相談」26.5%に続いて、「就労移行」が 18.1%、また「就労継続支援 B 型」も 13.3%となっていた。(図 18)

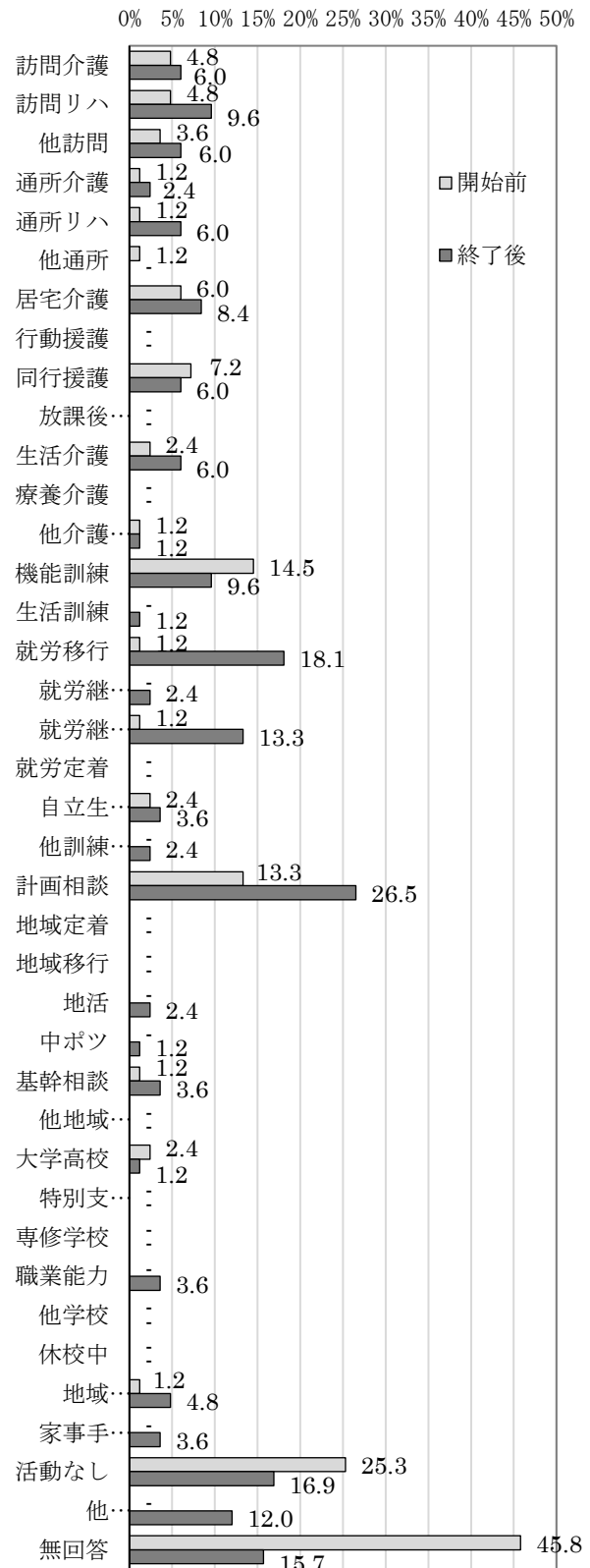


図 18: 社会参加の状況(n=83)

(3) 就労状況

就労状況では、訓練開始前は「休職中」が38.6%、「無職」が36.1%となっており、これに「正規職員」が28.9%と続いていたところ、訓練終了時には「無職」が54.2%と半数以上となり、「休職中」が15.7%、「正規職員」も22.9%と低下していた。(図19)

なお、この就労状況における「訓練開始前」とは受傷・発症前の状況を指しており、実際の利用前との比較では、全ての利用者が休職又は無職の状態であったことから、利用終了後に21.7%の人が復職又は復職した。

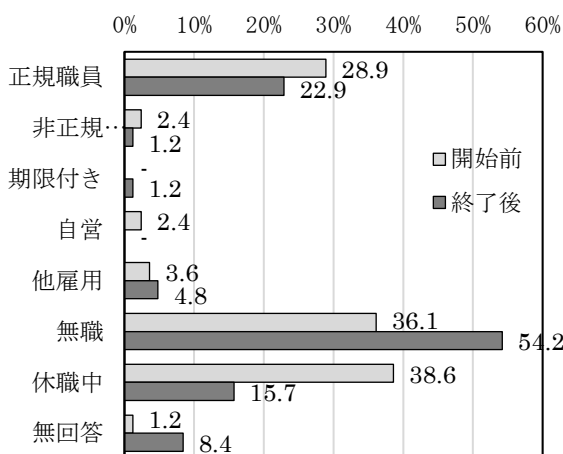


図19:就労状況(n=83)

(4) 収入状況

収入状況について、訓練開始前後での年金などの収入状況をみると、「障害厚生年金」は訓練開始前の7.2%から訓練終了後には32.5%に上昇しており、「障害基礎年金」も訓練開始前の10.8%から訓練終了後には27.7%に上昇していた。(図20)

また訓練開始前後での他の収入状況では、訓練開始前には「傷病手当(雇用)」が25.3%、「家族収入」が22.9%、「傷病手当金(健康)」が21.7%となっていた。訓練終了後は「家族収入」は変化なく、「傷病手当(雇用)」は8.4%に、「傷病手当金(健康)」は12.0%にそれぞれ減少していた。その一方で、「労働収入」は訓練開始前6.0%から訓練

終了後12.0%へと上昇していた。(図21)

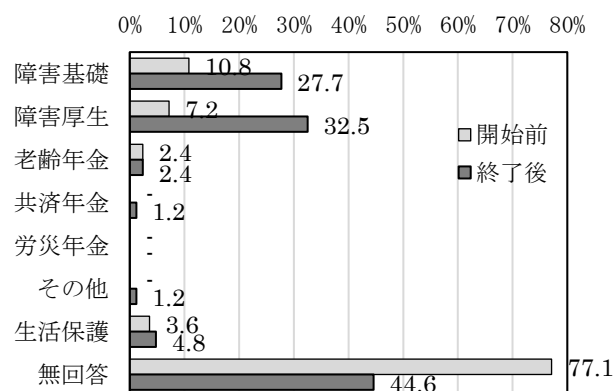


図20:年金など収入状況(n=83)

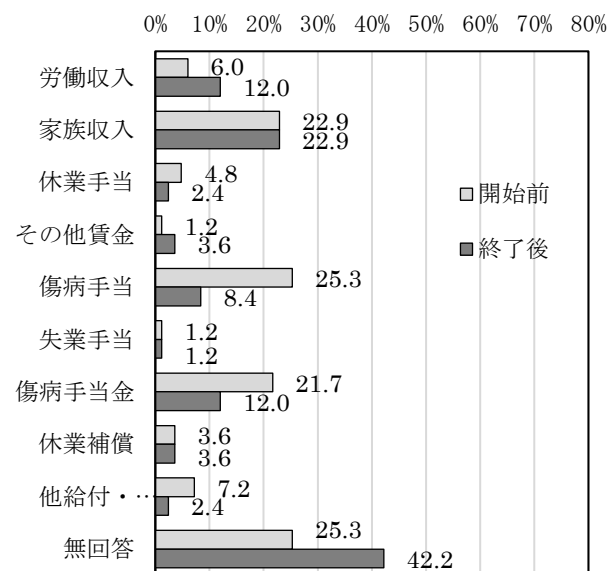


図21:他の収入状況(n=83)

4. 評価指標調査結果

(1) 偏差値を用いた各指標の項目ごとの変化

本調査では、採点方法や得点の分布傾向の異なる複数の評価指標を比較するために、以下の数式にて偏差値を求め、それを基に分析した。

$$\frac{(\text{終了時平均値}) - \text{平均点}(\text{開始時平均値}) \times 10}{\text{標準偏差}(\text{開始時標準偏差})}$$

※0を標準値とする(50とない)

※WHO/QOLの一部の項目、WHO/DASの全ての項目については、減点による評点であるため、分子を「開始時平均値-終了時平均値×10」とした。

また、標準偏差の縮小が、利用者が同じ環境である自立訓練を利用することによる変化であることも捉えられることから、標準偏差縮小率を参考値として分析した。偏差値がプラスとなっている場合に、標準偏差が縮小している場合（向上方向に集中している場合）は、より効果が認められたと捉えた。

※縮小率とは、開始時に対する終了時の数値の縮小した割合と指す。

1) 機能的自立度評価(FIM)

全体では、偏差値で 5.1 ポイントの向上があつ

た。また、ADLに、認知面ともに向上が見られ、やや認知面での向上が大きかった。具体的項目では「歩行・車いす」の向上が最も大きく、次いで「問題解決」「清拭」「社会的交流」の順に向上・改善があった。

また、標準偏差縮小率を見ると、いずれの項目においても向上方向への集中が見られ、特に「整容」「歩行・車椅子」の集中が大きかった。(図 22)

実際の利得値では、合計値で 8.3 ポイントの向上が認められ、ADL合計が 6.2 ポイント、認知合計が 2.1 ポイントであった。(図 23)

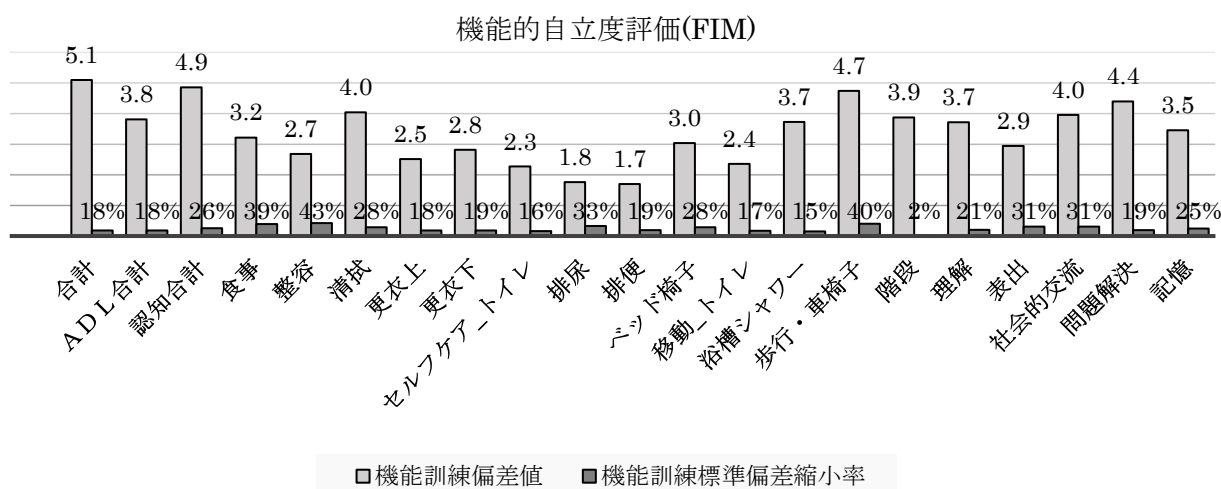


図 22:FIM 偏差値・標準偏差縮小率

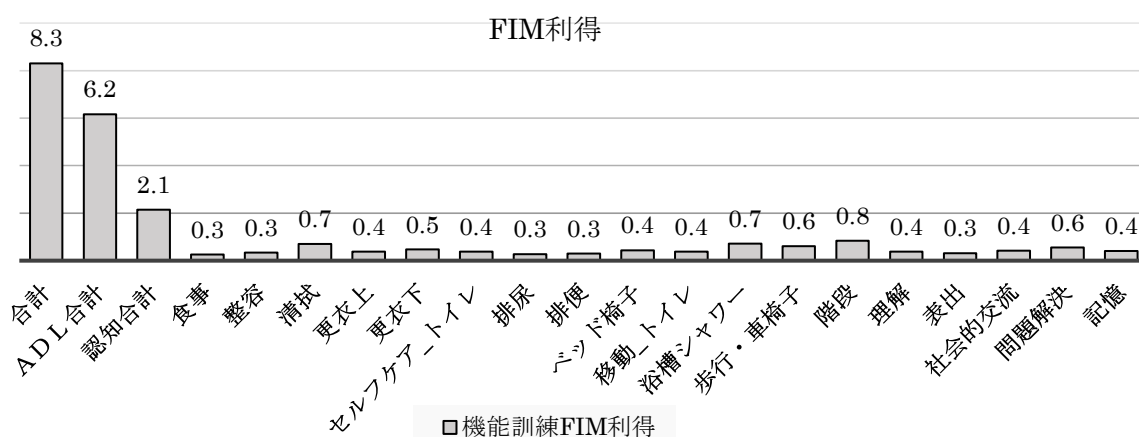


図 23:FIM 利得

2) 手段的日常生活活動(IADL)尺度

全体では7.8ポイントの向上があった。具体的項目では「移送の形式」の向上が最も大きく7.6ポイント、次いで「買い物」が6.2ポイント、「服薬管理」が6.2ポイントであった。IADL尺度では、

「食事の準備」「家事」「洗濯」が女性のみを対象とした項目では、「食事の準備」が最も向上・改善が認められた。標準偏差縮小率では、「食事の準備」の幅の広がりが大きかった。(図24)

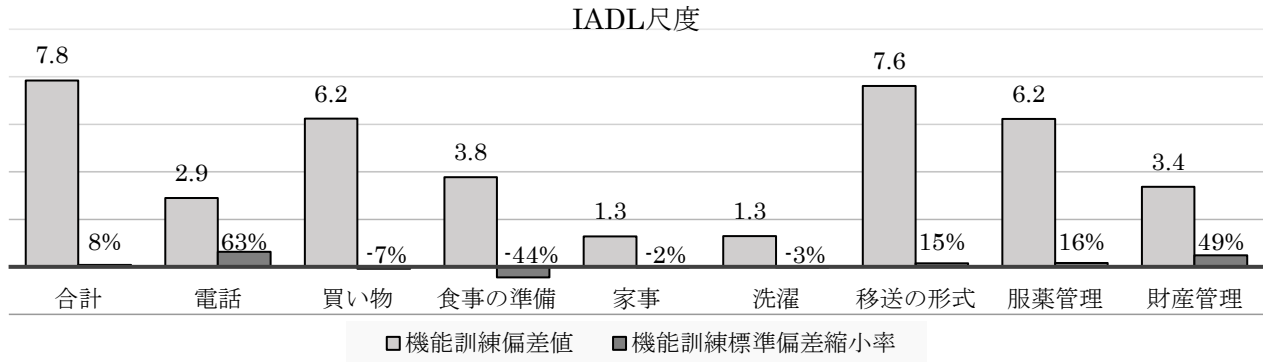


図24:IADL尺度偏差値・標準偏差縮小率

3) Recovery Assessment Scale (RAS)

全体では8.8ポイントの向上があった。具体的項目では「自己実現力」の向上が最も大きく8.0ポイント、次いで「課題解決力」が7.8ポイント、「援助依頼(必要性の判断)」が7.7ポイント、「ハンディキャップ意識の低下」が7.6ポイントであった。

標準偏差縮小率では、いずれの項目においても向上方向への集中が見られた。(図25)

なお、各項目の表現については表1の通り簡略化した。

原文	簡略化後の表現
1 生きがいがある	生きがい
2 不安があっても、自分のしたい生き方ができる	自己実現力
3 自分の人生で起ることは、自分で何とかできる	課題解決力
4 自分のことが好きだ	自己満足度
5 人々が自分のことをよく知ったら、好ましく思ってくれるだろう	人間関係への自信
6 自分がどんな人間になりたいかという考えがある	将来展望
7 自分の将来に希望を持っている	自己肯定感
8 いつも好奇心がある	好奇心
9 ストレスに対処することができる	ストレス対処
10 成功したいという強い願望がある	成功願望
11 元気がいたり、元気になったりするのための、自分なりの計画がある	生活設計
12 到達したい人生の目標がある	人生目標
13 現在の自分の目標を達成できると信じている	目標達成への自信
14 手助けを求めた方がよいのがどのような時か、知っている	援助依頼(必要性の判断)
15 手助けを求めてもかまわないと思う	援助依頼(積極性)
16 必要な時には、手助けを求める	援助依頼(実行力)
たとえ自分で自分のことを気にかけていなくても、他の人は私を気にかけてくれる	共生感
17 何か良いことが、いつかは起きるだろう	楽観性
18 頼りにできる人がいる	支援者の存在
19 たとえ自分のことを信じていない時でも、他の人が信じてくれる	他者との信頼関係
21 さまざまな友達を持つことは、大切なことだ	友人意識
22 精神の病気に対処することは、いまでは私の暮らして最も重要なことではない	障害の重要度の低下
23 症状が私の生活の妨げとなることは、だんだん少なくなっている	ハンディキャップ意識の低下
24 私の症状が問題になる時間の長さは、毎回短くなっているようだ	障害の負担感の低下

表1:RAS原文の簡略化

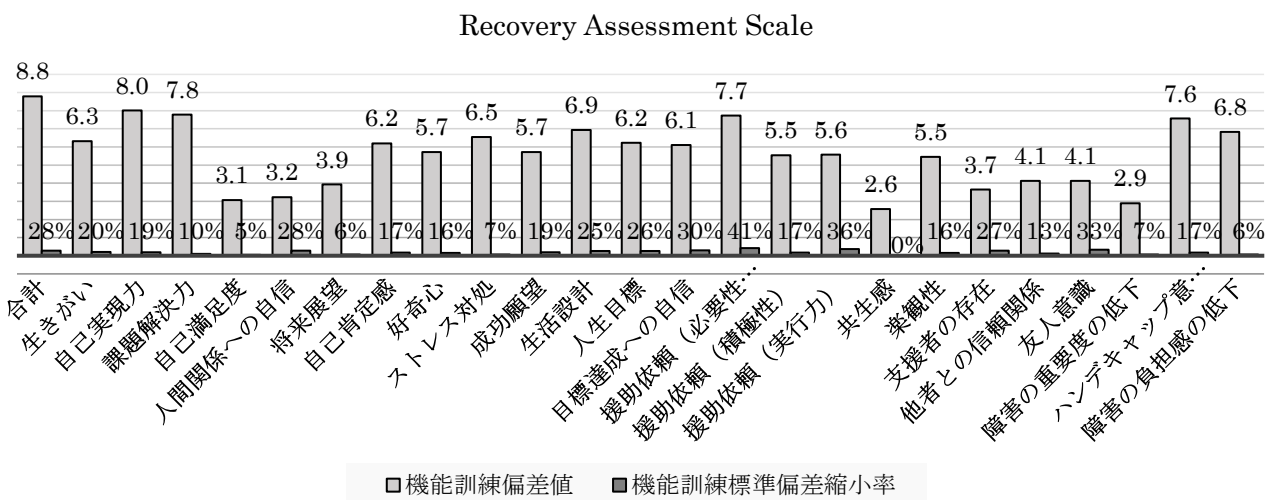


図25:RAS偏差値・標準偏差縮小率

4) WHOQOL 26

全体では 10.3 ポイントの向上があった。具体的項目では「近隣外出の機会」の向上が最も大きく 10.7 ポイント、次いで「情報を得る機会」が 10.1 ポイント、「領域IV環境」が 9.7 ポイント、「生活の質の評価」が 9.5 ポイントであった。

標準偏差縮小率では、多くは僅かではあるが向上方向への集中が認められた。(図 26)

なお、各項目の表現については表 2 の通り簡略化した。

原文	原文カテゴリ	簡略化後の表現
1 1 自分生活の質をどのように評価しますか	全体	生活の質の評価
2 2 自分の健康状態に満足していますか	全体	健康状態の満足度
3 3 身体の不満や不快感のせいで、しなければならないことがどのくらい制限されていますか	身体的領域	障害による活動制限の緩和
4 4 毎日の生活の中で医療(医療)がどのくらい必要ですか	身体的領域	医療の必要度の軽減
5 5 毎日の生活をどのくらい楽しく過ごしていますか	心理的領域	生活の充実度
6 6 毎日の生活をどのくらい意味あるものと感じていますか	心理的領域	生活の意義の実感
7 7 物事にどのくらい集中することができますか	心理的領域	集中力
8 8 毎日の生活はどのくらい安全ですか	環境	生活の安全度
9 9 あなたの生活環境はどのくらい健康的ですか	環境	健康的な生活環境
10 10 毎日の活動を送るための活力がありますか	身体的領域	生活する活力
11 11 自分の容姿(外見)を気に入ることができますか	心理的領域	外見(容姿)の受容
12 12 必要なものが揃うだけのお金を持っていますか	環境	経済的余裕
13 13 毎日の生活に必要な情報をどのくらい得ることができますか	環境	情報を得る機会
14 14 余暇を楽しむ機会はどのくらいありますか	環境	余暇機会
15 15 家の周囲を歩むことがよくありますか	身体的領域	近隣外出の機会
16 16 睡眠は満足のものですか	身体的領域	睡眠の満足度
17 17 毎日の活動をやりに進める能力に満足していますか	身体的領域	活動力の満足度
18 18 自分の仕事をやる能力に満足していますか	身体的領域	労働力の満足度
19 19 自分自身に満足していますか	心理的領域	自己満足度
20 20 人間関係に満足していますか	心理的領域	人間関係満足度
21 21 性生活に満足していますか	社会的領域	性生活への満足度
22 22 友人からの支えに満足していますか	社会的領域	友人への満足度
23 23 家と家まわりの環境に満足していますか	環境	自宅環境満足度
24 24 医療サービスやサービスの利用しやすさに満足していますか	環境	医療・福祉満足度
25 25 周辺との交流の便に満足していますか	環境	移動環境満足度
26 26 気分がすくなくったり、絶望、不安、落ち込みといったいやな気分をどのくらいひんぱんに感じますか	心理的領域	心理的負担の軽減

表 2: WHOQOL 原文の簡略化

WHO QOL 26

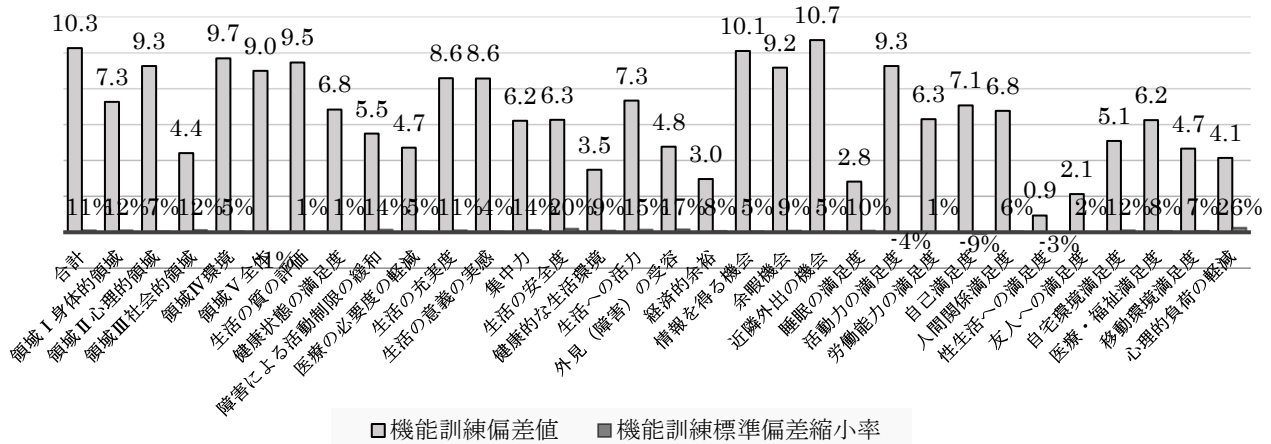


図 26: WHO/QOL 偏差値・標準偏差縮小率

5) WHODAS 2.0

単純合計では 7.4 ポイント、複雑合計 1 では 8.0 ポイント、複雑合計 2 では 7.7 ポイントの向上があった。具体的項目では「屋外近隣移動」の向上が最も大きく 7.3 ポイント、次いで「家事活動(自立度)」「可動性小計」6.4 ポイント、「家庭での役割」「可動性小計」が 5.8 ポイントであった。

標準偏差縮小率では、多くは向上方向に集中していた。(図 27)

なお、各項目の表現については表 3 の通り簡略化した。

原文	原文カテゴリ	簡略化後の表現
1.1 何かをするとき、10分間集中する	認知	集中力
1.2 大切なことを覚えている	認知	記憶力
1.3 日常生活の問題を分析して解決法を見つける	認知	理解解決力
1.4 新しい課題、例えば初めての場所へ行く方法を学ぶ	認知	学習能力
1.5 知らない言葉や用語を聞き、覚える	認知	理解力
1.6 自ら会話を始めたり続ける	認知	会話能力
2.1 長時間(30分以上)立っている	可動性	立位能力
2.2 歩いているところから立ち上がる	可動性	立ち上がり
2.3 車の中で立ち回る	可動性	車内移動能力
2.4 家の外に出ていく	可動性	屋外近距離移動
2.5 1kmほどの長距離を歩く	可動性	屋外遠距離移動
3.1 全身を洗う	セルフケア	活動力(身体)
3.2 髪を洗う	セルフケア	活動力(髪)
3.3 食事を摂る	セルフケア	活動力(食料)
3.4 数日間一人で過ごす	セルフケア	身辺自立度
4.1 見知らぬ人に応対する	他者交流	コミュニケーション力
4.2 友人関係を築く	他者交流	交友関係維持
4.3 新しい人々と交流をする	他者交流	身辺外との交流
4.4 新しい友人を作る	他者交流	新しい友人を作る
4.5 性行為をする	他者交流	性行為
5.1 家庭で要求される作業を行う	日常生活	家庭での役割
5.2 最も大切な家事をこなす	日常生活	家事活動(重要)
5.3 なすべそ全ての家事労働を片付ける	日常生活	家事活動(自立度)
5.4 必要に応じてできるだけ早く家事労働を終わらせる	日常生活	家事活動(効率性)
5.01 健康状態により、過去30日間に何日くらい、家事労働を減らしたり、または休んだりしましたか(日数)	日常生活	活動制限(家事)の改善
5.9 毎日の仕事を学校へ行く	日常生活	仕事/学校(参加)
5.8 最も大切な仕事/学校の課題をうまくこなす	日常生活	仕事/課題(質)
5.7 なすべそ全ての仕事を済ます	日常生活	仕事(自立度)
5.6 必要に応じてできるだけ早く仕事を済ます	日常生活	仕事(効率)
5.9 健康状態のために、仕事の量やペースを下げたことがありませんでしたか	日常生活	仕事の量・質の向上
5.10 健康状態の結果として、収入が少なくなったことがありますか	日常生活	収入の改善
5.02 健康状態により、過去30日間に何日くらい、平日以上仕事を休みましたか(日数)	日常生活	仕事の従事日数の向上
6.1 誰もができるやり方で地域・社会の活動に加わることができましたか	社会参加	地域活動参加
6.2 近所の人や仲間のため、どれほど問題がありましたか	社会参加	地域活動参加
6.3 他人の態度や行為のため、自分らしさを持つて生きることが、どれほど問題がありましたか	社会参加	環境因子(人的疎外因子)の改善
6.4 健康状態やその改善のために、どれくらい時間をかける必要がありましたか	社会参加	健康改善
6.5 健康状態のために、どれくらい精神的に影響を受けましたか	社会参加	精神的改善
6.6 あなたの健康状態は、あなたや家族に、どのくらい経済的損失をもたらしましたか	社会参加	経済状態の改善
6.7 あなたの健康問題により、家族はどれくらい大きな問題を抱えましたか	社会参加	家族の負担軽減
6.8 ランクしたり、楽しんだりするために、自分で何かを行うのに、どれくらい問題がありましたか	社会参加	余暇生活
H1 健康状態により、過去30日間に何日くらい、こうした楽しみがありましたか(日数)	社会参加	余暇生活
H2 健康状態のために、過去30日間に何日くらい、通常の活動や仕事ができなくなりましたか(日数)	社会参加	活動・労働不能状態の軽減
H3 健康状態のために、過去30日間に何日くらい、通常の活動や仕事ができなくなりましたか(日数)	社会参加	活動・労働不能状態の改善
H4 健康状態のために、過去30日間に何日くらい、通常の活動や仕事ができなくなりましたか(日数)	社会参加	活動・労働不能状態の改善
H5 健康状態のために、過去30日間に何日くらい、通常の活動や仕事ができなくなりましたか(日数)	社会参加	活動・労働不能状態の改善

表 3: WHODAS 原文の簡略化

WHO DAS 2.0

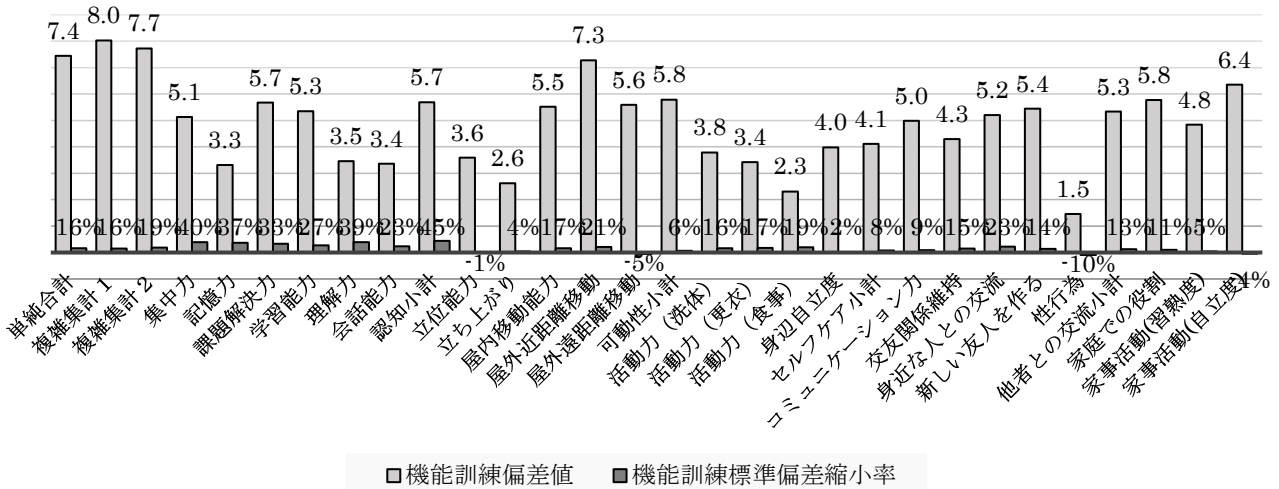


図 27:WHO/DAS 偏差値・標準偏差縮小率

6) Life Space Assessment (LSA)

8.8 ポイントの向上があり、移動、行動範囲の広がりが認められた。

標準偏差縮小率では、僅かに幅の広がりがみられた。(図 28)

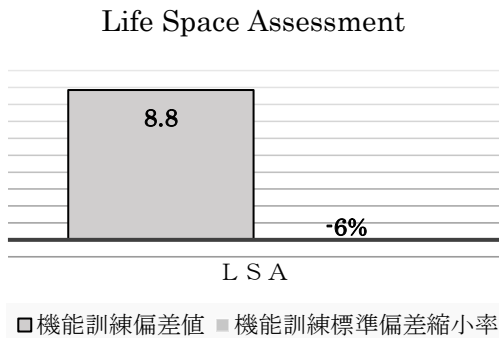


図 28:LSA 偏差値・標準偏差縮小率

7) 実用的歩行能力分類

12.1 ポイントの向上があり、歩行能力の向上が認められた。

標準偏差縮小率では、僅かに幅の広がりが見られた。(図 29)

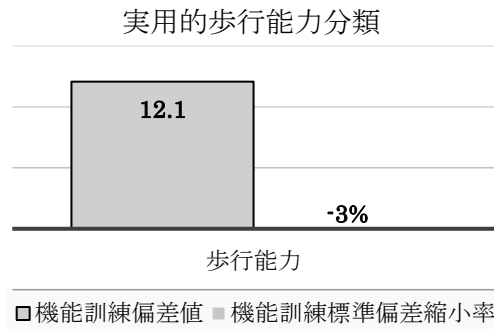


図 29:実用的歩行能力偏差値・標準偏差縮小率

(2) 評価指標ごとの変化の比較

評価指標ごとの変化の比較では、実用的歩行能力分類が 12.1 ポイントと最も向上が認められ、順に WHO/QOL が 10.3 ポイント、LSA、RAS がともに 8.8 ポイント、IADL 尺度が 7.8 ポイント、WHO/DAS が 7.4 ポイントとなり、評価指標中 FIM が最も変化が少なかったものの、5.1 ポイントの向上があった。

また、「WHO/QOL 領域Ⅳ環境」が 9.7 ポイント、「WHO/QOL 領域Ⅱ心理的領域」が 9.3 ポイントと WHO/QOL の中でも大きな変化が認められた。(図 30) 標準偏差縮小率では、RAS が最も向上方向に集中し、次いで FIM に集中が大きかった。僅かではあるが、LSA と実用的歩行能力分類では広がりが見られた。(図 31)

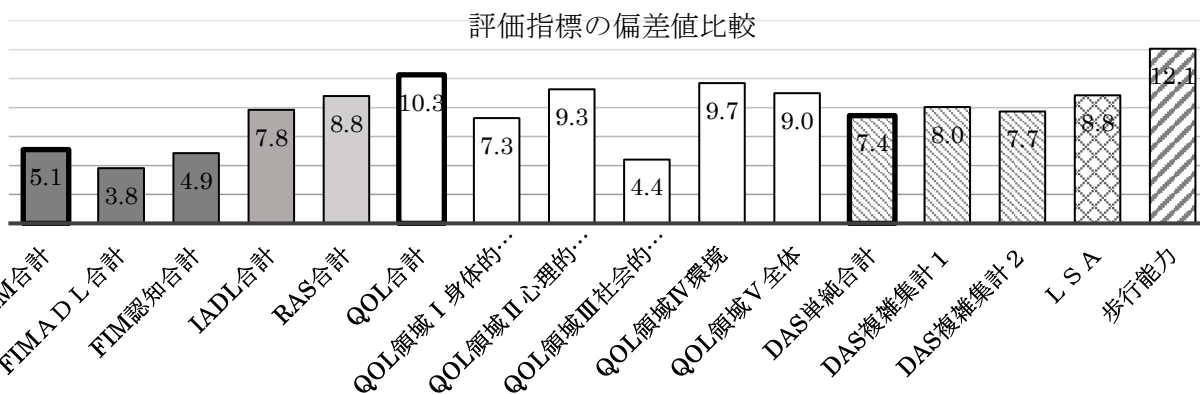


図 30: 評価指標偏差値比較

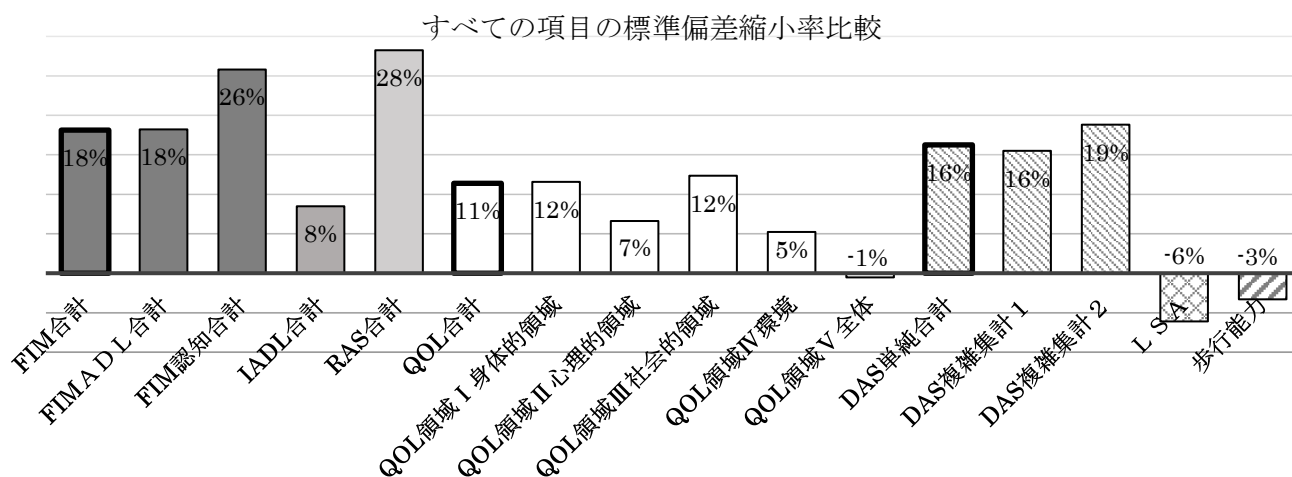


図 31: 項目標準偏差縮小率比較

これらのことから、自立訓練（機能訓練）の利用開始時と終了時の比較では、調査対象としたいずれの評価指標によっても向上が確認できた。

（身体）「環境因子」が 4.9 ポイント、「認知機能」が 4.5 ポイントと、あまりポイントの差がない状態であった。（図 32）

(3) ICF に基づいたカテゴリーごとの変化の比較

評価指標の各項目について ICF の概念に基づきカテゴライズを試み（表 4）、それを基にカテゴリー間で変化の程度を比較した。

その結果、「健康状態（精神）」が 5.8 ポイント、「参加（地域生活）」が 5.7 ポイントであり、変化が最も顕著であった。次いで、順に「身体機能」5.2 ポイント、「活動（IADL）」が 5.1 ポイント、「参加（就労・就学）」が 5.0 ポイント、「健康状態

カテゴリー別 偏差値平均比較

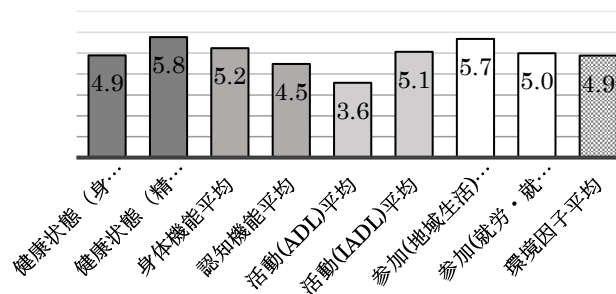


図 32: カテゴリー別偏差値平均比較

ICF	健康状態		心身機能・身体構造		活動		参加		環境因子	個人因子
	身体面	精神面	身体面	認知面	ADL	IADL	地域生活	就労・就学		
FIM				理解 表出 社会的交流 問題解決 記憶	食事 整容 清拭 更衣上 更衣下 セルフケア_トイレ 排尿 排便 ベッド椅子 移動_トイレ 浴槽シャワー 歩行・車椅子 階段					
IADL尺度						電話 買い物 食事の準備 家事 洗濯 移送の形式 服薬管理 財産				
RAS		生きがい 自己満足度 将来展望 自己肯定感 好奇心 ストレス対処 成功願望 目標達成への自信 楽観性 障害の重要度の低下 ハンデキャップ意識の低下 障害の負担感の低下 共生感					自己実現力 課題解決力 人間関係への自信 生活設計 人生目標 援助依頼(必要性の判断) 援助依頼(積極性) 援助依頼(実行力) 支援者の存在 他者との信頼関係 友人意識			
WHO/QOL	医療の必要度 睡眠の満足度 健康状態の満足度	生活の充実度 生活の意義 外見(障害)の受容 自己満足度 心理的負担の軽減	活動制限の緩和 活動力の満足度	集中力 生活する活力			情報を得る機会 余暇機会 近隣外出の機会 人間関係満足度 性生活への満足度 友人への満足度	労働能力の満足度	生活の安全度 健康的な生活環境 自宅環境満足度 移動環境満足度 経済的余裕 医療・福祉満足度	
WHO/DAS	健康改善	心理的影響の改善	立位能力 立ち上がり	集中力 記憶力 課題解決力 学習能力 理解力 会話能力	屋内移動能力 屋外近距離移動 屋外遠距離移動 活動力(洗体) 活動力(更衣) 活動力(食事) コミュニケーションカ	身辺自立度 家事活動(習熟度) 家事活動(自立度) 家事活動(効率性)	交友関係維持 身近な人との交流 新しい友人を作る 性行為 家庭の役割 地域活動参加 余暇生活 活動・労働不能状態の改善	仕事/学校(参加) 仕事/課題(習熟) 仕事(自立度) 仕事(効率性) 仕事の量・質の向上 収入の改善 仕事の従事日数の向上 活動・労働不能状態の改善	疎外因子の改善 人的疎外因子の改善 家族の負担軽減 全体的な困難の軽減 経済状態の改善	
LSA							外出 活動・労働不能状態の改善			
実用的歩行能力						歩行(移動)				

表 4: ICF を基にした評価項目のカテゴリ

これらのことから、自立訓練（機能訓練）の利用開始時と終了時では、いずれのカテゴリーでも変化を確認することができ、特に、精神面や地域社会への参加に向けて良い変化が起きていることが確認できた。

更に、各カテゴリーの中での項目の変化を見ると、健康状態では「生活の充実度」「生活の意義の実感」が 8.6 ポイントと最も高く、精神面での変化が大きい。心身機能・身体構造では、身体面の「活動力の満足度」が 9.3 ポイントと最も高く、

次いで「生活する活力」が7.3ポイントであった。このことから、全般的な活動性の高まりとともに、気持ちの面でも充実している状況が窺えた。

また、活動や参加を見ると、ADLでは「屋外近距離移動」が7.3ポイント、続いて「屋外遠距離」が5.6ポイント、「屋内移動能力」が5.5ポイントとなっており、IADLでは「歩行（移動）能力」が12.1ポイント、「移送の形式」が7.6ポイントとなった。地域生活でも「近隣外出の機会」が10.7ポイント、「外出」が8.8ポイントと、外出、移動能力、行動範囲の拡大といったところが、最も大きな具体的な変化として現れていることが分かった。

更に参加をみると、「情報を得る機会」が10.1ポイント、「余暇機会」が9.2ポイントと最も高く、「自己実現力」が8.0ポイント、「課題解決力」が7.9ポイント、「援助依頼（必要性の判断）」が7.73ポイントと高ポイントとなっている。また、家庭での役割に関することや、人との交流に関する事

でもポイントが高い。これらのことから、自立訓練（機能訓練）の利用後に社会生活力が向上していることが分かった。

また、就労・就学においては、「労働能力の満足度」が6.3ポイントと、就労能力の向上・改善に関する項目や、就労・就学への参加に関する項目でポイントの向上が見られることから、就労・就学についても、自立訓練（機能訓練）の利用後にプラスの変化があることが分かった。

更に、環境要因についてもプラスの変化が見られた。

なお、当然ながら「健康状態（精神）」の評価項目のすべてが主観評価であり、「参加（地域生活）」、「参加（就労・就学）」の殆どが、主観評価又は「主観/客観評価」（本人に客観的事実を問うもの）であった。また、「活動（ADL）」で最も変化の大きい指標は「主観/客観評価」であった。（図33）

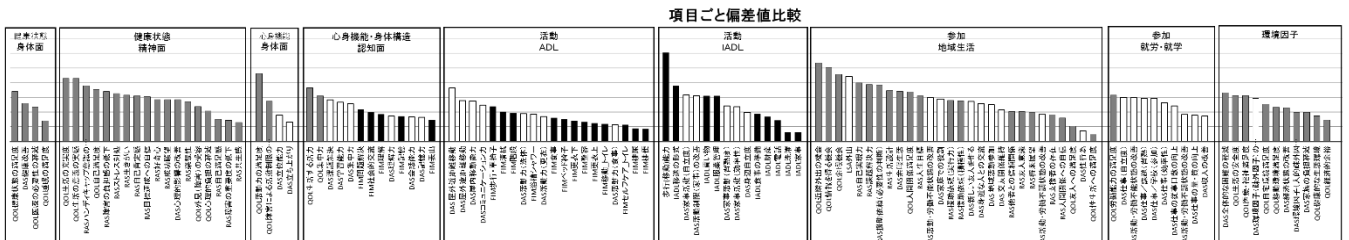
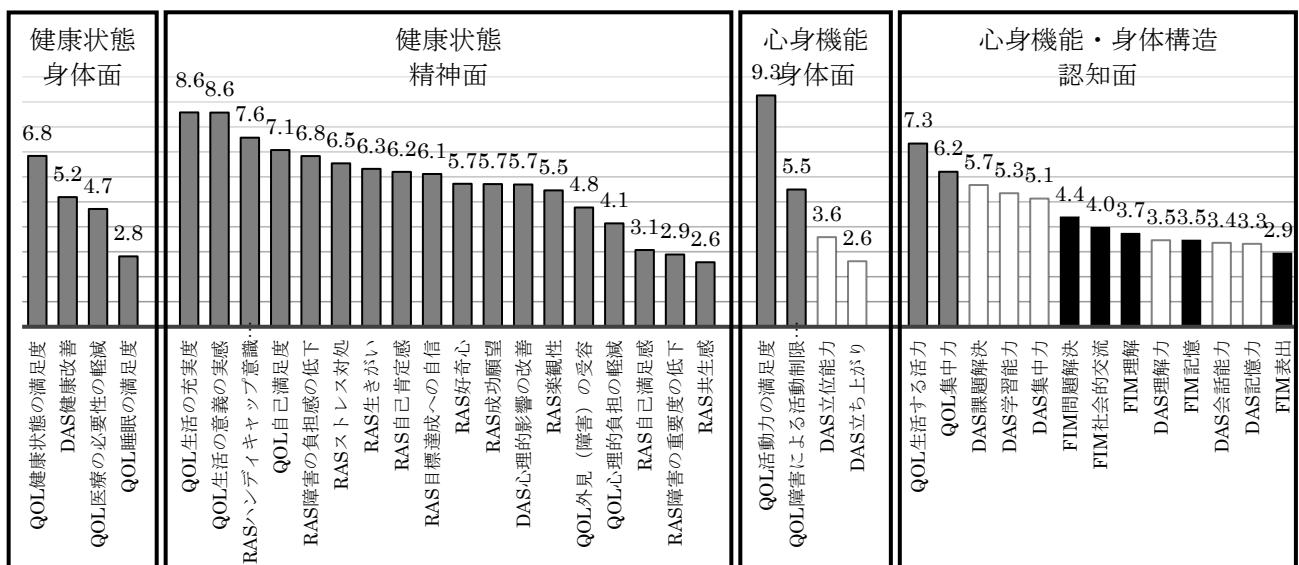
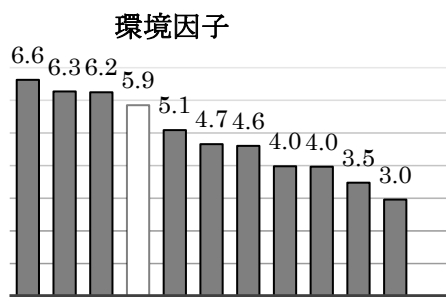
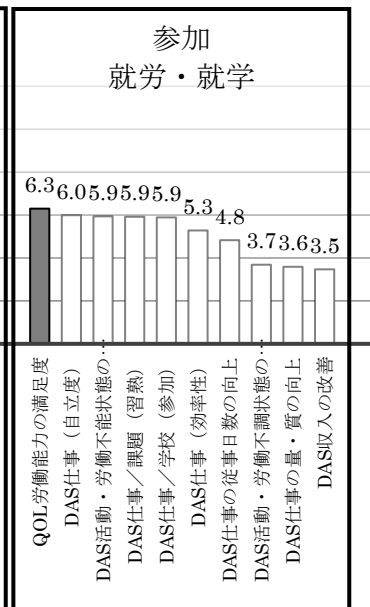
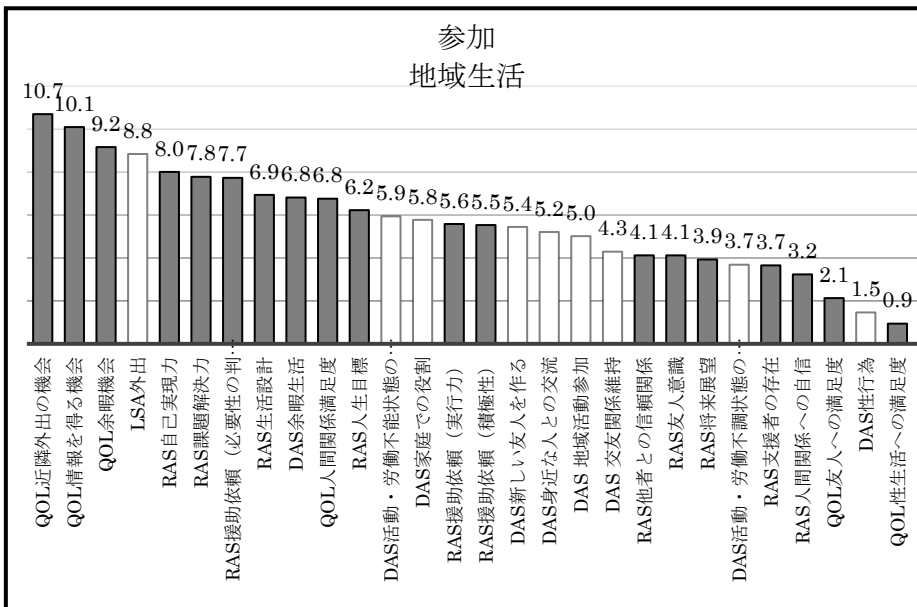
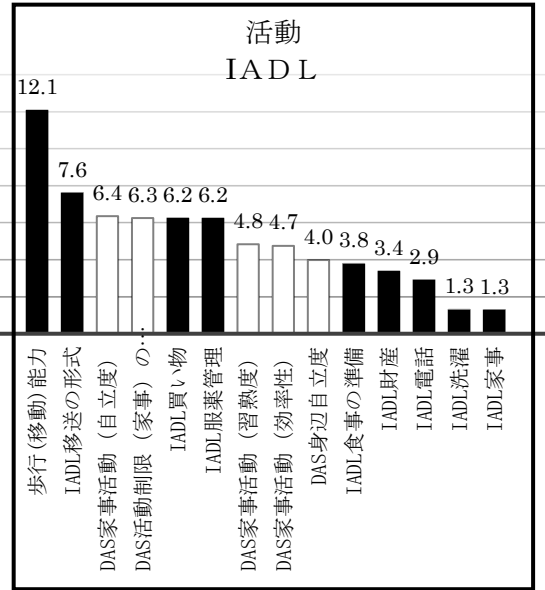
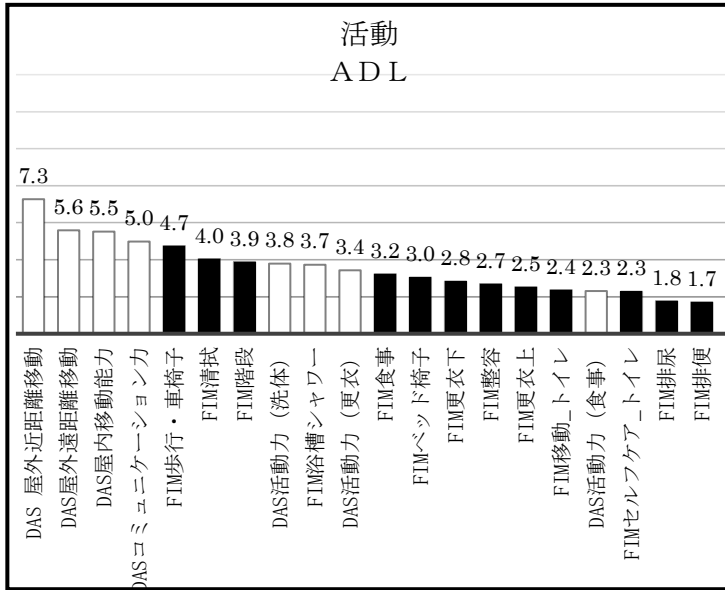


図 33:項目ごと偏差値比較





棒グラフ：黒…客観評価、グレー…主観評価、白…客観/主観評価

5. 結論

以上のことから、今回の調査で、自立訓練(機能訓練)の利用後に、利用者の身体面、精神面、日常生活や社会生活面で向上・改善されていることが明らかとなった。

特に、活動力や活力、ADL や IADL、外出や移動能力、余暇活動、対人関係づくり、支援の依頼、生活設計等の社会生活力、就労面においてプラスの

変化が認められ、精神面にもプラスの変化が認められたことから、ICFで言う「活動」や「参加」の変化、「活動力」「認知機能」などの「心身機能・身体構造」の変化が、生活の充実感や、生活することの意義の実感等、精神面での「健康状態」の変化をもたらしていることが推測される。

そうしたことから、様々なプログラム・支援を利用者に提供する自立訓練（機能訓練）の利用効果の高さを推測することができる。

一方で、今回調査した評価指標には、FIM、IADL尺度、実用的歩行能力分類といった客観的評価指標と、RASやWHO/QOL、WHO/DAS等の被験者の回答による評価指標があったが、FIM等では、客観性はあるものの変化の大きかった「参加（地域生活）」、「参加（就労・就学）」を含んでおらず、それらを包含しているWHO/DAS等では、客観的評価とはなりにくい部分があった。

また、RASに見られるような「自分のしたい生き方ができる」等の項目については、内面的変化そのものは客観的事実であり評価の対象となりうるものの、どのような訓練・支援が結果をもたらしたかという実施した訓練や支援と成果の因果関係を説明することは難しい。

帰結状況等から推論しても、訓練・支援と利用者の変化との関連性が強いことは予想されるものの、これらの評価結果をそのまま自立訓練（機能訓練）の利用効果であるとするには難しく、自立訓練（機能訓練）の評価指標の確立という点からは、更なる研究が必要である。

5. 考察（令和3年度の研究に向けて）

- ・ 今回の試験調査が、被験者の回想や過去の記録に基づいた調査であったため、利用時と終了時の正確な状況を捉えたものとは言えないものの、調査した全ての評価指標から、自立訓練（機能訓練）の利用前後のプラスの変化を捉えることができたことから、自立訓練（機能訓練）の利用に相当の効果があることが推論できた。
- ・ 効果は、利用者の身体面、認知面、日常生活や社会参加、就労といった社会生活全般に及んでおり、それらの変化が、生活の質や健康状態に変化をもたらしていることが推測できた。
- ・ また、身体面、認知面の変化についても、日常生活や社会生活上の変化として現れることから、それらの評価指標に効果が反映できると考える。
- ・ そのことから、自立訓練（機能訓練）の評価指標においては、ADL、IADL、社会生活力、就労を測る評価指標が必要であると考えられる。
- ・ ADL、IADLの評価は既存の評価指標が活用できると思われる。
- ・ 就労については、目的達成が明確なため、利用終了後の進路（帰結状況）による評価も可能と思われる。
- ・ 社会生活力の評価指標では、FIM、IADL尺度、実用的歩行能力分類等では評価できず、RAS、WHO/QOL、WHO/DASでも訓練・支援の成果としては直接的に評価できないため、それらの単純活用又は組み合わせのみでは難しい。
- ・ 本調査の評価指標を研究する中で、社会生活力を客観的に測ることのできる独自の評価指標を考案することが望ましい。

資料：機能訓練 項目別統計データ

■ FIM

○機能訓練

合計

変数	開始時	終了時
n	83	83
平均	105.157	113.458
不偏分散	265.304	177.812
標準偏差	16.288	13.335
最小値	48	58
最大値	125	126

利得
8.3

1 一計算上の数値

仮想偏差値 5.10
標準偏差縮小率 18.1%

ADL合計

	開始時	終了時
n	83	83
平均	75.578	81.735
不偏分散	260.466	174.246
標準偏差	16.139	13.2
最小値	19	27
最大値	91	91

6.2

1 一計算上の数値

仮想偏差値 3.81
標準偏差縮小率 18.2%

認知合計

	開始時	終了時
n	83	83
平均	29.578	31.723
不偏分散	19.466	10.715
標準偏差	4.412	3.273
最小値	15	22
最大値	35	35

2.1

1 一計算上の数値

仮想偏差値 4.86
標準偏差縮小率 25.8%

食事

	開始時	終了時
n	83	83
平均	6.518	6.771
不偏分散	0.619	0.227
標準偏差	0.786	0.477
最小値	4	5
最大値	7	7

0.3

1 一計算上の数値

仮想偏差値 3.22
標準偏差縮小率 39.3%

整容

	開始時	終了時
n	83	83
平均	6.313	6.651
不偏分散	1.584	0.523
標準偏差	1.258	0.723
最小値	1	4
最大値	7	7

0.3

1 一計算上の数値

仮想偏差値 2.69
標準偏差縮小率 42.5%

清拭

	開始時	終了時
n	83	83
平均	5.627	6.337
不偏分散	3.091	1.592
標準偏差	1.758	1.262
最小値	1	1
最大値	7	7

0.7

1 一計算上の数値

仮想偏差値 4.04
標準偏差縮小率 28.2%

更衣上

	開始時	終了時
n	83	83
平均	6.12	6.506
不偏分散	2.351	1.57
標準偏差	1.533	1.253
最小値	1	1
最大値	7	7

0.4

1 一計算上の数値

仮想偏差値 2.52
標準偏差縮小率 18.3%

更衣下

	開始時	終了時
n	83	83
平均	6.024	6.494
不偏分散	2.78	1.838
標準偏差	1.667	1.356
最小値	1	1
最大値	7	7

0.5

1 一計算上の数値

仮想偏差値 2.82
標準偏差縮小率 18.7%

セルフケア トイレ

	開始時	終了時
n	83	83
平均	5.952	6.337
不偏分散	2.876	2.007
標準偏差	1.696	1.417
最小値	1	1
最大値	7	7

0.4

1 一計算上の数値

仮想偏差値 2.27
標準偏差縮小率 16.5%

排尿

	開始時	終了時
n	83	83
平均	6.241	6.518
不偏分散	2.478	1.106
標準偏差	1.574	1.052
最小値	1	2
最大値	7	7

0.3

1 一計算上の数値

仮想偏差値 1.76
標準偏差縮小率 33.2%

排便

	開始時	終了時
n	83	83
平均	6.072	6.373
不偏分散	3.141	2.042
標準偏差	1.772	1.429
最小値	1	1
最大値	7	7

0.3

1 一計算上の数値

仮想偏差値 1.70
標準偏差縮小率 19.4%

ベッド椅子

	開始時	終了時
n	83	83
平均	6.024	6.458
不偏分散	2.048	1.056
標準偏差	1.431	1.028
最小値	1	1
最大値	7	7

0.4

1 一計算上の数値

仮想偏差値 3.03
標準偏差縮小率 28.2%

移動_トイレ

	開始時	終了時
n	83	83
平均	5.892	6.277
不偏分散	2.659	1.837
標準偏差	1.631	1.355
最小値	1	1
最大値	7	7

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 2.36
標準偏差縮小率 16.9%

浴槽シャワー

	開始時	終了時
n	83	83
平均	5.133	5.855
不偏分散	3.751	2.735
標準偏差	1.937	1.654
最小値	1	1
最大値	7	7

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 3.73
標準偏差縮小率 14.6%

歩行・車椅子

	開始時	終了時
n	83	83
平均	5.627	6.241
不偏分散	1.676	0.6
標準偏差	1.295	0.774
最小値	2	3
最大値	7	7

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 4.74
標準偏差縮小率 40.2%

階段

	開始時	終了時
n	81	82
平均	4.136	4.976
不偏分散	4.694	4.518
標準偏差	2.167	2.126
最小値	1	1
最大値	7	7

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 3.88
標準偏差縮小率 1.9%

理解

	開始時	終了時
n	83	83
平均	6.036	6.41
不偏分散	1.011	0.635
標準偏差	1.005	0.797
最小値	3	4
最大値	7	7

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 3.72
標準偏差縮小率 20.7%

表出

	開始時	終了時
n	83	83
平均	6.193	6.506
不偏分散	1.133	0.546
標準偏差	1.064	0.739
最小値	3	4
最大値	7	7

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 2.94
標準偏差縮小率 30.5%

社会的交流

	開始時	終了時
n	83	83
平均	6.012	6.434
不偏分散	1.134	0.541
標準偏差	1.065	0.736
最小値	3	5
最大値	7	7

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 3.96
標準偏差縮小率 30.9%

問題解決

	開始時	終了時
n	83	83
平均	5.434	5.988
不偏分散	1.59	1.036
標準偏差	1.261	1.018
最小値	2	3
最大値	7	7

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 4.39
標準偏差縮小率 19.3%

記憶

	開始時	終了時
n	82	83
平均	5.976	6.386
不偏分散	1.407	0.801
標準偏差	1.186	0.895
最小値	2	3
最大値	7	7

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 3.46
標準偏差縮小率 24.5%

	合計	ADL合計	認知合計	食事	整容	清拭	更衣上	更衣下	セルフケア_トイレ	排尿	排便
機能訓練偏差値	5.1	3.8	4.9	3.2	2.7	4.0	2.5	2.8	2.3	1.8	1.7
機能訓練標準偏差縮小率	18%	18%	26%	39%	43%	28%	18%	19%	16%	33%	19%
機能訓練FIM利得	8.3	6.2	2.1	0.3	0.3	0.7	0.4	0.5	0.4	0.3	0.3

	ベッド椅子	移動_トイレ	浴槽シャワー	歩行・車椅子	階段	理解	表出	社会的交流	問題解決	記憶
機能訓練偏差値	3.0	2.4	3.7	4.7	3.9	3.7	2.9	4.0	4.4	3.5
機能訓練標準偏差縮小率	28%	17%	15%	40%	2%	21%	31%	31%	19%	25%
機能訓練FIM利得	0.4	0.4	0.7	0.6	0.8	0.4	0.3	0.4	0.6	0.4

■IADL尺度

○機能訓練

合計

	開始時	終了時
n	80	80
平均	3.713	5.125
不偏分散	3.245	2.718
標準偏差	1.802	1.649
最小値	0	1
最大値	8	8

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 7.84
標準偏差縮小率 8.5%

電話

	開始時	終了時
n	80	80
平均	0.900	0.988
不偏分散	0.091	0.013
標準偏差	0.302	0.112
最小値	0	0
最大値	1	1

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 2.90
標準偏差縮小率 63.0%

買い物

	開始時	終了時
n	80	80
平均	0.300	0.588
不偏分散	0.213	0.245
標準偏差	0.461	0.495
最小値	0	0
最大値	1	1

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.23
標準偏差縮小率 -7.4%

食事の準備

	開始時	終了時
n	80	80
平均	0.075	0.175
不偏分散	0.070	0.146
標準偏差	0.265	0.382
最小値	0	0
最大値	1	1

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 3.77
標準偏差縮小率 -44.3%

家事

	開始時	終了時
n	80	80
平均	0.375	0.438
不偏分散	0.237	0.249
標準偏差	0.487	0.499
最小値	0	0
最大値	1	1

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 1.28
標準偏差縮小率 -2.5%

洗濯

	開始時	終了時
n	80	80
平均	0.363	0.425
不偏分散	0.234	0.247
標準偏差	0.484	0.497
最小値	0	0
最大値	1	1

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 1.29
標準偏差縮小率 -2.8%

移送の形式

	開始時	終了時
n	80	80
平均	0.400	0.775
不偏分散	0.243	0.177
標準偏差	0.493	0.420
最小値	0	0
最大値	1	1

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 7.61
標準偏差縮小率 14.8%

服薬管理

	開始時	終了時
n	80	80
平均	0.463	0.775
不偏分散	0.252	0.177
標準偏差	0.502	0.420
最小値	0	0
最大値	1	1

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.23
標準偏差縮小率 16.2%

財産

	開始時	終了時
n	80	80
平均	0.838	0.963
不偏分散	0.138	0.037
標準偏差	0.371	0.191
最小値	0	0
最大値	1	1

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 3.37
標準偏差縮小率 48.5%

	合計	電話	買い物	食事の準備	家事	洗濯	移送の形式	服薬管理	財産管理
機能訓練偏差値	7.8	2.9	6.2	3.8	1.3	1.3	7.6	6.2	3.4
機能訓練標準偏差縮小率	8%	63%	-7%	-44%	-2%	-3%	15%	16%	49%

■RAS

○機能訓練

合計

	開始時	終了時
n	79	79
平均	71.367	84.785
不偏分散	232.825	119.889
標準偏差	15.259	10.949
最小値	39	63
最大値	116	116

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 8.79
標準偏差縮小率 28.2%

生きがいがある

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.975	3.646
不偏分散	1.128	0.719
標準偏差	1.062	0.848
最小値	1	2
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.32
標準偏差縮小率 20.2%

自己実現力

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.734	3.582
不偏分散	1.121	0.734
標準偏差	1.059	0.856
最小値	1	2
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 8.01
標準偏差縮小率 19.2%

課題解決力

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.532	3.278
不偏分散	0.919	0.742
標準偏差	0.959	0.861
最小値	1	1
最大値	4	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 7.78
標準偏差縮小率 10.2%

自己満足度

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.911	3.215
不偏分散	0.979	0.889
標準偏差	0.99	0.943
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 3.07
標準偏差縮小率 4.7%

人間関係への自信

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.835	3.139
不偏分散	0.883	0.455
標準偏差	0.94	0.674
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 3.23
標準偏差縮小率 28.3%

将来展望

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.987	3.392
不偏分散	1.064	0.934
標準偏差	1.031	0.966
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 3.93
標準偏差縮小率 6.3%

自己肯定感

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.684	3.354
不偏分散	1.168	0.796
標準偏差	1.081	0.892
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.20
標準偏差縮小率 17.5%

好奇心

	開始時	終了時
n	79	79
平均	3.089	3.684
不偏分散	1.082	0.758
標準偏差	1.04	0.87
最小値	1	2
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.72
標準偏差縮小率 16.3%

ストレス対処

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.81	3.456
不偏分散	0.976	0.841
標準偏差	0.988	0.917
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.54
標準偏差縮小率 7.2%

成功願望

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.886	3.506
不偏分散	1.179	0.766
標準偏差	1.086	0.875
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.71
標準偏差縮小率 19.4%

生活設計

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.861	3.57
不偏分散	1.044	0.582
標準偏差	1.022	0.763
最小値	1	2
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.94
標準偏差縮小率 25.3%

人生目標

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.975	3.658
不偏分散	1.204	0.664
標準偏差	1.097	0.815
最小値	1	2
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.23
標準偏差縮小率 25.7%

目標達成への自信

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.873	3.595
不偏分散	1.394	0.68
標準偏差	1.181	0.825
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.11
標準偏差縮小率 30.1%

援助依頼（必要性の判断）

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.962	3.759
不偏分散	1.063	0.364
標準偏差	1.031	0.604
最小値	1	2
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 7.73
標準偏差縮小率 41.4%

援助依頼（積極性）

	開始時	終了時
n	79	79
平均	3.203	3.759
不偏分散	1.01	0.698
標準偏差	1.005	0.835
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.53
標準偏差縮小率 16.9%

援助依頼（実行力）

	開始時	終了時
n	79	79
平均	3.38	3.975
不偏分散	1.136	0.461
標準偏差	1.066	0.679
最小値	1	2
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.58
標準偏差縮小率 36.3%

共生感

	開始時	終了時
n	79	79
平均	3.152	3.367
不偏分散	0.695	0.697
標準偏差	0.833	0.835
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 2.58
標準偏差縮小率 -0.2%

楽観性

	開始時	終了時
n	79	79
平均	3.228	3.759
不偏分散	0.947	0.672
標準偏差	0.973	0.82
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.46
標準偏差縮小率 15.7%

支援者の存在

	開始時	終了時
n	79	79
平均	3.633	3.975
不偏分散	0.876	0.461
標準偏差	0.936	0.679
最小値	1	2
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 3.65
標準偏差縮小率 27.5%

他者との信頼関係

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.924	3.278
不偏分散	0.738	0.562
標準偏差	0.859	0.75
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 4.12
標準偏差縮小率 12.7%

友人意識

	開始時	終了時
n	79	79
平均	3.785	4.19
不偏分散	0.966	0.438
標準偏差	0.983	0.662
最小値	1	3
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 4.12
標準偏差縮小率 32.7%

障害の重要度の低下

	開始時	終了時
n	67	67
平均	2.925	3.224
不偏分散	1.07	0.934
標準偏差	1.034	0.966
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 2.89
標準偏差縮小率 6.6%

ハンデキャップ意識の低下

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.722	3.468
不偏分散	0.973	0.662
標準偏差	0.986	0.814
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 7.57
標準偏差縮小率 17.4%

障害の負担感の低下

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.747	3.443
不偏分散	1.038	0.917
標準偏差	1.019	0.957
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.83
標準偏差縮小率 6.1%

	合計	生きがい	自己実現	課題解決	自己満足度	人間関係	将来展望	自己肯定感	好奇心
機能訓練偏差値	8.8	6.3	8.0	7.8	3.1	3.2	3.9	6.2	5.7
機能訓練標準偏差縮小率	28%	20%	19%	10%	5%	28%	6%	17%	16%

	ストレス対	成功願望	生活設計	人生目標	目標達成	援助依頼	援助依頼	援助依頼	共生感
機能訓練偏差値	6.5	5.7	6.9	6.2	6.1	7.7	5.5	5.6	2.6
機能訓練標準偏差縮小率	7%	19%	25%	26%	30%	41%	17%	36%	0%

	楽観性	支援者の存	他者との信	友人意識	障害の重要	ハンデキャ	障害の負担感の低下
機能訓練偏差値	5.5	3.7	4.1	4.1	2.9	7.6	6.8
機能訓練標準偏差縮小率	16%	27%	13%	33%	7%	17%	6%

■WHO/QOL

○機能訓練

合計

	開始時	終了時
n	79	79
平均	64.709	75.139
不偏分散	103.389	81.173
標準偏差	10.168	9.01
最小値	37	55
最大値	88	93

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 10.26
標準偏差縮小率 11.4%

領域Ⅰ 身体的領域

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.779	3.112
不偏分散	0.21	0.164
標準偏差	0.458	0.405
最小値	1.571	2.143
最大値	3.714	4

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 7.27
標準偏差縮小率 11.6%

領域Ⅱ 心理的領域

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.563	3.025
不偏分散	0.249	0.217
標準偏差	0.499	0.466
最小値	1.5	2
最大値	4	4

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 9.26
標準偏差縮小率 6.6%

領域Ⅲ 社会的領域

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.565	2.861
不偏分散	0.451	0.346
標準偏差	0.672	0.589
最小値	0.667	1.667
最大値	4	4

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 4.40
標準偏差縮小率 12.4%

領域Ⅳ 環境

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.772	3.328
不偏分散	0.33	0.295
標準偏差	0.574	0.544
最小値	1.25	2.375
最大値	3.875	4.625

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 9.69
標準偏差縮小率 5.2%

領域Ⅴ 全体

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.342	3.019
不偏分散	0.568	0.573
標準偏差	0.753	0.757
最小値	1	2
最大値	4.5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 8.99
標準偏差縮小率 -0.5%

生活の質の評価

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.43	3.152
不偏分散	0.582	0.566
標準偏差	0.763	0.753
最小値	1	2
最大値	4	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 9.46
標準偏差縮小率 1.3%

健康状態の満足度

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.253	2.886
不偏分散	0.858	0.846
標準偏差	0.926	0.92
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.84
標準偏差縮小率 0.6%

障害による活動制限の緩和

	開始時	終了時
n	79	79
平均	3.468	2.899
不偏分散	1.073	0.784
標準偏差	1.036	0.886
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.49
標準偏差縮小率 14.5%

医療の必要度の軽減

	開始時	終了時
n	79	79
平均	3.418	2.949
不偏分散	0.99	0.895
標準偏差	0.995	0.946
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 4.71
標準偏差縮小率 4.9%

生活の充実度

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.418	3.165
不偏分散	0.759	0.601
標準偏差	0.871	0.775
最小値	1	2
最大値	4	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 8.58
標準偏差縮小率 11.0%

生活の意義の実感

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.557	3.342
不偏分散	0.84	0.766
標準偏差	0.916	0.875
最小値	1	2
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 8.57
標準偏差縮小率 4.5%

集中力

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.835	3.418
不偏分散	0.883	0.657
標準偏差	0.94	0.81
最小値	1	2
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.20
標準偏差縮小率 13.8%

生活の安全度

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.924	3.481
不偏分散	0.789	0.509
標準偏差	0.888	0.714
最小値	1	2
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.27
標準偏差縮小率 19.6%

健康的な生活環境

	開始時	終了時
n	79	79
平均	3.038	3.392
不偏分散	1.037	0.857
標準偏差	1.018	0.926
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 3.48
標準偏差縮小率 9.0%

生活への活力

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.772	3.456
不偏分散	0.87	0.636
標準偏差	0.933	0.797
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 7.33
標準偏差縮小率 14.6%

外見（障害）の受容

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.658	3.203
不偏分散	1.305	0.907
標準偏差	1.142	0.952
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 4.77
標準偏差縮小率 16.6%

経済的余裕

	開始時	終了時
n	78	79
平均	2.679	2.975
不偏分散	1	0.846
標準偏差	1	0.92
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 2.96
標準偏差縮小率 8.0%

情報を得る機会

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.595	3.443
不偏分散	0.706	0.635
標準偏差	0.84	0.797
最小値	1	2
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 10.10
標準偏差縮小率 5.1%

余暇機会

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.316	3.127
不偏分散	0.783	0.65
標準偏差	0.885	0.806
最小値	1	2
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 9.16
標準偏差縮小率 8.9%

近隣外出の機会

	開始時	終了時
n	79	78
平均	2.038	3.218
不偏分散	1.216	1.108
標準偏差	1.103	1.052
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 10.70
標準偏差縮小率 4.6%

睡眠の満足度

	開始時	終了時
n	79	79
平均	3.089	3.392
不偏分散	1.159	0.934
標準偏差	1.076	0.966
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 2.82
標準偏差縮小率 10.2%

活動力の満足度

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.519	3.228
不偏分散	0.586	0.64
標準偏差	0.766	0.8
最小値	1	2
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 9.26
標準偏差縮小率 -4.4%

労働能力の満足度

	開始時	終了時
n	78	79
平均	2.179	2.684
不偏分散	0.643	0.629
標準偏差	0.802	0.793
最小値	1	1
最大値	4	4

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.30
標準偏差縮小率 1.1%

自己満足度

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.114	2.633
不偏分散	0.538	0.646
標準偏差	0.734	0.803
最小値	1	1
最大値	3	4

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 7.07
標準偏差縮小率 -9.4%

人間関係満足度

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.722	3.304
不偏分散	0.742	0.65
標準偏差	0.861	0.806
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.76
標準偏差縮小率 6.4%

性生活への満足度

	開始時	終了時
n	54	56
平均	2.37	2.446
不偏分散	0.653	0.688
標準偏差	0.808	0.829
最小値	1	1
最大値	3	4

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 0.94
標準偏差縮小率 -2.6%

友人への満足度

	開始時	終了時
n	79	79
平均	3.354	3.544
不偏分散	0.796	0.764
標準偏差	0.892	0.874
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 2.13
標準偏差縮小率 2.0%

自宅環境満足度

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.899	3.418
不偏分散	1.041	0.81
標準偏差	1.02	0.9
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.09
標準偏差縮小率 11.8%

医療・福祉満足度

	開始時	終了時
n	78	78
平均	3.026	3.577
不偏分散	0.779	0.663
標準偏差	0.882	0.814
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.25
標準偏差縮小率 7.7%

移動環境満足度

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.797	3.253
不偏分散	0.958	0.833
標準偏差	0.979	0.912
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 4.66
標準偏差縮小率 6.8%

心理的負荷の軽減

	開始時	終了時
n	79	79
平均	2.797	2.392
不偏分散	0.958	0.524
標準偏差	0.979	0.724
最小値	1	1
最大値	5	4

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 4.14
標準偏差縮小率 26.0%

	合計	領域Ⅰ身体的	領域Ⅱ心理的	領域Ⅲ社会的	領域Ⅳ環境	領域Ⅴ全体
機能訓練偏差値	10.3	7.3	9.3	4.4	9.7	9.0
機能訓練標準偏差縮小率	11%	12%	7%	12%	5%	-1%

	生活の質	健康状態	障害による	医療の必要	生活の充実	生活の意欲	集中力	生活の安全	健康的な生活環境
機能訓練偏差値	9.5	6.8	5.5	4.7	8.6	8.6	6.2	6.3	3.5
機能訓練標準偏差縮小率	1%	1%	14%	5%	11%	4%	14%	20%	9%

	生活への活	外見(障害)	経済的余剰	情報を得る	余暇機会	近隣外出の	睡眠の満足	活動力の満	労働能力の満足度
機能訓練偏差値	7.3	4.8	3.0	10.1	9.2	10.7	2.8	9.3	6.3
機能訓練標準偏差縮小率	15%	17%	8%	5%	9%	5%	10%	-4%	1%

	自己満足度	人間関係満	性生活への	友人への満	自宅環境満	医療・福祉	移動環境満	心理的負荷の軽減
機能訓練偏差値	7.1	6.8	0.9	2.1	5.1	6.2	4.7	4.1
機能訓練標準偏差縮小率	-9%	6%	-3%	2%	12%	8%	7%	26%

■WHO-DAS

○機能訓練

単純合計

	開始時	終了時
n	80	80
平均	100.025	79.413
不偏分散	767.366	538.144
標準偏差	27.701	23.198
最小値	30	25
最大値	150	139

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 7.44
標準偏差縮小率 16.3%

複雑集計 1

	開始時	終了時
n	80	80
平均	47.571	32.677
不偏分散	343.826	245.487
標準偏差	18.543	15.668
最小値	8.491	1.887
最大値	81.132	72.642

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 8.03
標準偏差縮小率 15.5%

複雑集計 2

	開始時	終了時
n	80	80
平均	45.693	31.291
不偏分散	347.486	229.017
標準偏差	18.641	15.133
最小値	6.522	2.174
最大値	85.87	68.478

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 7.73
標準偏差縮小率 18.8%

集中力

	開始時	終了時
n	80	80
平均	2.1	1.525
不偏分散	1.256	0.455
標準偏差	1.121	0.675
最小値	1	1
最大値	5	3

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.13
標準偏差縮小率 39.8%

記憶力

	開始時	終了時
n	80	80
平均	1.975	1.613
不偏分散	1.189	0.468
標準偏差	1.091	0.684
最小値	1	1
最大値	5	3

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 3.32
標準偏差縮小率 37.3%

課題解決力

	開始時	終了時
n	80	80
平均	2.5	1.875
不偏分散	1.215	0.541
標準偏差	1.102	0.736
最小値	1	1
最大値	5	4

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.67
標準偏差縮小率 33.2%

学習能力

	開始時	終了時
n	80	80
平均	2.425	1.825
不偏分散	1.26	0.678
標準偏差	1.123	0.823
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.34
標準偏差縮小率 26.7%

理解力

	開始時	終了時
n	80	80
平均	1.8	1.45
不偏分散	1.023	0.377
標準偏差	1.011	0.614
最小値	1	1
最大値	5	3

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 3.46
標準偏差縮小率 39.3%

会話能力

	開始時	終了時
n	80	80
平均	2.113	1.713
不偏分散	1.418	0.84
標準偏差	1.191	0.917
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 3.36
標準偏差縮小率 23.0%

認知小計

	開始時	終了時
n	80	80
平均	12.913	10
不偏分散	26.233	8.051
標準偏差	5.122	2.837
最小値	6	6
最大値	27	18

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.69
標準偏差縮小率 44.6%

立位能力

	開始時	終了時
n	80	80
平均	3.063	2.5
不偏分散	2.464	2.532
標準偏差	1.57	1.591
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 3.59
標準偏差縮小率 -1.3%

立ち上がり

	開始時	終了時
n	80	80
平均	2.613	2.225
不偏分散	2.19	2.025
標準偏差	1.48	1.423
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 2.62
標準偏差縮小率 3.9%

屋内移動能力

	開始時	終了時
n	80	80
平均	2.538	1.788
不偏分散	1.847	1.283
標準偏差	1.359	1.133
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.52
標準偏差縮小率 16.6%

屋外近距離移動

	開始時	終了時
n	80	80
平均	2.988	1.963
不偏分散	1.987	1.252
標準偏差	1.41	1.119
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 7.27
標準偏差縮小率 20.6%

屋外遠距離移動

	開始時	終了時
n	80	80
平均	3.375	2.563
不偏分散	2.111	2.325
標準偏差	1.453	1.525
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.59
標準偏差縮小率 -5.0%

可動性小計

	開始時	終了時
n	80	80
平均	14.575	11.038
不偏分散	37.311	32.847
標準偏差	6.108	5.731
最小値	5	5
最大値	25	25

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.79
標準偏差縮小率 6.2%

活動力（洗体）

	開始時	終了時
n	79	80
平均	2.165	1.663
不偏分散	1.755	1.239
標準偏差	1.325	1.113
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 3.79
標準偏差縮小率 16.0%

活動力（更衣）

	開始時	終了時
n	80	80
平均	1.925	1.525
不偏分散	1.361	0.936
標準偏差	1.167	0.968
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 3.43
標準偏差縮小率 17.1%

活動力（食事）

	開始時	終了時
n	80	80
平均	1.625	1.413
不偏分散	0.845	0.549
標準偏差	0.919	0.741
最小値	1	1
最大値	5	4

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 2.31
標準偏差縮小率 19.4%

身辺自立度

	開始時	終了時
n	80	80
平均	2.888	2.325
不偏分散	2	1.918
標準偏差	1.414	1.385
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 3.98
標準偏差縮小率 2.1%

セルフケア小計

	開始時	終了時
n	80	80
平均	8.575	6.925
不偏分散	16.096	13.665
標準偏差	4.012	3.697
最小値	4	4
最大値	20	18

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 4.11
標準偏差縮小率 7.9%

コミュニケーション力

	開始時	終了時
n	80	80
平均	2.438	1.913
不偏分散	1.11	0.916
標準偏差	1.054	0.957
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 4.98
標準偏差縮小率 9.2%

交友関係維持

	開始時	終了時
n	80	80
平均	2.025	1.588
不偏分散	1.037	0.752
標準偏差	1.018	0.867
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 4.29
標準偏差縮小率 14.8%

身近な人との交流

	開始時	終了時
n	80	80
平均	2.063	1.475
不偏分散	1.275	0.759
標準偏差	1.129	0.871
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.21
標準偏差縮小率 22.9%

新しい友人を作る

	開始時	終了時
n	80	80
平均	2.55	1.938
不偏分散	1.263	0.945
標準偏差	1.124	0.972
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.44
標準偏差縮小率 13.5%

性行為

	開始時	終了時
n	51	54
平均	3.412	3.222
不偏分散	1.687	2.025
標準偏差	1.299	1.423
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 1.46
標準偏差縮小率 -9.5%

他者との交流小計

	開始時	終了時
n	80	80
平均	11.25	9.088
不偏分散	16.443	12.537
標準偏差	4.055	3.541
最小値	4	4
最大値	21	22

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.33
標準偏差縮小率 12.7%

家庭での役割

	開始時	終了時
n	78	78
平均	3.167	2.462
不偏分散	1.491	1.187
標準偏差	1.221	1.089
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.77
標準偏差縮小率 10.8%

家事活動(習熟度)

	開始時	終了時
n	78	78
平均	3.282	2.679
不偏分散	1.556	1.415
標準偏差	1.247	1.19
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 4.84
標準偏差縮小率 4.6%

家事活動(自立度)

	開始時	終了時
n	78	78
平均	3.5	2.756
不偏分散	1.37	1.485
標準偏差	1.171	1.219
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.35
標準偏差縮小率 -4.1%

家事活動(効率性)

	開始時	終了時
n	78	78
平均	3.372	2.769
不偏分散	1.613	1.582
標準偏差	1.27	1.258
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 4.75
標準偏差縮小率 0.9%

活動制限(家事)の改善

	開始時	終了時
n	80	79
平均	14.575	5.658
不偏分散	203.488	110.92
標準偏差	14.265	10.532
最小値	0	0
最大値	30	30

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.25
標準偏差縮小率 26.2%

仕事/学校(参加)

	開始時	終了時
n	74	74
平均	3.554	2.676
不偏分散	2.223	2.03
標準偏差	1.491	1.425
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.89
標準偏差縮小率 4.4%

仕事/課題(習熟)

	開始時	終了時
n	74	74
平均	3.554	2.716
不偏分散	2.004	1.987
標準偏差	1.416	1.41
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.92
標準偏差縮小率 0.4%

仕事(自立度)

	開始時	終了時
n	74	74
平均	3.541	2.716
不偏分散	1.896	1.932
標準偏差	1.377	1.39
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.99
標準偏差縮小率 -0.9%

仕事(効率性)

	開始時	終了時
n	72	73
平均	3.597	2.89
不偏分散	1.793	1.904
標準偏差	1.339	1.38
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.28
標準偏差縮小率 -3.1%

仕事の量・質の向上

	開始時	終了時
n	68	70
平均	1.779	1.629
不偏分散	0.174	0.237
標準偏差	0.418	0.487
最小値	1	1
最大値	2	2

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 3.59
標準偏差縮小率 -16.5%

収入の改善

	開始時	終了時
n	69	72
平均	1.783	1.639
不偏分散	0.173	0.234
標準偏差	0.415	0.484
最小値	1	1
最大値	2	2

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 3.47
標準偏差縮小率 -16.6%

仕事の従事日数の向上

	開始時	終了時
n	80	80
平均	16.275	9.375
不偏分散	204.328	175.199
標準偏差	14.294	13.236
最小値	0	0
最大値	30	30

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 4.83
標準偏差縮小率 7.4%

日常生活小計

	開始時	終了時
n	78	78
平均	29.872	24.038
不偏分散	94.035	78.921
標準偏差	9.697	8.884
最小値	10	7
最大値	44	43

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.02
標準偏差縮小率 8.4%

地域活動参加

	開始時	終了時
n	68	68
平均	3.559	2.897
不偏分散	1.743	1.765
標準偏差	1.32	1.329
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.02
標準偏差縮小率 -0.7%

環境因子(疎外因子)の改善

	開始時	終了時
n	75	76
平均	3.2	2.461
不偏分散	1.595	1.292
標準偏差	1.263	1.137
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.85
標準偏差縮小率 10.0%

環境因子(人的疎外因子)の改善

	開始時	終了時
n	77	77
平均	2.597	2.117
不偏分散	1.454	0.973
標準偏差	1.206	0.986
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 3.98
標準偏差縮小率 18.2%

健康改善

	開始時	終了時
n	77	77
平均	3.078	2.455
不偏分散	1.441	1.093
標準偏差	1.201	1.046
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.19
標準偏差縮小率 12.9%

心理的影響の改善

	開始時	終了時
n	77	77
平均	3.039	2.377
不偏分散	1.354	0.869
標準偏差	1.163	0.932
最小値	1	1
最大値	5	4

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.69
標準偏差縮小率 19.9%

経済状態の改善

	開始時	終了時
n	77	77
平均	3.273	2.701
不偏分散	1.543	1.344
標準偏差	1.242	1.159
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 4.61
標準偏差縮小率 6.7%

家族の負担軽減

	開始時	終了時
n	75	75
平均	3.32	2.84
不偏分散	1.464	1.217
標準偏差	1.21	1.103
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 3.97
標準偏差縮小率 8.8%

余暇生活

	開始時	終了時
n	77	77
平均	3.026	2.26
不偏分散	1.262	0.932
標準偏差	1.124	0.965
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.81
標準偏差縮小率 14.1%

社会への参加小計

	開始時	終了時
n	77	77
平均	24.506	19.662
不偏分散	58.28	43.358
標準偏差	7.634	6.585
最小値	8	7
最大値	40	35

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.35
標準偏差縮小率 13.7%

全体的な困難の軽減

	開始時	終了時
n	80	80
平均	17.063	7.913
不偏分散	190.54	126.41
標準偏差	13.804	11.243
最小値	0	0
最大値	30	30

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.63
標準偏差縮小率 18.6%

日常生活不能状態の改善

	開始時	終了時
n	80	80
平均	15.025	6.55
不偏分散	203.696	136.023
標準偏差	14.272	11.663
最小値	0	0
最大値	30	30

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.94
標準偏差縮小率 18.3%

日常生活不全状態の改善

	開始時	終了時
n	80	80
平均	12.35	7.238
不偏分散	192.382	138.259
標準偏差	13.87	11.758
最小値	0	0
最大値	30	30

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 3.69
標準偏差縮小率 15.2%

	単純合計	複雑集計1	複雑集計2	集中力	記憶力	課題解決力	学習能力	理解力	会話能力
機能訓練偏差値	7.4	8.0	7.7	5.1	3.3	5.7	5.3	3.5	3.4
機能訓練標準偏差縮小率	16%	16%	19%	40%	37%	33%	27%	39%	23%

	認知小計	立位能力	立ち上がり	屋内移動前	屋外近距離	屋外遠距離	可動性小計	活動力(洗)	活動力(更衣)
機能訓練偏差値	5.7	3.6	2.6	5.5	7.3	5.6	5.8	3.8	3.4
機能訓練標準偏差縮小率	45%	-1%	4%	17%	21%	-5%	6%	16%	17%

	活動力(食)	身辺自立度	セルフケア小	コミュニケー	交友関係維	身近な人と	新しい友人	性行為	他者との交流小計
機能訓練偏差値	2.3	4.0	4.1	5.0	4.3	5.2	5.4	1.5	5.3
機能訓練標準偏差縮小率	19%	2%	8%	9%	15%	23%	14%	-10%	13%

	家庭での役	家事活動(1)	家事活動(2)	家事活動(3)	活動制限(1)	仕事/学校	仕事/課題	仕事(自立)	仕事(効率性)
機能訓練偏差値	5.8	4.8	6.4	4.7	6.3	5.9	5.9	6.0	5.3
機能訓練標準偏差縮小率	11%	5%	-4%	1%	26%	4%	0%	-1%	-3%

	仕事の量・	収入の改善	仕事の従事	日常生活小	地域活動参	環境因子(1)	環境因子(2)	健康改善	心理的影響の改善
機能訓練偏差値	3.6	3.5	4.8	6.0	5.0	5.9	4.0	5.2	5.7
機能訓練標準偏差縮小率	-17%	-17%	7%	8%	-1%	10%	18%	13%	20%

	経済状態の	家族の負担	余暇生活	社会への参	全体的な困	日常生活不	日常生活不全状態の改善
機能訓練偏差値	4.6	4.0	6.8	6.3	6.6	5.9	3.7
機能訓練標準偏差縮小率	7%	9%	14%	14%	19%	18%	15%

■LSA

○機能訓練

	開始時	終了時
n	75	82
平均	31.227	53.091
不偏分散	611.265	688.235
標準偏差	24.724	26.234
最小値	3	6
最大値	100	120

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 8.84
標準偏差縮小率 -6.1%

	LSA
機能訓練偏差値	8.8
機能訓練標準偏差縮小率	-6%

■実用的歩行能力分類

○機能訓練

	開始時	終了時
n	53	53
平均	3.038	4.642
不偏分散	1.768	1.888
標準偏差	1.33	1.374
最小値	1	2
最大値	6	6

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 12.06
標準偏差縮小率 -3.3%

	歩行能力
機能訓練偏差値	12.1
機能訓練標準偏差縮小率	-3%

令和2年度厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）

分担 研究報告書

生活訓練での標準化された評価手法の確立へ向けた試験調査に関する研究

研究分担者	小島 正平	かがわ総合リハビリテーションセンター	成人施設長
	田中 康之	千葉県千葉リハビリテーションセンター	地域リハ推進部長
研究協力者	岩上 洋一	社会福祉法人じりつ	理事長
	遠藤 紫乃	一般社団法人スターアドバンス	代表理事
	高浜 功丞	千葉県千葉リハビリテーションセンター	主任作業療法士

研究要旨

生活訓練では、生活能力の維持・向上等のため、入浴、排せつ及び食事等に関する自立した日常生活を営むために必要な訓練、生活等に関する相談及び助言等の必要な支援を行うものとされているが、利用意向や帰結が障害種別によって多様性があることが先行研究からわかっている。そして、目標達成に向けた支援を行うにあたり、帰結だけではプログラム提供の効果測定ができない。また、生活訓練の標準的なアウトカム評価がないことから、事業所によって評価指標や評価基準に相違がある。当研究において標準的な評価指標について検討するための試験調査として、特定の事業所を対象に、既存の評価指標を用いて、生活訓練の効果に対する調査を実施した。この調査結果をもとに、設問や分析方法の修正を行ったうえで、令和3年度に本調査を行い、最終的には、標準的な評価指標を作成することを目指す。

A. 研究目的

生活訓練は十分な効果がある支援プログラムにより行われるべきであり、この効果を実証するための標準的な評価手法があるべきである。「自立訓練の実態把握に対する調査研究」の報告からはそれぞれの事業所により訓練内容や質が異なること、社会リハビリテーションの内容の広さもあって、適切に標準化された評価手法が確立されていないことが課題として挙げられている。本研究はそれぞれの事業所において標準的な評価手法のもとに十分な効果がある支援プログラムが利用者全てに適用されることを目的として行う。

令和2年度の研究においては、生活訓練の提供サービスに適した評価項目を検証するため、既存の評価指標を用い試験的に調査し、評価項目ごと

の傾向を分析し、次年度実施予定の大規模調査の調査票を完成させるために必要な情報収集を行うことを目的とする。

B. 研究方法

1. 対象

研究分担者・研究協力者の事業所及び知的障害、精神障害、高次脳機能障害において支援実績がある地域事業所（12事業所・62事例）

2. 調査内容

調査票（資料1）に従い、生活訓練事業所の支援者及び利用者に対し、過去の評価データと聞き取りにて回答してもらった。

3. 方法

基礎項目として性別、年齢、家族背景、疾患名、障害名、障害者手帳、支援区分、介護区分の他、利用意向や支援の到達度。成果項目として社会参加、収入状況などの生活状況。評価項目として既存指標である FIM、IADL 尺度、RAS、WHO/QOL26、WHODAS、LSA、実用的歩行能力分類の 7 指標を用い収集したデータをクリーニングした後に、利用前後での変化、各因子の相関等について解析した。

4. 調査期間

令和 2 年 11 月 24 日～令和 3 年 1 月 10 日

5. 倫理面への配慮

調査対象となる利用者は匿名にてデータ収集を行い、分析の際には統計処理したデータを使用した。

C. 調査結果

1. 基本項目

本調査における対象者の属性ほか基礎項目については以下の通りであった。

(1) 性別と年齢

調査対象者の性別は、総数 54 名に対して男性が 72.2%、女性が 27.8%となっていた。(図 1)

また年齢分布は、20代が 22.2%、30代が 11.1%、40代が 22.2%、50代が 31.5%となっており、50代～60代で半数を超えていた。(図 2)

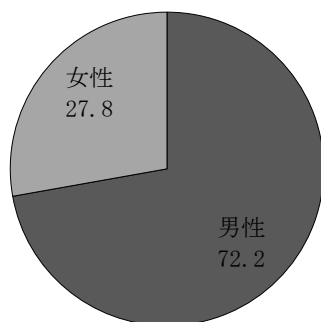
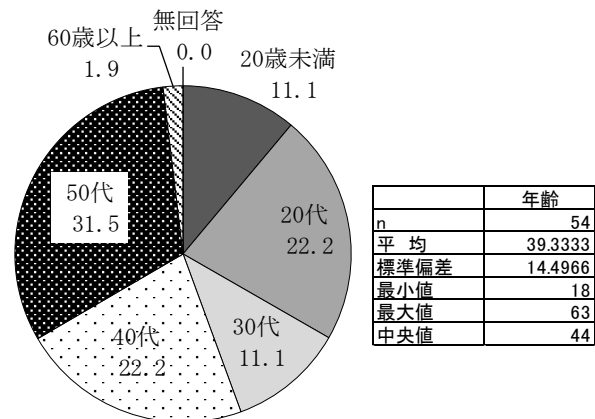


図 1:対象者の性別の割合 (n=54)



	年齢
n	54
平均	39.3333
標準偏差	14.4966
最小値	18
最大値	63
中央値	44

図 2:対象者の年齢分布 (n=54)

(2) 主たる障害と重複障害

主たる障害 (単一回答) については、「高次脳機能」が 59.3%と最も多く、続いて「精神」が 25.9%で、「発達」が 5.6%となっていた。

また重複障害 (複数回答) では、「肢体 (上肢)」と「肢体 (下肢)」がそれぞれ 22.2%、「精神」が 16.7%となっていた。(図 3)

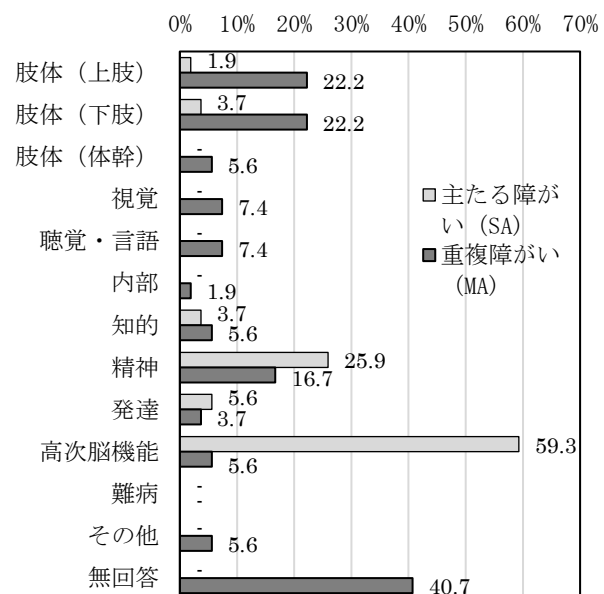


図 3:主たる障害・重複障害 (n=54)

(3) 精神分類

精神分類では、「うつ病」が 14.8%と最も多く、続いて「統合失調症」が 5.6%となっていた。(図 4)

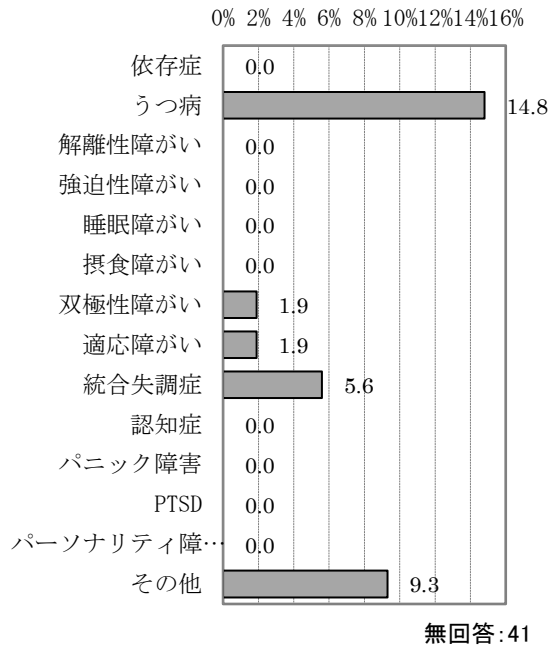


図 4: 精神分類 (n=54)

(4) 疾患名

疾患名では「外傷性脳損傷」が 29.6%と最も多く、次いで「脳血管疾患」が 25.9%となっていた。

(図 5)

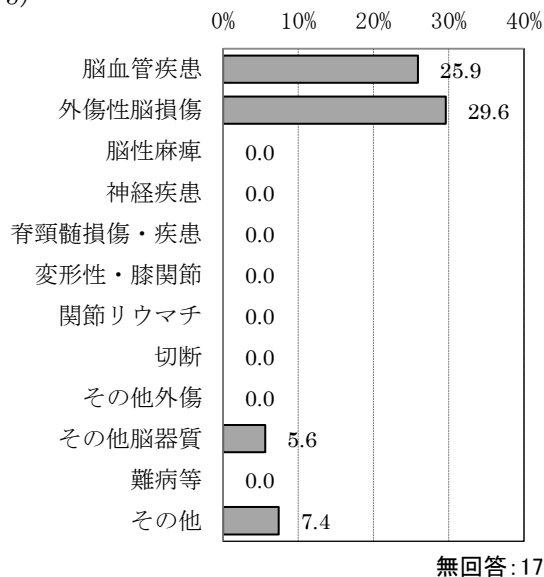


図 5: 対象者の疾患名 (n=54)

(5) 身体障害者手帳

対象者の身体障害者手帳の等級は「2 級」が 11.1%で、「1 級」「3 級」「5 級」がそれぞれ 37.0% (2 件) となっていた。(図 6)

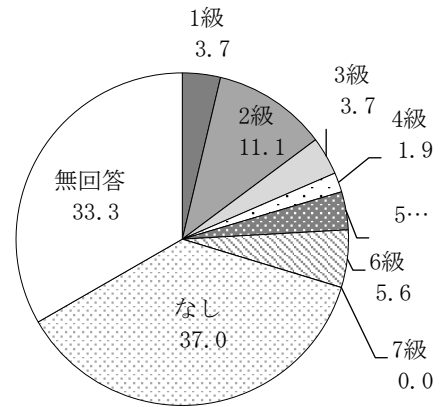


図 6: 身体障害者手帳の等級 (n=54)

(6) 精神障害者保健福祉手帳

対象者の精神障害者保健福祉手帳の等級については「2 級」が 44.4%で最も多く、「3 級」が 27.8%であった。また「なし」は 13.0%であった。(図 7)

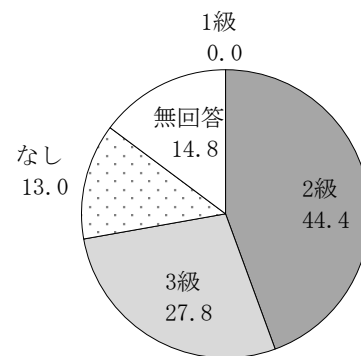


図 7: 精神障害者保健福祉手帳の等級 (n=54)

(7) 療育手帳

対象者の療育手帳の等級では「なし」が 50.0%で半数を超えており、「B」が 3.7%、「A」が 1.9%となっていた。(図 8)

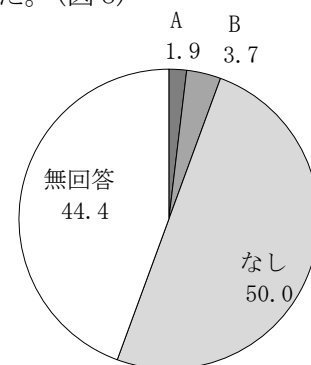


図 8: 療育手帳の等級 (n=54)

(8) 障害支援区分

対象者の障害支援区分では「区分 2」が 29.6%で最も多く、次いで「区分 3」「区分 4」が 7.4%となっていた。また「なし」が 44.4%であった。(図 9)

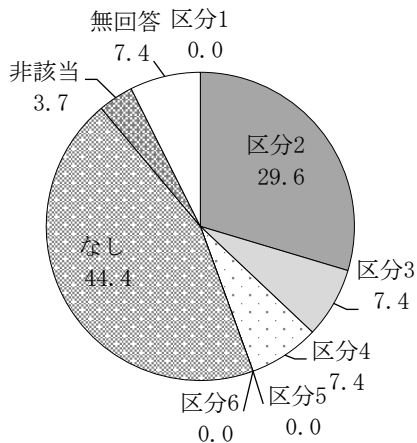


図 9:障害支援区分 (n=54)

(9) その他診断書など

対象者のその他診断書などは「精神」が 27.8%で「身体」が 1.9%となっていた。(図 10)

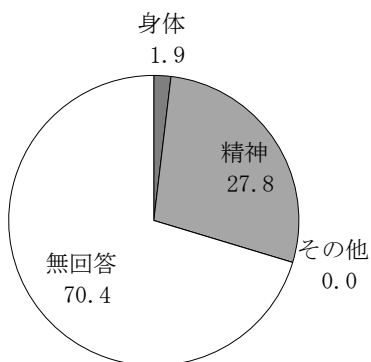


図 10:その他診断書など (n=54)

(10) 要介護度

対象者の要介護度は「要支援 1」と「要支援 2」とがそれぞれ 1.9%であり、要介護は 1~5 いずれも 0 件であった。また「非該当」は 18.5%、「未申請」は 42.6%となっていた。(図 11)

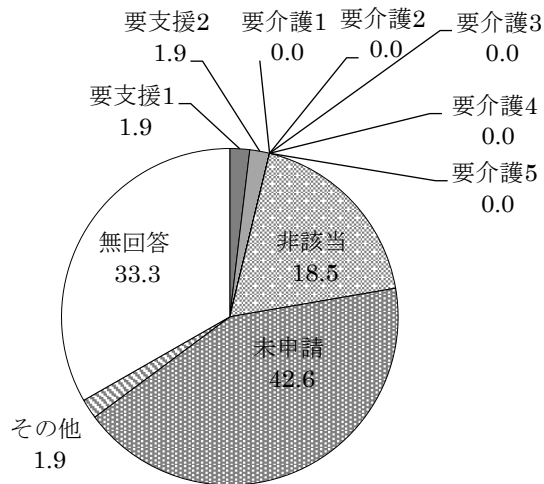


図 11:要介護度 (n=54)

2. 利用状況

本調査における対象者の利用状況については以下の通りであった。

(1) 利用意向と到達目標

調査対象者の利用意向は、「就労・就学への支援」が 48.1%と最も多く、次いで「家庭復帰・地域生活移行への支援」が 18.5%、「社会生活力の向上」が 14.8%となっていた。

また到達目標では、「生活リズムの獲得」が 27.8%と最も多く、次いで「社会生活力の向上」が 16.7%、「生活スタイルの構築・再構築」が 13.0%となっていた。(図 12)

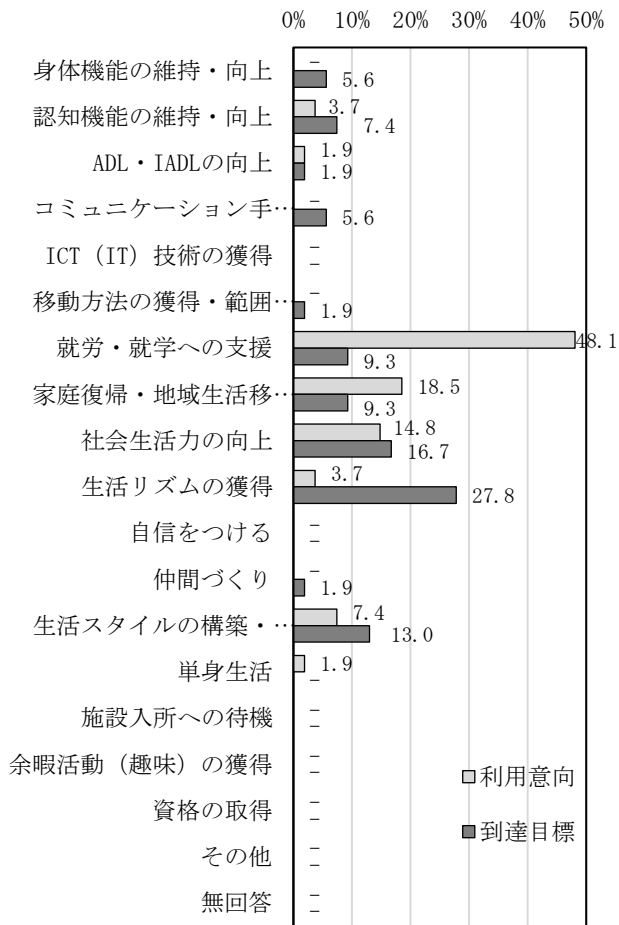


図 12: 利用意向と到達目標 (n=54)

(2) 利用日数

利用日数は「240～360日未満」が22.2%と最も多く、「360～480日未満」「120～240日未満」がともに20.4%となっていた。平均日数は401.1698日であった。(図13)

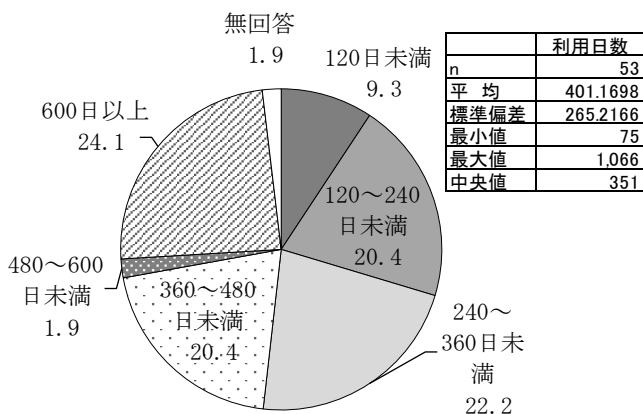


図 13: 利用日数 (n=54)

(3) 利用形態

利用形態では、開始時は「施設入所支援」が42.6%であったところ、終了時には29.6%と低下し、一方で「通所支援」は開始時40.7%であったものが終了時には53.7%と増加していた。(図14)

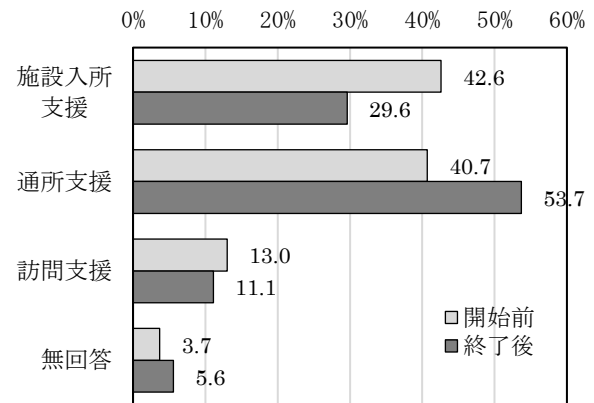


図 14: 利用形態 (n=54)

(4) 生活拠点

生活拠点は、「家族同居」が開始時と終了時とで53.7%で変化なく、「単身生活」は開始時の22.2%から終了時は24.1%と微増であった。その一方で、「共同生活援助」は開始時0%であったものが終了時には14.8%となっていた。(図15)

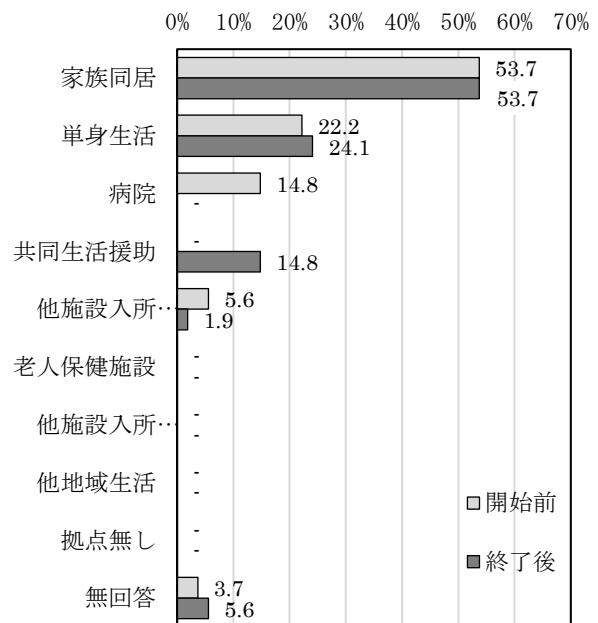


図 15: 生活拠点 (n=54)

(5) 家族背景

家族背景では、「単身」が訓練の開始前は25.9%であったものが、終了時には37.0%と増加しているのに対して、「両親（兄弟）と同居」は開始前44.4%から終了時33.3%へと減少、「配偶者（子供）と同居」も開始前18.5%であったものが終了時14.8%へと減少していた。（図16）

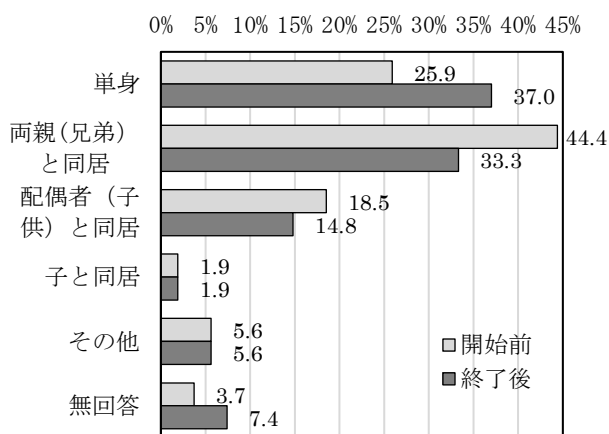


図16:家族背景(n=54)

3. 利用結果

本調査における対象者の利用結果について、以下の通りまとめた。

(1) 支援の到達度

支援の到達度では「目標が達成できた」が25.9%であり、「75%以上目標を達成できた」が50.0%となっていた。これらを合わせると全体の4分の3以上を占めていた。（図17）

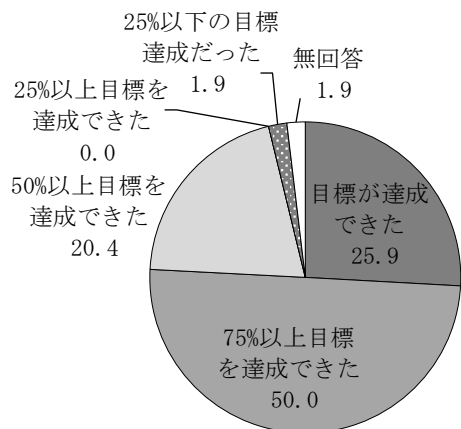


図17:支援の到達度(n=54)

(2) 社会参加の状況

社会参加の状況をみると、訓練開始前は「計画相談」が38.9%と最も多く、次いで「生活訓練」が33.3%、「活動なし」は20.4%となっていたが、訓練終了後になると「計画相談」55.6%で次いで「就労移行」が24.1%、「就労継続支援B型」も22.2%となっていた。（図18）

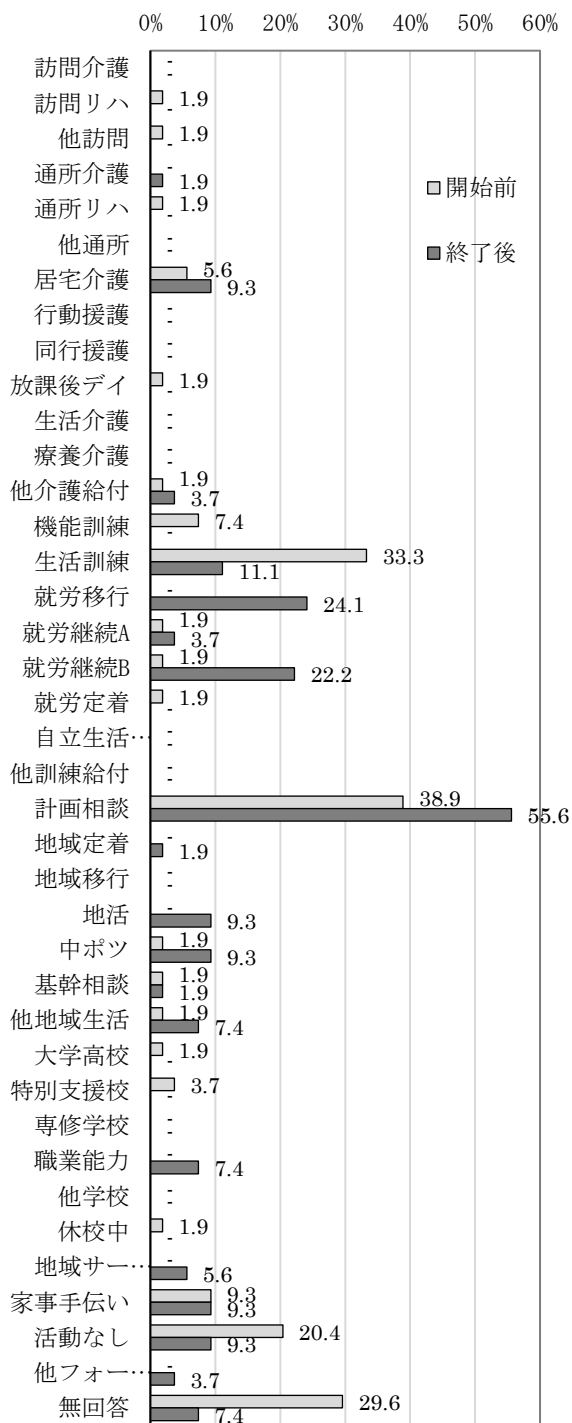


図18:社会参加の状況(n=54)

(3) 就労状況

就労状況では、訓練開始前は「無職」が 57.4%、「休職中」が 20.4%となっていたところ、訓練終了時には「無職」が 46.3%、「休職中」が 1.9%となり、「正規職員」が開始前 1.9%から終了時 16.7%と高くなっていた。(図 19)

なお、この就労状況における「訓練開始前」とは受傷・発症前の状況を指しており、受傷・発症を経て訓練を開始した段階での状況を指しているわけではないことに留意する必要がある。

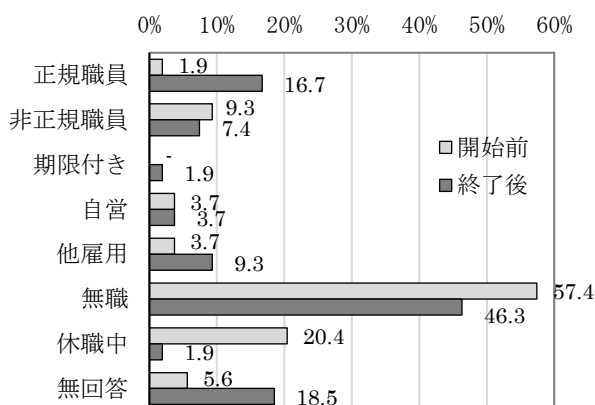


図 19: 就労状況 (n=54)

(4) 収入状況

収入状況について、訓練開始前後での年金などの収入状況をみると、「障害基礎年金」は訓練開始前の 24.1%から訓練終了後には 35.2%に上昇しており、「障害厚生年金」も訓練開始前の 13.0%から訓練終了後には 20.4%に上昇していた。(図 20)

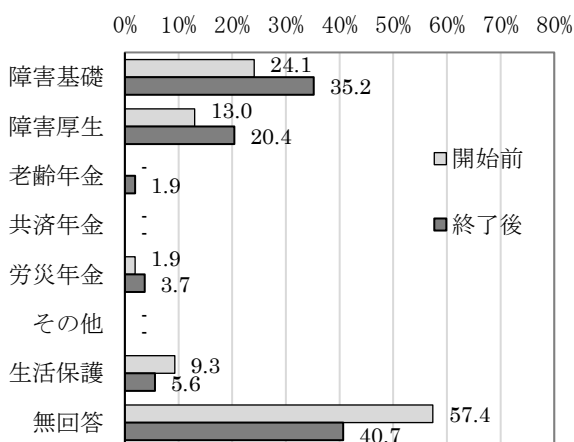


図 20: 年金など収入状況 (n=54)

また訓練開始前後での他の収入状況では、訓練開始前は「家族収入」が 31.5%、「傷病手当(雇用)」が 13.0%、「労働収入」「傷病手当金(健康)」がともに 9.3%という順になっていた。訓練終了後は「家族収入」は 24.1%、「傷病手当(雇用)」は 1.9%に、「傷病手当金(健康)」は 12.0%にそれぞれ減少していたが、その一方で、「労働収入」は訓練開始前 9.3%から訓練終了後 27.8%へと上昇しており、「その他賃金」も訓練開始前 0%から訓練終了後 11.1%へと上昇していた。(図 21)

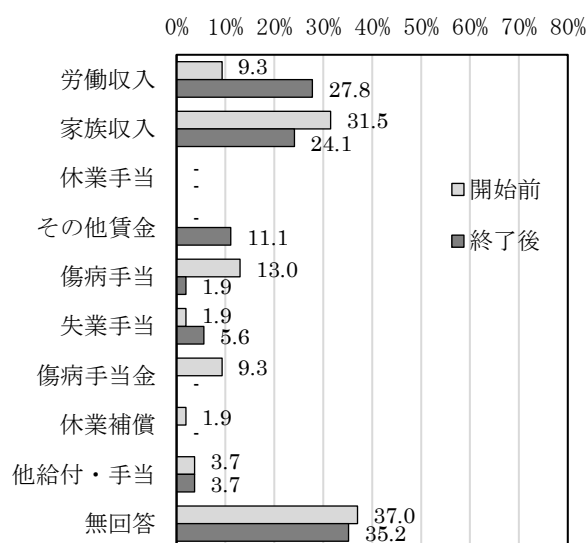


図 21: 他の収入状況 (n=54)

4. 評価指標調査結果

(1) 偏差値を用いた各指標の項目ごとの変化

本調査では、採点方法や得点の分布傾向の異なる複数の評価指標を比較するために、以下の数式にて偏差値を求め、それを基に分析した。

$$\frac{(\text{終了時平均値}) - \text{平均点} (\text{開始時平均値}) \times 10}{\text{標準偏差} (\text{開始時標準偏差})}$$

※0 を標準値とする(50 とない)

※WHO/QOL の一部の項目、WHO/DAS の全ての項目については、減点による評点であるため、分子を「開始時平均値－終了時平均値×10」とした。

また、標準偏差の縮小が、利用者が同じ環境である自立訓練を利用することによる変化であることも捉えられることから、標準偏差縮小率を参考値として分析した。偏差値がプラスとなっている場合に、標準偏差が縮小している場合（向上方向に集中している場合）は、より効果が認められたと捉えた。

※縮小率とは、開始時に対する終了時の数値の縮小した割合と指す。

1) 機能的自立度評価(FIM)

全体では、偏差値で 7.4 ポイントの向上があった。また、認知面が 9.1 ポイントと、大きく向上が見られ、具体的項目では「問題解決」の向上が最も大きく、次いで「社会的交流」「記憶」「表出」の順に向上があった。また、標準偏差縮小率を見ると、殆どの項目において向上が見られ、特に ADL に関する集中が顕著であった。(図 22)

実際の利得値では、合計値で 6.1 ポイント、認知合計が 4.0 ポイントであった。(図 23)

機能的自立度評価(FIM)

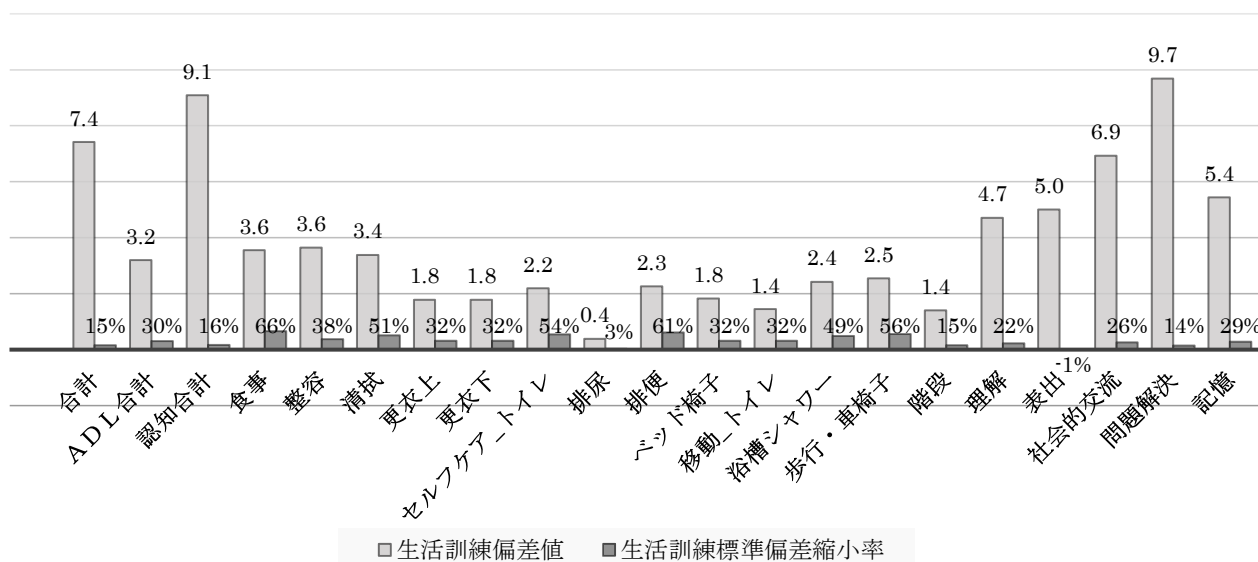


図 22:FIM 偏差値・標準偏差縮小率

FIM利得

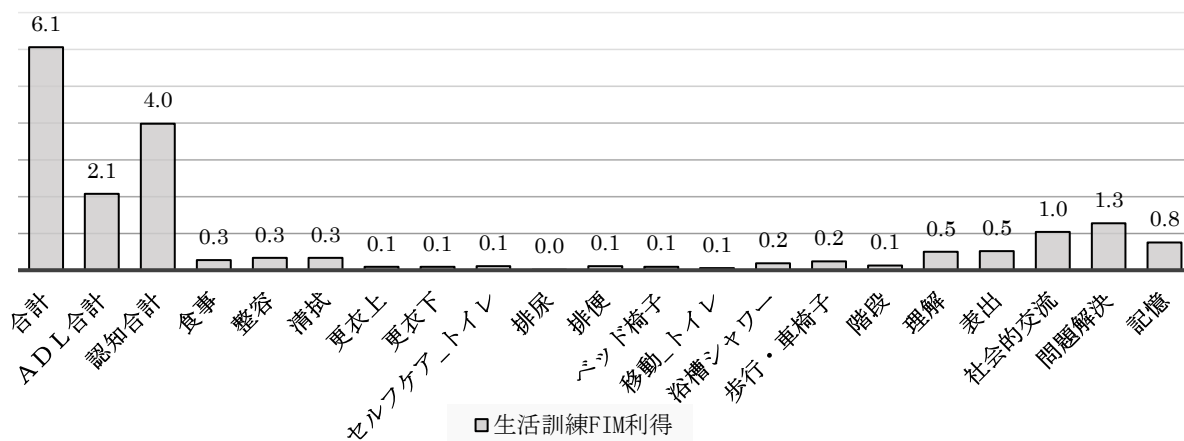


図 23:FIM 利得

2) 手段的日常生活活動(IADL)尺度

全体では 7.6 ポイントの向上があった。具体的項目では「食事の準備」が 5.7 ポイント、「服薬管理」が 5.6 ポイント、「買い物」が 5.5 ポイントと向上が最も大きく、次いで「財産管理」4.2 ポイントであった。IADL 尺度では、「食事の準備」「家事」「洗濯」が女性のみを対象とした項目であること

から、男性では「服薬管理」「買い物」の向上が最も大きかった。

標準偏差縮小率では、向上方向への集中が「財産管理」で大きく、次いで「移送の形式」であった。逆に幅の広がりがあったのは「食事の準備」であった。(図 24)

IADL尺度

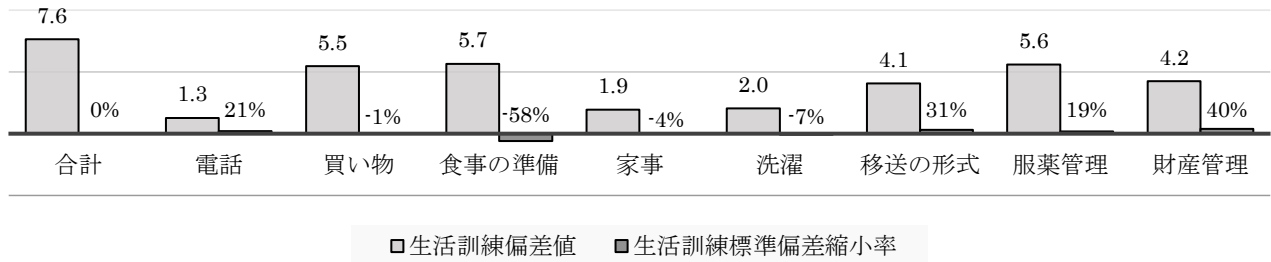


図 24:IADL 尺度偏差値・標準偏差縮小率

3) Recovery Assessment Scale (RAS)

全体では 15.0 ポイントの向上があった。具体的項目では「ストレス対処」が 14.2 ポイント、「生活設計」が 14.1 ポイントと最も大きく向上し、次いで「ハンディキャップ意識の低下」が 11.8 ポイント、「障害の負担感の低下」が 10.9 ポイントであった。

標準偏差縮小率では、改善方向へ集中した項目が多かったが、いくつかの項目に幅の広がりが見られた。(図 25)

なお、各項目の表現については表 1 の通り簡略化した。

原文	簡略化後の表現
1 生きがいがある	生きがい
2 不安があっても、自分のしたい生き方ができる	自己実現力
3 自分の人生で起ることは、自分で何とかできる	課題解決力
4 自分のことが好きだ	自己満足度
5 人々が自分のことをよく知ったら、好ましく思ってくれるだろう	人間関係への自信
6 自分がどんな人間になりたいかという考えがある	将来展望
7 自分の将来に希望を持っている	自己肯定感
8 いつも好奇心がある	好奇心
9 ストレスに対処することができる	ストレス対処
10 成功したいという強い願望がある	成功願望
11 元気でいたり、元気になつたりするための、自分なりの計画がある	生活設計
12 到達したい人生の目標がある	人生目標
13 現在の自分の目標を達成できると信じている	目標達成への自信
14 手助けを求めた方がよいのがどのような時か、知っている	援助依頼(必要性の判断)
15 手助けを求めてもかまわないと思う	援助依頼(積極性)
16 必要な時には、手助けを求める	援助依頼(実行力)
17 たとえ自分で自分のことを気にかけていなくても、他の人は私を気にかけてくれる	共感性
18 何か良いことが、いつかは起きるだろう	楽観性
19 頼りにできる人がいる	支援者の存在
20 たとえ自分のことを信じていない時でも、他の人が信じてくれる	他者との信頼関係
21 さままな友達を持つことは、大切なことだ	友人意識
22 精神の病気に対処することは、いまでは私の暮らしで最も重要なことではない	障害の重要度の低下
23 症状が私の生活の妨げとなることは、だんだん少なくなっている	ハンディキャップ意識の低下
24 私の症状が問題になる時間の長さは、毎回短くなっているようだ	障害の負担感の低下

表 1:RAS 原文の簡略化

Recovery Assessment Scale

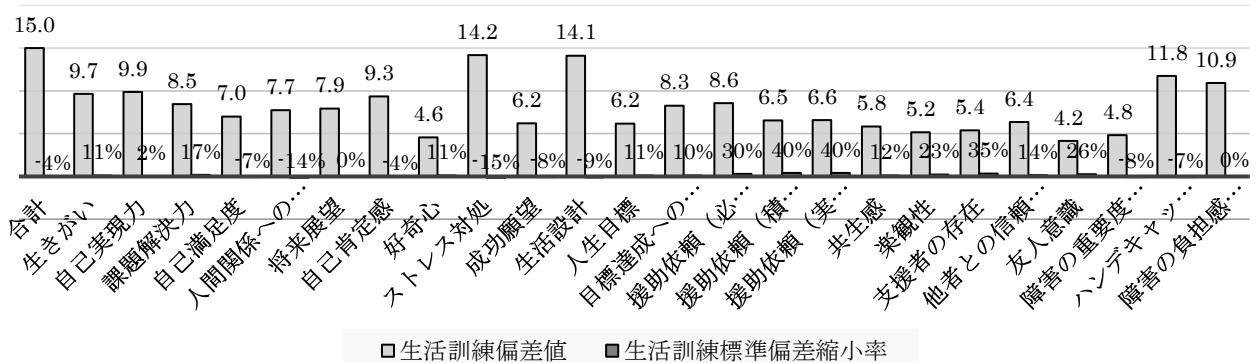


図 25:RAS 偏差値・標準偏差縮小率

4) WHO QOL 26

全体では 15.1 ポイントの向上があった。具体的項目では「生活の意義の実感」の向上が最も大きく 13.6 ポイント、次いで「領域Ⅱ心理的領域」が 12.6 ポイント、「生活への安全度」が 11.9 ポイント、「生活への活力」が 10.9 ポイントであった。

標準偏差縮小率では、向上方向へ集中した項目と幅の広がりがあった項目があった。(図 26)

なお、各項目の表現については表 2 の通り簡略化した。

原文	原文カテゴリ	簡略化後の表現
1 自分生活の質をどのよう評価しますか	全体	生活の質の評価
2 自分の健康状態に満足していますか	全体	健康状態の満足度
3 身体の痛みや不快感のせいで、しなければならないことがどのくらい制限されていますか	身体的領域	障害による活動制限の緩和
4 毎日の生活の中で治療(医療)がどのくらい必要ですか	身体的領域	医療の必要度の軽減
5 毎日の生活をどのくらい楽しく過ごしていますか	心理的領域	生活の充実度
6 毎日の生活をどのくらい意味あるものと感じていますか	心理的領域	生活の意義の実感
7 物事にどのくらい集中することができますか	心理的領域	集中力
8 毎日の生活はどのくらい安全ですか	環境	生活の安全度
9 あなたの生活環境はどのくらい健康的ですか	環境	健康的な生活環境
10 毎日の生活を送るための活力はありますか	身体的領域	生活する活力
11 自分や家族(外見)を誇り入れることができますか	心理的領域	外見(顔)の受容
12 必要なお金が足りないお金の心配をしていますか	環境	経済的余裕
13 毎日の生活に必要な情報をどのくらい得ることができますか	環境	情報を得る機会
14 余暇を楽しむ機会はどのくらいありますか	環境	余暇機会
15 家の周囲を出まわることがよくありますか	身体的領域	近隣外出の機会
16 睡眠は満足いくものですか	身体的領域	睡眠の満足度
17 毎日の活動をやり遂げる能力に満足していますか	身体的領域	活動力の満足度
18 自分の仕事を完了する能力に満足していますか	身体的領域	身体的能力の満足度
19 自分自身に満足していますか	心理的領域	自己満足度
20 人間関係に満足していますか	社会的領域	人間関係満足度
21 性生活に満足していますか	社会的領域	性生活への満足度
22 友人たちの支えに満足していますか	社会的領域	友人への満足度
23 家や家のまわりの環境に満足していますか	環境	自宅環境満足度
24 社会福祉や福祉サービスの利用が十分に満足していますか	環境	福祉満足度
25 周辺交通の便に満足していますか	環境	移動環境満足度
26 気分がすくなくったり、絶望、不安、落ち込みといったいやな気分をどのくらいひんぱんに感じますか	心理的領域	心理的負担の軽減

表 2:WHOQOL 原文の簡略化

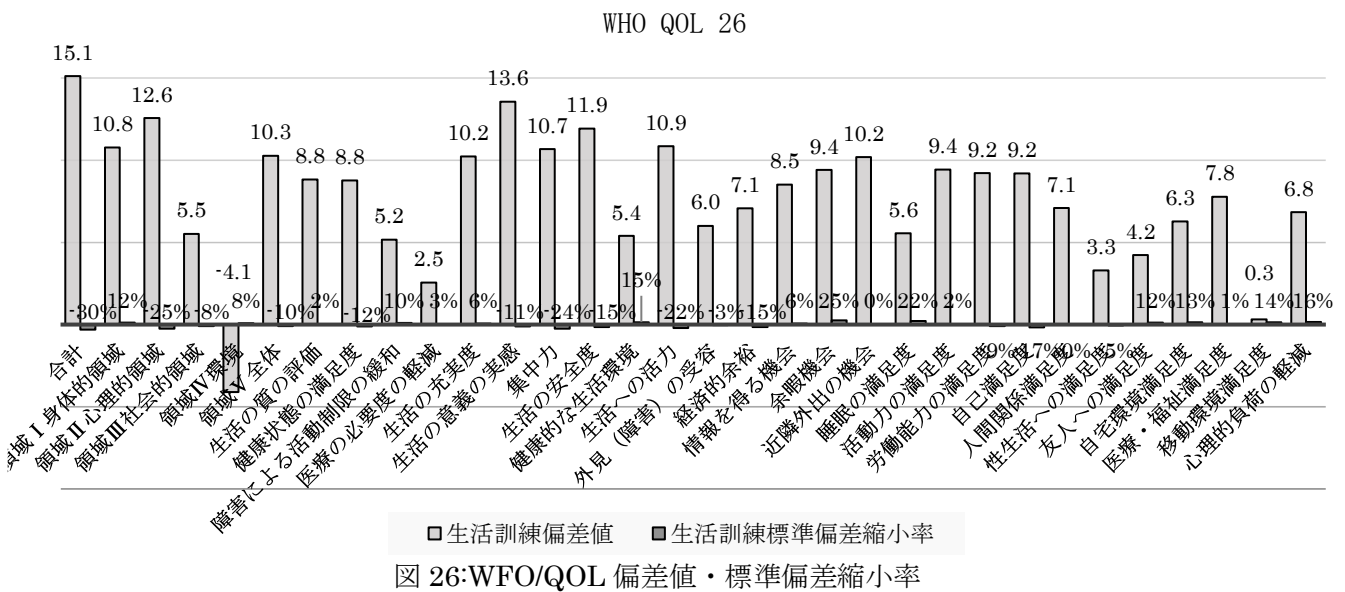


図 26:WFO/QOL 偏差値・標準偏差縮小率

5) WHODAS 2.0

単純合計では 11.9 ポイント、複雑合計 1 では 12.3 ポイント、複雑合計 2 では 11.5 ポイントの向上があった。具体的項目では「課題解決力」の向上が 11.2 ポイントと最も大きく、次いで「学習能力」が 10.2 ポイント、「集中力」が 8.4 ポイント、「コミュニケーション力」が 8.2 ポイントであった。

標準偏差縮小率では、殆どの項目で向上方向への集中が見られた。(図 27)

なお、各項目の表現については表 3 の通り簡略化した。

原文	原文カテゴリ	簡略化後の表現
1.1 何かをするとき、10分間集中する	認知	集中力
1.2 大切なことを覚えている	認知	記憶力
1.3 日常生活での問題を分析して解決法を見つける	認知	課題解決力
1.4 新しい課題、例えば初めての場所へ行く方法を学ぶ	認知	学習能力
1.5 みんなが言っていることを、普通に理解する	認知	理解力
1.6 自ら会話を始めたり続けたりする	認知	会話能力
2.1 長時間(30分くらい)立っている	運動性	立位能力
2.2 歩いているところから立ち上がる	運動性	立ち上がり
2.3 車の中で歩回る	運動性	車内移動能力
2.4 家の外に出る	運動性	屋外近距離移動
2.5 1kmほどの長距離を歩く	運動性	屋外遠距離移動
3.1 全身を洗う	セルフケア	活動力(洗体)
3.2 自分で歯を磨く	セルフケア	活動力(歯磨)
3.3 食事を摂る	セルフケア	活動力(食事)
3.4 毎日一人で過ごす	セルフケア	身辺自立度
4.1 見知らぬ人に応対する	他者交流	コミュニケーション力
4.2 人間関係を築く	他者交流	交際関係性
4.3 知らない人と交流をする	他者交流	身近な人との交流
4.4 新しい友人を作る	他者交流	新しい友人を作る
4.5 性行為をする	他者交流	性行為
5.1 家庭で要求される作業を行う	日常生活	家庭での役割
5.2 最も大切な家事をこなす	日常生活	家事活動(計画)
5.3 なすべし全ての家事労働を片付ける	日常生活	家事活動(自立度)
5.4 必要に応じてできるだけ早く家事労働を終わらせる	日常生活	家事活動(効率性)
5.01 健康状態により、過去30日間に何日くらい、家事労働を減らしたり、または休んだりしましたか(日数)	日常生活	活動制限(家事)の改善
5.5 毎日の仕事をすらすら学校へ行く	日常生活	仕事/学校(参加)
5.6 最も大切な仕事/学校の課題をすらすらこなす	日常生活	仕事/課題(習熟)
5.7 なすべし全ての仕事を済ます	日常生活	仕事(自立度)
5.8 必要に応じてできるだけ早く仕事を済ます	日常生活	仕事(効率性)
5.9 健康状態のために、仕事の量や質を下げた働きませんでしたか	日常生活	仕事の量・質の向上
5.10 健康状態の結果として、収入が少なくなりましたか	日常生活	収入の改善
5.02 健康状態により、過去30日間に何日くらい、半日以上仕事を休みましたか(日数)	日常生活	仕事の従事日数の向上
6.1 誰もができていけいけで地域社会の活動に加わるのに、どれほど問題がありましたか	社会参加	地域活動参加
6.2 知人のいけいけや結婚のため、どれほど問題がありましたか	社会参加	理想の生活(結婚)の改善
6.3 他人の態度や行為のため、自分らしさを保つて生きていくのに、どれほど問題がありましたか	社会参加	環境因子(人的)障因子の改善
6.4 健康状態やその改善のために、どれほど時間をかける必要がありましたか	社会参加	健康改善
6.5 健康状態のために、どれほど経済的に影響を受けましたか	社会参加	心理的影響の改善
6.6 あなたの健康状態は、あなたや家族に、どれほど経済的損失をもたらしましたか	社会参加	経済状態の改善
6.7 あなたの健康状態により、家族はどれほど大きな問題を抱えましたか	社会参加	家族の負担軽減
6.8 リラクゼーションが、楽しんだりするために、自分で何かを行うのに、どれほど問題がありましたか	社会参加	余暇生活
H1 健康状態により、過去30日間に何日くらい、こうした難しさがありましたか(日数)		全体的な困難の軽減
H2 健康状態のために、過去30日間に何日くらい、通常の活動や仕事ができなくなりましたか(日数)		活動・労働不能状態の改善
H3 全くできなかった日を除いて、健康状態により過去30日間に何日くらい、通常の活動や仕事を、途中で止めたり遅くしたりしましたか(日数)		活動・労働不調状態の改善

表 3:WHO/DAS 原文の簡略化

WHO DAS 2.0

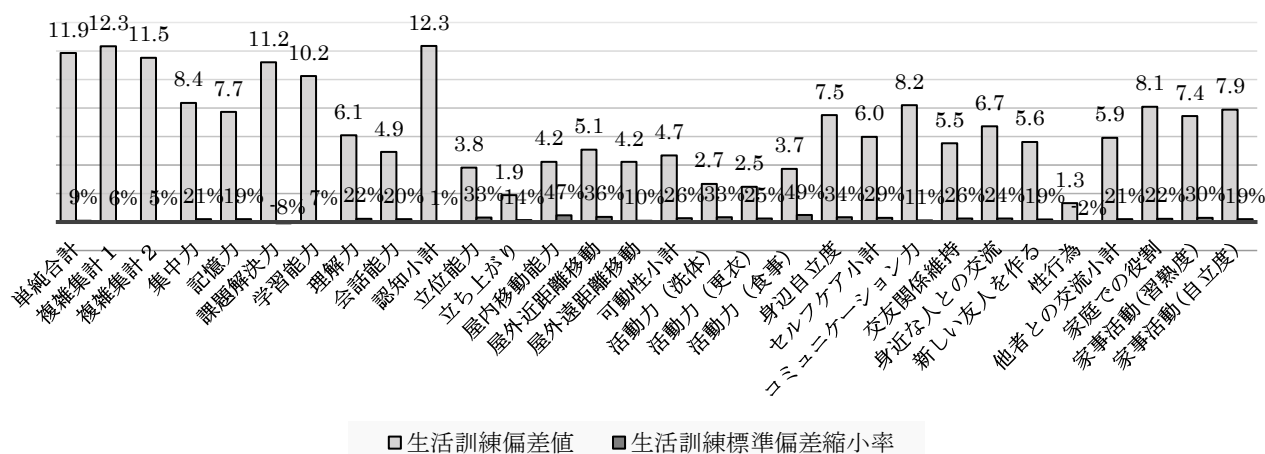


図 27:WHO/DAS 偏差値・標準偏差縮小率

6) Life Space Assessment (LSA)

10.0 ポイントの向上があり、移動、行動範囲の広がりが認められた。

標準偏差縮小率はほとんど変わらなかった。(図 28)

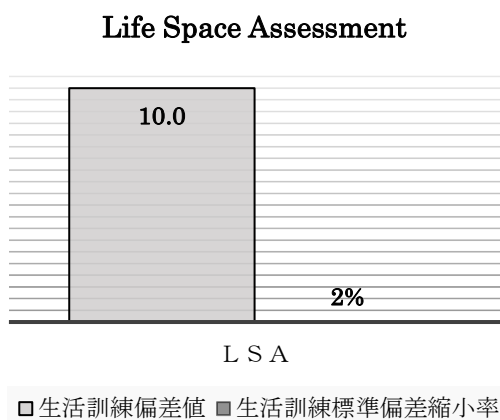


図 28:LSA 偏差値・標準偏差縮小率

7) 実用的歩行能力分類

5.2 ポイントの向上があり、歩行能力の向上が認められた。

標準偏差縮小率では、僅かに向上方向への集中が見られた。(図 29)

実用的歩行能力分類

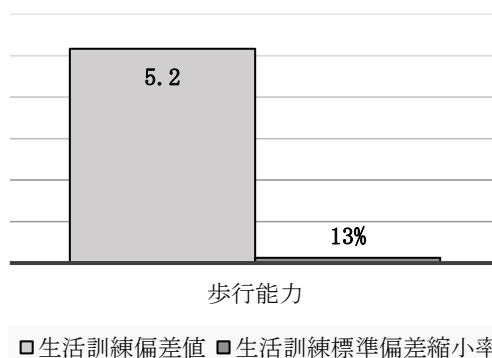


図 29:実用的歩行能力偏差値・標準偏差縮小率

(2) 評価指標ごとの変化の比較

評価指標ごとの変化の比較では、WHO/QOL が 15.1 ポイント、RAS が 15.0 ポイントと最も変化が認められ、その次に WHO/DAS が 11.9 ポイント、LSA が 10.0 ポイント、FIM が 7.4 ポイント、実用的歩行能力分類が 5.2 ポイントであった。

一方で、「WHO/QOL 領域IV環境」において、-4.1 の低下がみられた。(図 30) また、標準偏差縮小率では、WHO/QOL に大きく広がりが見られ、「領域II 心理的領域」に顕著であった。(図 31)

評価指標の偏差値比較

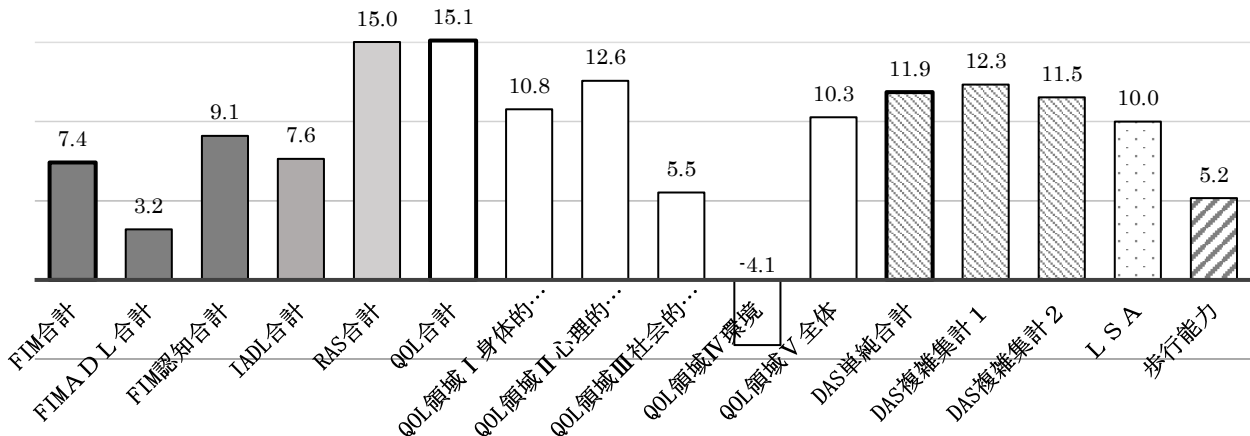


図 30: 評価指標偏差値比較

すべての項目の標準偏差縮小率比較

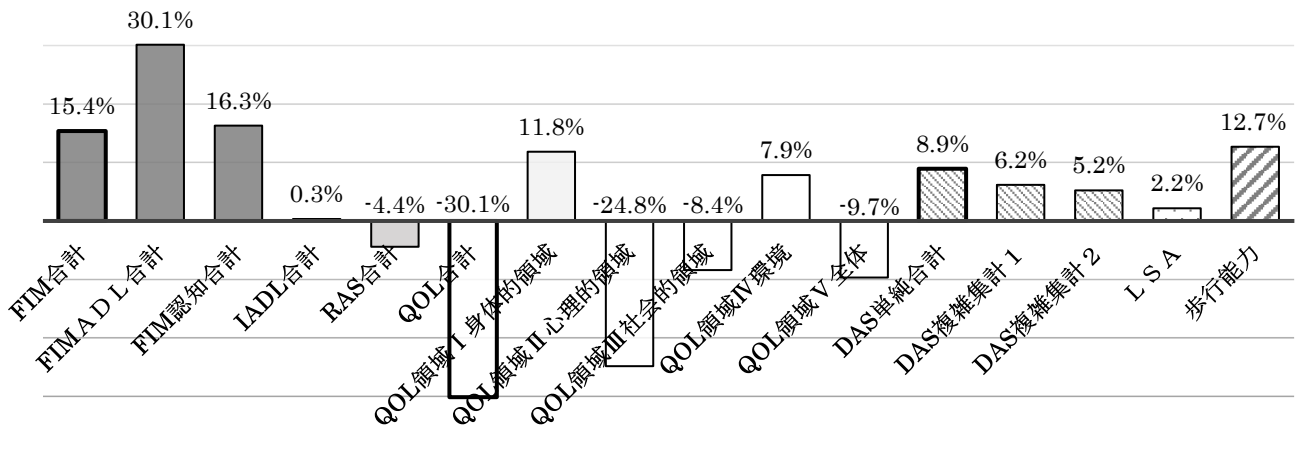


図 31: 項目標準偏差縮小率比較

これらのことから、WHO/QOL に効果のばらつきがあるものの、自立訓練（生活訓練）の利用開始時と終了時の比較では、調査対象としたいずれの評価指標によっても向上が確認できた。

(3) ICF に基づいたカテゴリーごとの変化の比較

評価指標の各項目について ICF の概念に基づきカテゴライズを試み（表 4）、それを基にカテゴリー間で変化の程度を比較した。

その結果、「参加（就労・就学）」が 8.4 ポイント、「認知機能」が 7.83 ポイントと変化が最も顕著であった。次いで「環境因子」が 7.4 ポイント、

「参加（地域生活）」が 7.2 ポイント、「健康状態（身体）」「健康状態（精神）」が 6.2 ポイントであった。（図 32）

カテゴリー別 偏差値平均比較

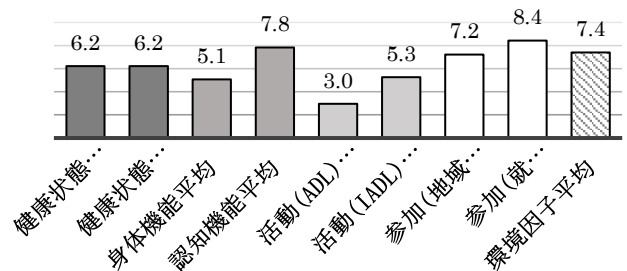


図 32: カテゴリー別偏差値平均比較

ICF	健康状態		心身機能・身体構造		活動		参加		環境因子	個人因子
	身体面	精神面	身体面	認知面	ADL	IADL	地域生活	就労・就学		
FIM				理解	食事					
				表出	整容					
				社会的交流	清拭					
				問題解決	更衣上					
				記憶	更衣下					
					セルフケア_トイレ					
					排尿					
					排便					
					ベッド椅子					
					移動_トイレ					
					浴槽シャワー					
				歩行・車椅子						
				階段						
IADL尺度							電話			
							買い物			
							食事の準備			
							家事			
							洗濯			
							移送の形式			
							服薬管理			
						財産				
RAS		生きがい						自己実現力		
		自己満足度						課題解決力		
		将来展望						人間関係への自信		
		自己肯定感						生活設計		
		好奇心						人生目標		
		ストレス対処						援助依頼(必要性の判断)		
		成功願望						援助依頼(積極性)		
		目標達成への自信						援助依頼(実行力)		
		楽観性						支援者の存在		
		障害の重要度の低下						他者との信頼関係		
		ハンデキャップ意識の低下						友人意識		
	障害の負担感の低下									
	共生感									
WHO/QOL	医療の必要度	生活の充実度	活動制限の緩和	集中力			情報を得る機会	労働能力の満足度	生活の安全度	
	睡眠の満足度	生活の意義	活動力の満足度	生活する活力			余暇機会		健康的な生活環境	
	健康状態の満足度	外見(障害)の受容					近隣外出の機会		自宅環境満足度	
		自己満足度					人間関係満足度		移動環境満足度	
		心理的負荷の軽減					性生活への満足度		経済的余裕	
						友人への満足度		医療・福祉満足度		
WHO/DAS	健康改善	心理的影響の改善	立位能力	集中力	屋内移動能力	身辺自立度	交友関係維持	仕事/学校(参加)	疎外因子の改善	
			立ち上がり	記憶力	屋外近距離移動	家事活動(習熟度)	身近な人との交流	仕事/課題(習熟)	人的疎外因子の改善	
				課題解決力	屋外遠距離移動	家事活動(自立度)	新しい友人を作る	仕事(自立度)	家族の負担軽減	
				学習能力	活動力(洗体)	家事活動(効率性)	性行為	仕事(効率性)	全体的な困難の軽減	
				理解力	活動力(更衣)	活動制限(家事)の改善	家庭の役割	仕事の量・質の向上	経済状態の改善	
				会話能力	活動力(食事)		地域活動参加	収入の改善		
					コミュニケーション力		余暇生活	仕事の従事日数の向上		
							活動・労働不能状態の改善	活動・労働不能状態の改善		
						活動・労働不能状態の改善	活動・労働不能状態の改善			
LSA							外出			
実用的歩行能力							歩行(移動)			

表 4: ICF を基にした評価指標項目のカテゴリズ

これらのことから、自立訓練（生活訓練）の利用開始時と終了時では、いずれのカテゴリーでも向上していることが確認でき、特に、就労・就学の力や認知機能の向上が顕著であることが確認できた。更に、各カテゴリーの中での項目の変化を見る

と、健康状態では、「ストレス対処」が 14.2 ポイントと最も多く、「生活の意義の実感」が 13.6 ポイントと最も高く、次いで「ハンディキャップ意識の低下」11.8 ポイント、「障害の負担感の低下」10.9、「生活の充実度」10.2 ポイントと精神面での

高い向上が認められた。心身機能・身体構造でも、「課題解決力」が 11.2 ポイント、「生活する活力」が 10.9 ポイント、「集中力」が 10.7 ポイントと高く、認知面の向上や活動性の高まりとともに、ストレス耐性の高まりや充実感の高まりが窺えた。

また、活動や参加を見ると、地域生活の「生活設計」が 14.1 ポイントと飛びぬけて高く、「自己実現力」が 9.9 ポイントと、将来展望を前向きに描いている状態が窺えた。また、「近隣外出の機会」が 10.2 ポイント、「外出」が 10.0 ポイントと移動能力の高まりや行動範囲の拡大が見られる他、余暇や家庭での役割に関することや、人との交流に関する事でもポイントが高く、社会生活面での全般的な向上が見られた。

これらのことから、自立訓練(生活訓練)の利用後に社会生活力が大きく向上していることが確認できた。

また、就労・就学においては、「仕事(自力度)」の 12.4 ポイントをはじめ、全般的に大きく向上していることから、就労・就学についても、自立訓練(生活訓練)の利用後にプラスの変化があることが分かった。

更に、環境要因についてもプラスの変化が大きく見られた。

なお、当然ながら「健康状態(精神)」の評価項目のすべてが主観評価であり、「参加(地域生活)」、「参加(就労・就学)」の殆どが、主観評価又は「主観/客観評価」(本人に客観的事実を問うもの)であった。また、「コミュニケーション力」等「活動(ADL)」で最も変化の大きい指標は「主観/客観評価」であった。(図 33)

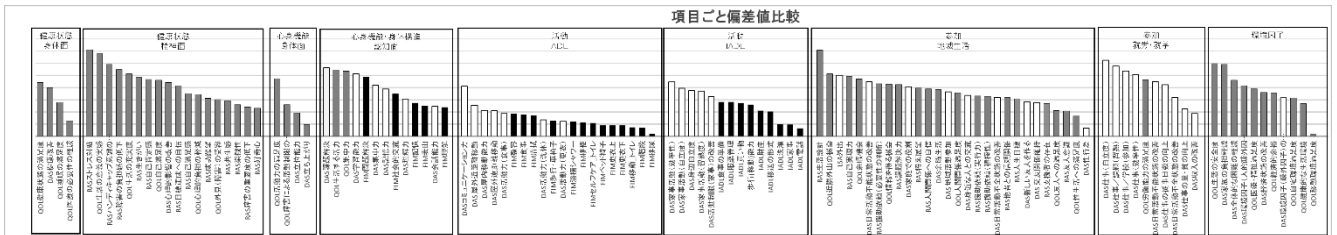
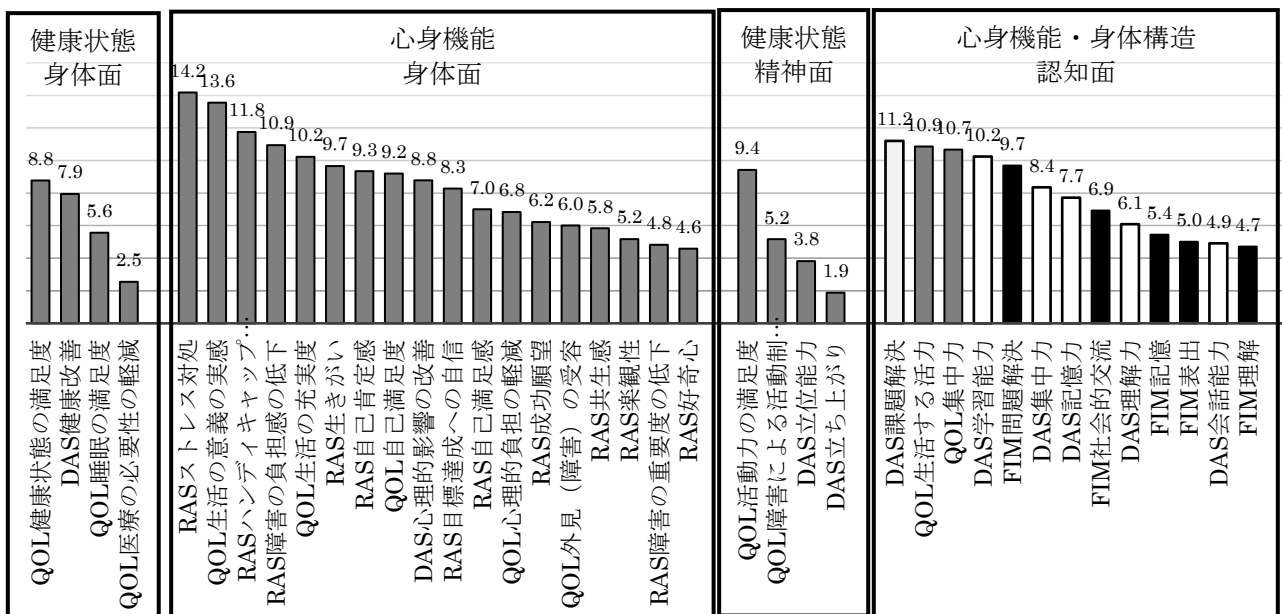
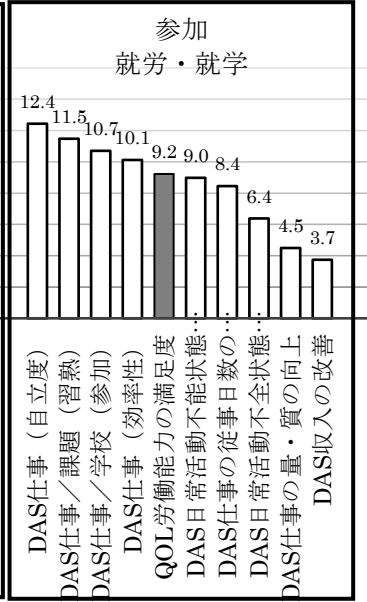
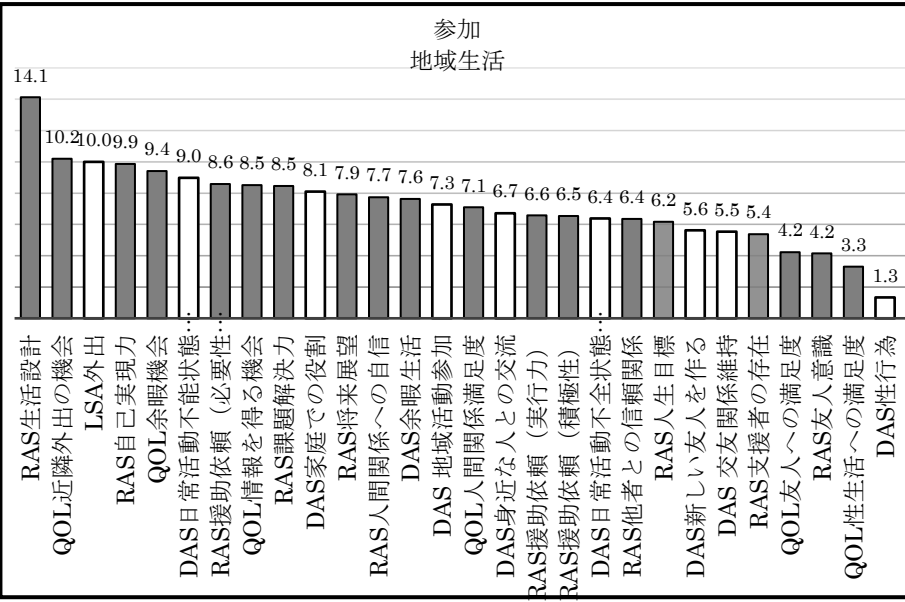
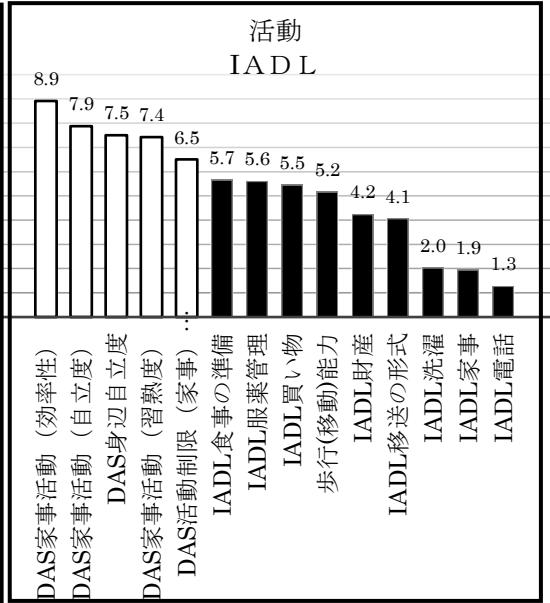
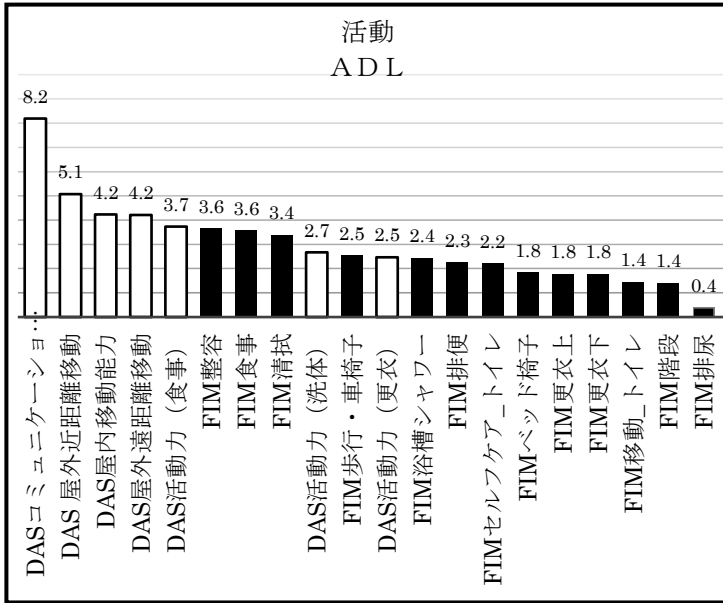
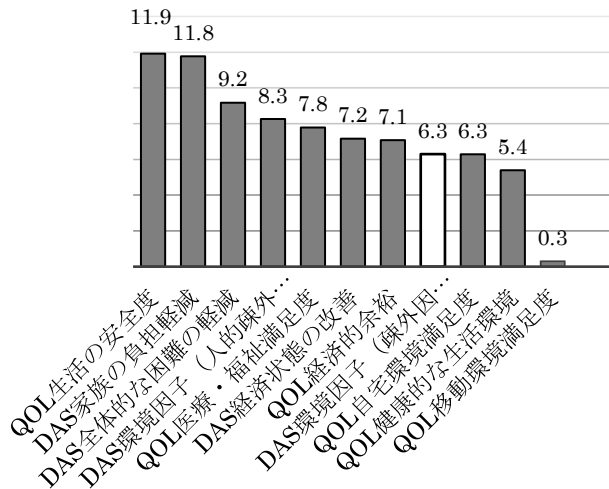


図 33:項目ごと偏差値比較





環境因子



棒グラフ: 黒…客観評価、グレー…主観評価、白…客観/主観評価

5. 結論

以上のことから、今回の調査で、自立訓練(生活訓練)の利用後に、利用者の精神面、日常生活や社会生活面で大きく向上・改善されていることが明らかとなった。

特に、課題解決力、活力、集中力等の認知面や精神活動、生活設計や外出、余暇活動、対人関係づくり、支援の依頼等の社会生活力や就労面において

プラスの変化が認められたことから、ICF で言う「活動」や「参加」の変化、「活動力」「認知機能」などの「心身機能・身体構造」の変化が、生活の充実感や、生活することの意義の実感等、精神面での「健康状態」の変化をもたらしていることが推測される。

そうしたことから、様々なプログラム・支援を利用者に提供する自立訓練（生活訓練）の利用効果の高さを推測することができる。

一方で、今回調査した評価指標には、FIM、IADL 尺度、実用的歩行能力分類といった客観的評価指標と、RAS や WHO/QOL、WHO/DAS 等の被験者の回答による評価指標があったが、FIM 等では、客観性はあるものの変化の大きかった「参加（地域生活）」、「参加（就労・就学）」を含んでおらず、それらを包含している WHO/DAS 等では、客観的評価とはなりにくい部分があった。

また、RAS に見られるような「自分のしたい生き方ができる」等の項目については、内面的変化そのものは客観的事実であり評価の対象となりうるものの、どのような訓練・支援が結果をもたらしたかという実施した訓練や支援と成果の因果関係を説明することは難しい。

帰結状況等から推論しても、訓練・支援と利用者の変化との関連性が強いことは予想されるものの、これらの評価結果をそのまま自立訓練(生活訓練)の利用効果であるとするには難しく、自立訓練(生活訓練)の評価指標の確立という点からは、更なる研究が必要である。

6. 考察（令和3年度の研究に向けて）

- ・今回が、試験調査が、被験者の回想や過去の記録に基づいた調査であったため、利用時と終了時の正確な状況を捉えたものとは言えないものの、調査した全ての評価指標から、自立訓練（生活訓練）の利用前後のプラスの変化を捉えることができたことから、自立訓練（生活訓練）の利用意義の高さが推論できた。
- ・効果は、利用者の認知面、日常生活や社会参加、就労といった社会生活全般に及んでおり、それらの変化が、生活の質や精神状態に変化をもたらしていることが推測できた。
- ・また、認知面の変化についても、日常生活や社会生活上の変化として現れることから、それらの評価指標に効果が反映できると考える。
- ・そのことから、自立訓練（生活訓練）の評価指標においては、ADL、IADL、社会生活力、就労を測る評価指標が必要であると考ええる。
- ・ADL、IADL の評価は既存の評価指標が活用できると思われる。
- ・就労については、目的達成が明確なため、利用終了後の進路（帰結状況）による評価も可能と思われる。
- ・社会生活力の評価指標では、FIM、IADL 尺度、実用的歩行能力分類等では評価できず、RAS、WHO/QOL、WHO/DAS でも訓練・支援の成果としては直接的に評価できないため、それらの単純活用又は組み合わせのみでは難しい。
- ・本調査の評価指標を研究する中で、社会生活力を客観的に測ることのできる独自の評価指標を考案することが望ましい。

資料：生活訓練 項目別統計データ

■ FIM

○生活訓練

合計

変数	開始時	終了時
n	54	54
平均	111.963	118.019
不偏分散	66.678	47.754
標準偏差	8.166	6.91
最小値	88	89
最大値	126	126

利得

6.1

1 一計算上の数値

仮想偏差値 7.42
標準偏差縮小率 15.4%

ADL合計

	開始時	終了時
n	54	54
平均	86.722	88.796
不偏分散	42.091	20.543
標準偏差	6.488	4.532
最小値	64	70
最大値	91	91

2.1

1 一計算上の数値

仮想偏差値 3.20
標準偏差縮小率 30.1%

認知合計

	開始時	終了時
n	54	54
平均	25.241	29.222
不偏分散	19.167	13.421
標準偏差	4.378	3.664
最小値	17	19
最大値	35	35

4.0

1 一計算上の数値

仮想偏差値 9.09
標準偏差縮小率 16.3%

食事

	開始時	終了時
n	54	54
平均	6.648	6.926
不偏分散	0.61	0.07
標準偏差	0.781	0.264
最小値	3	6
最大値	7	7

0.3

1 一計算上の数値

仮想偏差値 3.56
標準偏差縮小率 66.2%

整容

	開始時	終了時
n	54	54
平均	6.37	6.704
不偏分散	0.841	0.326
標準偏差	0.917	0.571
最小値	3	5
最大値	7	7

0.3

1 一計算上の数値

仮想偏差値 3.64
標準偏差縮小率 37.7%

清拭

	開始時	終了時
n	54	54
平均	6.481	6.815
不偏分散	0.971	0.229
標準偏差	0.986	0.479
最小値	3	5
最大値	7	7

0.3

1 一計算上の数値

仮想偏差値 3.39
標準偏差縮小率 51.4%

更衣上

	開始時	終了時
n	54	54
平均	6.815	6.907
不偏分散	0.267	0.123
標準偏差	0.517	0.351
最小値	5	5
最大値	7	7

0.1

1 一計算上の数値

仮想偏差値 1.78
標準偏差縮小率 32.1%

更衣下

	開始時	終了時
n	54	54
平均	6.815	6.907
不偏分散	0.267	0.123
標準偏差	0.517	0.351
最小値	5	5
最大値	7	7

0.1

1 一計算上の数値

仮想偏差値 1.78
標準偏差縮小率 32.1%

セルフケア トイレ

	開始時	終了時
n	54	54
平均	6.833	6.944
不偏分散	0.255	0.053
標準偏差	0.505	0.231
最小値	4	6
最大値	7	7

0.1

1 一計算上の数値

仮想偏差値 2.20
標準偏差縮小率 54.3%

排尿

	開始時	終了時
n	54	54
平均	6.889	6.907
不偏分散	0.214	0.199
標準偏差	0.462	0.446
最小値	4	4
最大値	7	7

0.0

1 一計算上の数値

仮想偏差値 0.39
標準偏差縮小率 3.5%

排便

	開始時	終了時
n	54	54
平均	6.852	6.963
不偏分散	0.242	0.036
標準偏差	0.492	0.191
最小値	4	6
最大値	7	7

0.1

1 一計算上の数値

仮想偏差値 2.26
標準偏差縮小率 61.2%

ベッド椅子

	開始時	終了時
n	53	53
平均	6.811	6.906
不偏分散	0.271	0.126
標準偏差	0.521	0.354
最小値	5	5
最大値	7	7

0.1

1 一計算上の数値

仮想偏差値 1.82
標準偏差縮小率 32.1%

移動_トイレ

	開始時	終了時
n	53	53
平均	6.868	6.925
不偏分散	0.155	0.071
標準偏差	0.394	0.267
最小値	5	6
最大値	7	7

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 1.45
標準偏差縮小率 32.2%

浴槽シャワー

	開始時	終了時
n	53	53
平均	6.679	6.868
不偏分散	0.607	0.155
標準偏差	0.779	0.394
最小値	3	5
最大値	7	7

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 2.43
標準偏差縮小率 49.4%

歩行・車椅子

	開始時	終了時
n	54	54
平均	6.537	6.778
不偏分散	0.895	0.176
標準偏差	0.946	0.42
最小値	2	6
最大値	7	7

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 2.55
標準偏差縮小率 55.6%

階段

	開始時	終了時
n	54	54
平均	6.5	6.63
不偏分散	0.858	0.615
標準偏差	0.927	0.784
最小値	3	3
最大値	7	7

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 1.40
標準偏差縮小率 15.4%

理解

	開始時	終了時
n	54	54
平均	5.685	6.185
不偏分散	1.125	0.682
標準偏差	1.061	0.826
最小値	3	4
最大値	7	7

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 4.71
標準偏差縮小率 22.1%

表出

	開始時	終了時
n	54	54
平均	5.611	6.13
不偏分散	1.072	1.096
標準偏差	1.036	1.047
最小値	3	1
最大値	7	7

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.01
標準偏差縮小率 -1.1%

社会的交流

	開始時	終了時
n	54	54
平均	4.722	5.759
不偏分散	2.242	1.243
標準偏差	1.497	1.115
最小値	1	1
最大値	7	7

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.93
標準偏差縮小率 25.5%

問題解決

	開始時	終了時
n	54	54
平均	4.185	5.463
不偏分散	1.739	1.272
標準偏差	1.319	1.128
最小値	1	1
最大値	7	7

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 9.69
標準偏差縮小率 14.5%

記憶

	開始時	終了時
n	54	53
平均	5.037	5.792
不偏分散	1.923	0.975
標準偏差	1.387	0.988
最小値	2	3
最大値	7	7

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.44
標準偏差縮小率 28.8%

	合計	ADL合計	認知合計	食事	整容	清拭	更衣上	更衣下	セルフケア_トイレ	排尿	排便
生活訓練偏差値	7.4	3.2	9.1	3.6	3.6	3.4	1.8	1.8	2.2	0.4	2.3
生活訓練標準偏差縮小率	15%	30%	16%	66%	38%	51%	32%	32%	54%	3%	61%
生活訓練FIM利得	6.1	2.1	4.0	0.3	0.3	0.3	0.1	0.1	0.1	0.0	0.1

	ベッド椅子	移動_トイレ	浴槽シャワー	歩行・車椅子	階段	理解	表出	社会的交流	問題解決	記憶
生活訓練偏差値	1.8	1.4	2.4	2.5	1.4	4.7	5.0	6.9	9.7	5.4
生活訓練標準偏差縮小率	32%	32%	49%	56%	15%	22%	-1%	26%	14%	29%
生活訓練FIM利得	0.1	0.1	0.2	0.2	0.1	0.5	0.5	1.0	1.3	0.8

■IADL尺度

○生活訓練

合計

	開始時	終了時
n	53	53
平均	3.943	5.245
不偏分散	2.901	2.881
標準偏差	1.703	1.697
最小値	1	2
最大値	8	8

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 7.64
標準偏差縮小率 0.3%

電話

	開始時	終了時
n	53	53
平均	0.906	0.943
不偏分散	0.087	0.054
標準偏差	0.295	0.233
最小値	0	0
最大値	1	1

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 1.28
標準偏差縮小率 20.9%

買い物

	開始時	終了時
n	53	53
平均	0.358	0.623
不偏分散	0.234	0.239
標準偏差	0.484	0.489
最小値	0	0
最大値	1	1

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.46
標準偏差縮小率 -1.1%

食事の準備

	開始時	終了時
n	53	53
平均	0.075	0.226
不偏分散	0.071	0.179
標準偏差	0.267	0.423
最小値	0	0
最大値	1	1

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.66
標準偏差縮小率 -58.4%

家事

	開始時	終了時
n	53	53
平均	0.358	0.453
不偏分散	0.234	0.253
標準偏差	0.484	0.503
最小値	0	0
最大値	1	1

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 1.95
標準偏差縮小率 -3.8%

洗濯

	開始時	終了時
n	53	53
平均	0.302	0.396
不偏分散	0.215	0.244
標準偏差	0.463	0.494
最小値	0	0
最大値	1	1

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 2.04
標準偏差縮小率 -6.5%

移送の形式

	開始時	終了時
n	53	53
平均	0.698	0.887
不偏分散	0.215	0.102
標準偏差	0.463	0.320
最小値	0	0
最大値	1	1

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 4.07
標準偏差縮小率 31.0%

服薬管理

	開始時	終了時
n	53	53
平均	0.509	0.792
不偏分散	0.255	0.168
標準偏差	0.505	0.409
最小値	0	0
最大値	1	1

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.61
標準偏差縮小率 18.9%

財産

	開始時	終了時
n	53	53
平均	0.736	0.925
不偏分散	0.198	0.071
標準偏差	0.445	0.267
最小値	0	0
最大値	1	1

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 4.24
標準偏差縮小率 40.1%

	合計	電話	買い物	食事の準備	家事	洗濯	移送の形式	服薬管理	財産管理
生活訓練偏差値	7.6	1.3	5.5	5.7	1.9	2.0	4.1	5.6	4.2
生活訓練標準偏差縮小率	0%	21%	-1%	-58%	-4%	-7%	31%	19%	40%

■RAS

○生活訓練

合計

	開始時	終了時
n	54	54
平均	65.074	83.222
不偏分散	145.957	159.119
標準偏差	12.081	12.614
最小値	38	41
最大値	91	117

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 15.02
標準偏差縮小率 -4.4%

生きがい

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.611	3.519
不偏分散	0.884	0.707
標準偏差	0.94	0.841
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 9.66
標準偏差縮小率 10.5%

自己実現力

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.574	3.444
不偏分散	0.777	0.742
標準偏差	0.882	0.861
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 9.86
標準偏差縮小率 2.4%

課題解決力

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.463	3.296
不偏分散	0.97	0.665
標準偏差	0.985	0.816
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 8.46
標準偏差縮小率 17.2%

自己満足度

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.352	2.963
不偏分散	0.761	0.867
標準偏差	0.872	0.931
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 7.01
標準偏差縮小率 -6.8%

人間関係への自信

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.426	3
不偏分散	0.551	0.717
標準偏差	0.742	0.847
最小値	1	1
最大値	4	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 7.74
標準偏差縮小率 -14.2%

将来展望

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.63	3.389
不偏分散	0.917	0.921
標準偏差	0.958	0.96
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 7.92
標準偏差縮小率 -0.2%

自己肯定感

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.352	3.167
不偏分散	0.761	0.821
標準偏差	0.872	0.906
最小値	1	1
最大値	4	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 9.35
標準偏差縮小率 -3.9%

好奇心

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.907	3.389
不偏分散	1.104	0.884
標準偏差	1.051	0.94
最小値	1	2
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 4.59
標準偏差縮小率 10.6%

ストレス対処

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.074	3.204
不偏分散	0.636	0.845
標準偏差	0.797	0.919
最小値	1	1
最大値	4	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 14.18
標準偏差縮小率 -15.3%

成功願望

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.815	3.444
不偏分散	1.022	1.195
標準偏差	1.011	1.093
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.22
標準偏差縮小率 -8.1%

生活設計

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.315	3.537
不偏分散	0.748	0.895
標準偏差	0.865	0.946
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 14.13
標準偏差縮小率 -9.4%

人生目標

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.833	3.519
不偏分散	1.236	0.971
標準偏差	1.112	0.986
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.17
標準偏差縮小率 11.3%

目標達成への自信

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.63	3.5
不偏分散	1.106	0.896
標準偏差	1.051	0.947
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 8.28
標準偏差縮小率 9.9%

援助依頼（必要性の判断）

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.815	3.759
不偏分散	1.21	0.601
標準偏差	1.1	0.775
最小値	1	2
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 8.58
標準偏差縮小率 29.5%

援助依頼（積極性）

	開始時	終了時
n	54	54
平均	3.333	3.981
不偏分散	0.981	0.358
標準偏差	0.991	0.598
最小値	1	2
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.54
標準偏差縮小率 39.7%

援助依頼（実行力）

	開始時	終了時
n	54	54
平均	3.333	4.056
不偏分散	1.208	0.431
標準偏差	1.099	0.656
最小値	1	2
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.58
標準偏差縮小率 40.3%

共生感

	開始時	終了時
n	54	54
平均	3	3.556
不偏分散	0.906	0.704
標準偏差	0.952	0.839
最小値	1	2
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.84
標準偏差縮小率 11.9%

楽観性

	開始時	終了時
n	54	54
平均	3.222	3.796
不偏分散	1.233	0.731
標準偏差	1.11	0.855
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.17
標準偏差縮小率 23.0%

支援者の存在

	開始時	終了時
n	54	54
平均	3.389	4.019
不偏分散	1.374	0.585
標準偏差	1.172	0.765
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.38
標準偏差縮小率 34.7%

他者との信頼関係

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.667	3.259
不偏分散	0.868	0.648
標準偏差	0.932	0.805
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.35
標準偏差縮小率 13.6%

友人意識

	開始時	終了時
n	54	54
平均	3.426	3.907
不偏分散	1.343	0.727
標準偏差	1.159	0.853
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 4.15
標準偏差縮小率 26.4%

障害の重要度の低下

	開始時	終了時
n	43	43
平均	2.698	3.163
不偏分散	0.93	1.092
標準偏差	0.964	1.045
最小値	1	1
最大値	5	5

↑ 計算上の数値

仮想偏差値 4.82
標準偏差縮小率 -8.4%

ハンデキャップ意識の低下

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.333	3.519
不偏分散	1.019	1.16
標準偏差	1.009	1.077
最小値	1	1
最大値	5	5

↑ 計算上の数値

仮想偏差値 11.75
標準偏差縮小率 -6.7%

障害の負担感の低下

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.426	3.481
不偏分散	0.928	0.934
標準偏差	0.964	0.966
最小値	1	1
最大値	5	5

↑ 計算上の数値

仮想偏差値 10.94
標準偏差縮小率 -0.2%

	合計	生きがい	自己実現力	課題解決力	自己満足度	人間関係へ	将来展望	自己肯定感	好奇心
生活訓練偏差値	15.0	9.7	9.9	8.5	7.0	7.7	7.9	9.3	4.6
生活訓練標準偏差縮小率	-4%	11%	2%	17%	-7%	-14%	0%	-4%	11%

	ストレス対	成功願望	生活設計	人生目標	目標達成へ	援助依頼へ	援助依頼へ	援助依頼へ	共生感
生活訓練偏差値	14.2	6.2	14.1	6.2	8.3	8.6	6.5	6.6	5.8
生活訓練標準偏差縮小率	-15%	-8%	-9%	11%	10%	30%	40%	40%	12%

	楽観性	支援者の存在	他者との信頼	友人意識	障害の重要	ハンデキャ	障害の負担感の低下
生活訓練偏差値	5.2	5.4	6.4	4.2	4.8	11.8	10.9
生活訓練標準偏差縮小率	23%	35%	14%	26%	-8%	-7%	0%

■WHO/QOL

○生活訓練

合計

	開始時	終了時
n	54	54
平均	62.667	76.278
不偏分散	81.094	137.336
標準偏差	9.005	11.719
最小値	46	53
最大値	87	105

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 15.11
標準偏差縮小率 -30.1%

領域Ⅰ 身体的領域

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.577	3.05
不偏分散	0.193	0.15
標準偏差	0.439	0.387
最小値	1.714	2.143
最大値	3.714	3.857

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 10.77
標準偏差縮小率 11.8%

領域Ⅱ 心理的領域

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.485	3.052
不偏分散	0.204	0.317
標準偏差	0.451	0.563
最小値	1.667	2.167
最大値	4.333	4.333

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 12.57
標準偏差縮小率 -24.8%

領域Ⅲ 社会的領域

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.623	3.037
不偏分散	0.562	0.661
標準偏差	0.75	0.813
最小値	1	1
最大値	4.333	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.52
標準偏差縮小率 -8.4%

領域Ⅳ 環境

	開始時	終了時
n	80	80
平均	8.575	6.925
不偏分散	16.096	13.665
標準偏差	4.012	3.697
最小値	4	4
最大値	20	18

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 -4.11
標準偏差縮小率 7.9%

領域Ⅴ 全体

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.398	3.12
不偏分散	0.494	0.594
標準偏差	0.703	0.771
最小値	1	1
最大値	4.5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 10.27
標準偏差縮小率 -9.7%

生活の質の評価

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.463	3.185
不偏分散	0.668	0.644
標準偏差	0.818	0.803
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 8.83
標準偏差縮小率 1.8%

健康状態の満足度

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.333	3.056
不偏分散	0.679	0.846
標準偏差	0.824	0.92
最小値	1	1
最大値	4	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 8.77
標準偏差縮小率 -11.7%

障害による活動制限の緩和

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.87	2.259
不偏分散	1.398	1.139
標準偏差	1.182	1.067
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.17
標準偏差縮小率 9.7%

医療の必要度の軽減

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.796	2.537
不偏分散	1.033	0.97
標準偏差	1.016	0.985
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 2.55
標準偏差縮小率 3.1%

生活の充実度

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.296	3.241
不偏分散	0.854	0.752
標準偏差	0.924	0.867
最小値	1	2
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 10.23
標準偏差縮小率 6.2%

生活の意義の実感

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.222	3.389
不偏分散	0.742	0.921
標準偏差	0.861	0.96
最小値	1	1
最大値	4	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 13.55
標準偏差縮小率 -11.5%

集中力

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.519	3.315
不偏分散	0.556	0.861
標準偏差	0.746	0.928
最小値	1	1
最大値	4	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 10.67
標準偏差縮小率 -24.4%

生活の安全度

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.833	3.722
不偏分散	0.557	0.733
標準偏差	0.746	0.856
最小値	2	2
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 11.92
標準偏差縮小率 -14.7%

健康的な生活環境

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.815	3.37
不偏分散	1.059	0.766
標準偏差	1.029	0.875
最小値	1	2
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.39
標準偏差縮小率 15.0%

生活への活力

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.426	3.259
不偏分散	0.589	0.875
標準偏差	0.767	0.935
最小値	1	1
最大値	4	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 10.86
標準偏差縮小率 -21.9%

外見（障害）の受容

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.444	3
不偏分散	0.855	0.906
標準偏差	0.925	0.952
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.01
標準偏差縮小率 -2.9%

経済的余裕

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.37	3.019
不偏分散	0.841	1.113
標準偏差	0.917	1.055
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 7.08
標準偏差縮小率 -15.0%

情報を得る機会

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.648	3.426
不偏分散	0.836	0.74
標準偏差	0.914	0.86
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 8.51
標準偏差縮小率 5.9%

余暇機会

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.444	3.37
不偏分散	0.969	0.539
標準偏差	0.984	0.734
最小値	1	2
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 9.41
標準偏差縮小率 25.4%

近隣外出の機会

	開始時	終了時
n	53	54
平均	2.415	3.5
不偏分散	1.132	1.123
標準偏差	1.064	1.06
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 10.20
標準偏差縮小率 0.4%

睡眠の満足度

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.759	3.389
不偏分散	1.281	0.77
標準偏差	1.132	0.878
最小値	1	2
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.57
標準偏差縮小率 22.4%

活動力の満足度

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.481	3.315
不偏分散	0.783	0.748
標準偏差	0.885	0.865
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 9.42
標準偏差縮小率 2.3%

労働能力の満足度

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.333	3.093
不偏分散	0.679	0.803
標準偏差	0.824	0.896
最小値	1	1
最大値	4	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 9.22
標準偏差縮小率 -8.7%

自己満足度

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.13	2.889
不偏分散	0.681	0.931
標準偏差	0.825	0.965
最小値	1	1
最大値	4	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 9.20
標準偏差縮小率 -17.0%

人間関係満足度

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.704	3.315
不偏分散	0.741	0.748
標準偏差	0.861	0.865
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 7.10
標準偏差縮小率 -0.5%

性生活への満足度

	開始時	終了時
n	42	42
平均	2.667	2.905
不偏分散	0.52	0.576
標準偏差	0.721	0.759
最小値	1	1
最大値	3	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 3.30
標準偏差縮小率 -5.3%

友人への満足度

	開始時	終了時
n	54	54
平均	3.093	3.537
不偏分散	1.104	0.857
標準偏差	1.051	0.926
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 4.22
標準偏差縮小率 11.9%

自宅環境満足度

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.926	3.593
不偏分散	1.126	0.85
標準偏差	1.061	0.922
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.29
標準偏差縮小率 13.1%

医療・福祉満足度

	開始時	終了時
n	53	54
平均	3.038	3.667
不偏分散	0.652	0.642
標準偏差	0.808	0.801
最小値	1	2
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 7.78
標準偏差縮小率 0.9%

移動環境満足度

	開始時	終了時
n	54	54
平均	3.296	3.333
不偏分散	1.42	1.057
標準偏差	1.192	1.028
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 0.31
標準偏差縮小率 13.8%

心理的負荷の軽減

	開始時	終了時
n	54	54
平均	3.296	2.481
不偏分散	1.42	1.009
標準偏差	1.192	1.005
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.84
標準偏差縮小率 15.7%

	合計	領域Ⅰ身体的領域	領域Ⅱ心理的領域	領域Ⅲ社会的領域	領域Ⅳ環境	領域Ⅴ全体
生活訓練偏差値	15.1	10.8	12.6	5.5	-4.1	10.3
生活訓練標準偏差縮小率	-30%	12%	-25%	-8%	8%	-10%

	生活の質	健康状態	障害による	医療の必要	生活の充実	生活の意識	集中力	生活の安全	健康的な生活環境
生活訓練偏差値	8.8	8.8	5.2	2.5	10.2	13.6	10.7	11.9	5.4
生活訓練標準偏差縮小率	2%	-12%	10%	3%	6%	-11%	-24%	-15%	15%

	生活への活	外見(障害)	経済的余裕	情報を得る	余暇機会	近隣外出の	睡眠の満足	活動力の満	労働能力の満足度
生活訓練偏差値	10.9	6.0	7.1	8.5	9.4	10.2	5.6	9.4	9.2
生活訓練標準偏差縮小率	-22%	-3%	-15%	6%	25%	0%	22%	2%	-9%

	自己満足度	人間関係満	性生活への	友人への満	自宅環境満	医療・福祉	移動環境満	心理的負荷の軽減
生活訓練偏差値	9.2	7.1	3.3	4.2	6.3	7.8	0.3	6.8
生活訓練標準偏差縮小率	-17%	0%	-5%	12%	13%	1%	14%	16%

■WHO-DAS

○生活訓練

単純合計

	開始時	終了時
n	54	54
平均	95.796	67.63
不偏分散	564.128	467.823
標準偏差	23.751	21.629
最小値	27	25
最大値	145	129

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 11.86
標準偏差縮小率 8.9%

複雑集計 1

	開始時	終了時
n	54	54
平均	44.392	24.284
不偏分散	265.77	233.924
標準偏差	16.302	15.295
最小値	5.66	3.774
最大値	77.358	66.038

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 12.33
標準偏差縮小率 6.2%

複雑集計 2

	開始時	終了時
n	54	54
平均	42.593	24.014
不偏分散	259.705	233.231
標準偏差	16.115	15.272
最小値	6.522	4.348
最大値	78.261	68.478

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 11.53
標準偏差縮小率 5.2%

集中力

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.685	1.741
不偏分散	1.276	0.799
標準偏差	1.13	0.894
最小値	1	1
最大値	5	4

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 8.35
標準偏差縮小率 20.9%

記憶力

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.759	1.981
不偏分散	1.016	0.66
標準偏差	1.008	0.812
最小値	1	1
最大値	5	4

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 7.72
標準偏差縮小率 19.4%

課題解決力

	開始時	終了時
n	54	53
平均	3.241	2.245
不偏分散	0.79	0.919
標準偏差	0.889	0.959
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 11.20
標準偏差縮小率 -7.9%

学習能力

	開始時	終了時
n	54	54
平均	3.056	2.093
不偏分散	0.884	0.765
標準偏差	0.94	0.875
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 10.24
標準偏差縮小率 6.9%

理解力

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.37	1.741
不偏分散	1.068	0.648
標準偏差	1.033	0.805
最小値	1	1
最大値	5	4

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.09
標準偏差縮小率 22.1%

会話能力

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.444	1.907
不偏分散	1.195	0.765
標準偏差	1.093	0.875
最小値	1	1
最大値	5	4

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 4.91
標準偏差縮小率 19.9%

認知小計

	開始時	終了時
n	54	54
平均	16.556	11.667
不偏分散	15.686	15.396
標準偏差	3.96	3.924
最小値	7	6
最大値	25	24

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 12.35
標準偏差縮小率 0.9%

立位能力

	開始時	終了時
n	54	54
平均	1.759	1.333
不偏分散	1.243	0.566
標準偏差	1.115	0.752
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 3.82
標準偏差縮小率 32.6%

立ち上がり

	開始時	終了時
n	54	54
平均	1.444	1.278
不偏分散	0.78	0.582
標準偏差	0.883	0.763
最小値	1	1
最大値	4	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 1.88
標準偏差縮小率 13.6%

屋内移動能力

	開始時	終了時
n	54	54
平均	1.63	1.185
不偏分散	1.106	0.305
標準偏差	1.051	0.552
最小値	1	1
最大値	5	4

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 4.23
標準偏差縮小率 47.5%

屋外近距離移動

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.13	1.426
不偏分散	1.926	0.777
標準偏差	1.388	0.882
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.07
標準偏差縮小率 36.5%

屋外遠距離移動

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.185	1.648
不偏分散	1.625	1.327
標準偏差	1.275	1.152
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 4.21
標準偏差縮小率 9.6%

可動性小計

	開始時	終了時
n	54	54
平均	9.148	6.87
不偏分散	23.676	12.87
標準偏差	4.866	3.587
最小値	5	5
最大値	23	24

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 4.68
標準偏差縮小率 26.3%

活動力（洗体）

	開始時	終了時
n	54	54
平均	1.519	1.241
不偏分散	1.085	0.488
標準偏差	1.041	0.699
最小値	1	1
最大値	4	4

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 2.67
標準偏差縮小率 32.9%

活動力（更衣）

	開始時	終了時
n	54	54
平均	1.333	1.167
不偏分散	0.453	0.255
標準偏差	0.673	0.505
最小値	1	1
最大値	3	3

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 2.47
標準偏差縮小率 25.0%

活動力（食事）

	開始時	終了時
n	54	54
平均	1.444	1.148
不偏分散	0.629	0.166
標準偏差	0.793	0.408
最小値	1	1
最大値	4	3

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 3.73
標準偏差縮小率 48.5%

身辺自立度

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.463	1.556
不偏分散	1.461	0.629
標準偏差	1.209	0.793
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 7.50
標準偏差縮小率 34.4%

セルフケア小計

	開始時	終了時
n	54	54
平均	6.759	5.111
不偏分散	7.62	3.874
標準偏差	2.76	1.968
最小値	4	4
最大値	15	13

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.97
標準偏差縮小率 28.7%

コミュニケーションカ

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.722	1.889
不偏分散	1.035	0.818
標準偏差	1.017	0.904
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 8.19
標準偏差縮小率 11.1%

交友関係維持

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.278	1.685
不偏分散	1.148	0.635
標準偏差	1.071	0.797
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.54
標準偏差縮小率 25.6%

身近な人との交流

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.167	1.444
不偏分散	1.16	0.667
標準偏差	1.077	0.816
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.71
標準偏差縮小率 24.2%

新しい友人を作る

	開始時	終了時
n	54	54
平均	2.796	2.093
不偏分散	1.561	1.029
標準偏差	1.25	1.014
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.62
標準偏差縮小率 18.9%

性行為

	開始時	終了時
n	37	38
平均	3	2.789
不偏分散	2.5	2.603
標準偏差	1.581	1.613
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 1.33
標準偏差縮小率 -2.0%

他者との交流小計

	開始時	終了時
n	54	54
平均	12.019	9.074
不偏分散	24.773	15.579
標準偏差	4.977	3.947
最小値	4	4
最大値	25	25

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.92
標準偏差縮小率 20.7%

家庭での役割

	開始時	終了時
n	53	52
平均	2.849	1.904
不偏分散	1.361	0.834
標準偏差	1.167	0.913
最小値	1	1
最大値	5	4

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 8.10
標準偏差縮小率 21.8%

家事活動(習熟度)

	開始時	終了時
n	53	52
平均	2.962	2.077
不偏分散	1.422	0.7
標準偏差	1.192	0.837
最小値	1	1
最大値	5	4

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 7.42
標準偏差縮小率 29.8%

家事活動(自立度)

	開始時	終了時
n	53	52
平均	3.132	2.231
不偏分散	1.309	0.848
標準偏差	1.144	0.921
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 7.88
標準偏差縮小率 19.5%

家事活動(効率性)

	開始時	終了時
n	53	52
平均	3.189	2.154
不偏分散	1.348	0.878
標準偏差	1.161	0.937
最小値	1	1
最大値	5	4

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 8.91
標準偏差縮小率 19.3%

活動制限(家事)の改善

	開始時	終了時
n	54	54
平均	11.722	3.259
不偏分散	169.223	36.535
標準偏差	13.009	6.044
最小値	0	0
最大値	30	25

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.51
標準偏差縮小率 53.5%

仕事/学校(参加)

	開始時	終了時
n	51	51
平均	3.176	1.745
不偏分散	1.788	0.754
標準偏差	1.337	0.868
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 10.70
標準偏差縮小率 35.1%

仕事/課題(習熟)

	開始時	終了時
n	51	51
平均	3.255	1.98
不偏分散	1.234	0.7
標準偏差	1.111	0.836
最小値	1	1
最大値	5	4

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 11.48
標準偏差縮小率 24.8%

仕事(自立度)

	開始時	終了時
n	52	51
平均	3.385	2.078
不偏分散	1.104	0.954
標準偏差	1.051	0.977
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 12.44
標準偏差縮小率 7.0%

仕事(効率性)

	開始時	終了時
n	52	51
平均	3.327	2.216
不偏分散	1.205	0.893
標準偏差	1.098	0.945
最小値	1	1
最大値	5	4

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 10.12
標準偏差縮小率 13.9%

仕事の量・質の向上

	開始時	終了時
n	49	50
平均	1.755	1.56
不偏分散	0.189	0.251
標準偏差	0.434	0.501
最小値	1	1
最大値	2	2

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 4.49
標準偏差縮小率 -15.4%

収入の改善

	開始時	終了時
n	48	49
平均	1.771	1.612
不偏分散	0.18	0.242
標準偏差	0.425	0.492
最小値	1	1
最大値	2	2

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 3.74
標準偏差縮小率 -15.8%

仕事の従事日数の向上

	開始時	終了時
n	54	54
平均	14.352	2.574
不偏分散	194.308	37.079
標準偏差	13.939	6.089
最小値	0	0
最大値	30	30

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 8.45
標準偏差縮小率 56.3%

日常生活小計

	開始時	終了時
n	53	52
平均	28.132	19.25
不偏分散	63.04	41.093
標準偏差	7.94	6.41
最小値	12	7
最大値	42	36

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 11.19
標準偏差縮小率 19.3%

地域活動参加

	開始時	終了時
n	49	48
平均	3.204	2.208
不偏分散	1.874	1.275
標準偏差	1.369	1.129
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 7.28
標準偏差縮小率 17.5%

環境因子(疎外因子)の改善

	開始時	終了時
n	51	50
平均	2.765	2.08
不偏分散	1.184	1.177
標準偏差	1.088	1.085
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.30
標準偏差縮小率 0.3%

環境因子(人的疎外因子)の改善

	開始時	終了時
n	53	52
平均	2.811	1.923
不偏分散	1.156	0.739
標準偏差	1.075	0.86
最小値	1	1
最大値	5	4

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 8.26
標準偏差縮小率 20.0%

健康改善

	開始時	終了時
n	53	52
平均	2.943	2.173
不偏分散	0.939	1.009
標準偏差	0.969	1.004
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 7.95
標準偏差縮小率 -3.6%

心理的影響の改善

	開始時	終了時
n	53	51
平均	3.132	2.157
不偏分散	1.232	0.935
標準偏差	1.11	0.967
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 8.78
標準偏差縮小率 12.9%

経済状態の改善

	開始時	終了時
n	51	50
平均	3.275	2.38
不偏分散	1.563	1.587
標準偏差	1.25	1.26
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 7.16
標準偏差縮小率 -0.8%

家族の負担軽減

	開始時	終了時
n	53	52
平均	3.491	2.346
不偏分散	0.947	1.015
標準偏差	0.973	1.008
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 11.77
標準偏差縮小率 -3.6%

余暇生活

	開始時	終了時
n	53	52
平均	3	2.115
不偏分散	1.346	1.006
標準偏差	1.16	1.003
最小値	1	1
最大値	5	5

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 7.63
標準偏差縮小率 13.5%

社会への参加小計

	開始時	終了時
n	53	52
平均	24.151	17
不偏分散	44.208	35.098
標準偏差	6.649	5.924
最小値	9	6
最大値	35	32

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 10.76
標準偏差縮小率 10.9%

全体的な困難の軽減

	開始時	終了時
n	54	54
平均	16.259	3.944
不偏分散	180.347	63.978
標準偏差	13.429	7.999
最小値	0	0
最大値	30	30

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 9.17
標準偏差縮小率 40.4%

日常生活不能状態の改善

	開始時	終了時
n	54	54
平均	13.185	1.481
不偏分散	169.965	10.103
標準偏差	13.037	3.179
最小値	0	0
最大値	30	15

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 8.98
標準偏差縮小率 75.6%

日常生活不全状態の改善

	開始時	終了時
n	54	54
平均	10.778	2.37
不偏分散	173.572	38.389
標準偏差	13.175	6.196
最小値	0	0
最大値	30	30

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 6.38
標準偏差縮小率 53.0%

	単純合計	複雑集計1	複雑集計2	集中力	記憶力	課題解決力	学習能力	理解力	会話能力
生活訓練偏差値	11.9	12.3	11.5	8.4	7.7	11.2	10.2	6.1	4.9
生活訓練標準偏差縮小率	9%	6%	5%	21%	19%	-8%	7%	22%	20%

	認知小計	立位能力	立ち上がり	屋内移動	屋外近距離	屋外遠距離	可動性小計	活動力(洗)	活動力(更衣)
生活訓練偏差値	12.3	3.8	1.9	4.2	5.1	4.2	4.7	2.7	2.5
生活訓練標準偏差縮小率	1%	33%	14%	47%	36%	10%	26%	33%	25%

	活動力(食)	身辺自立度	セルフケア力	コミュニケー	交友関係	身近な人と	新しい友人	性行為	他者との交流小計
生活訓練偏差値	3.7	7.5	6.0	8.2	5.5	6.7	5.6	1.3	5.9
生活訓練標準偏差縮小率	49%	34%	29%	11%	26%	24%	19%	-2%	21%

	家庭での役	家事活動(1)	家事活動(2)	家事活動(3)	活動制限(1)	仕事/学校	仕事/課題	仕事(自立)	仕事(効率性)
生活訓練偏差値	8.1	7.4	7.9	8.9	6.5	10.7	11.5	12.4	10.1
生活訓練標準偏差縮小率	22%	30%	19%	19%	54%	35%	25%	7%	14%

	仕事の量	収入の改善	仕事の従事	日常生活小	地域活動	環境因子(1)	環境因子(2)	健康改善	心理的影響の改善
生活訓練偏差値	4.5	3.7	8.4	11.2	7.3	6.3	8.3	7.9	8.8
生活訓練標準偏差縮小率	-15%	-16%	56%	19%	18%	0%	20%	-4%	13%

	経済状態の	家族の負担	余暇生活	社会への参	全体的な困	日常生活不	日常生活不全状態の改善
生活訓練偏差値	7.2	11.8	7.6	10.8	9.2	9.0	6.4
生活訓練標準偏差縮小率	-1%	-4%	14%	11%	40%	76%	53%

■LSA

○生活訓練

	開始時	終了時
n	54	54
平均	48.148	78.157
不偏分散	901.1	862.423
標準偏差	30.018	29.367
最小値	2	5
最大値	120	120

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 10.00
標準偏差縮小率 2.2%

	LSA
生活訓練偏差値	10.0
生活訓練標準偏差縮小率	2%

■実用的歩行能力分類

○生活訓練

	開始時	終了時
n	39	39
平均	4.897	5.487
不偏分散	1.305	0.993
標準偏差	1.142	0.997
最小値	1	1
最大値	6	6

1 ←計算上の数値

仮想偏差値 5.17
標準偏差縮小率 12.7%

	歩行能力
生活訓練偏差値	5.2
生活訓練標準偏差縮小率	13%

令和 2 年度厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
分担 研究報告書

自立訓練のプログラム及び支援内容に関する試験調査研究

研究分担者	鈴木 智敦	名古屋市総合リハビリテーションセンター 副センター長
	渡邊 崇子	横浜市総合リハビリテーションセンター 障害者支援施設施設長
研究協力者	田中 雅之	名古屋市総合リハビリテーションセンター 自立支援部長
	松尾 稔	名古屋市総合リハビリテーションセンター 生活支援課長

研究要旨

自立訓練では、自立や地域生活、社会参加に向けたプログラムや支援（以下 プログラム等とする）が提供されているが、その内容については障害種別によって多様性があることが先行研究からわかっている。ただ、地域によって差が出ないように質の担保をすることや効果的・効率的に目標達成するためには、ある程度標準化されたプログラム等が提供される必要があるが、それは明らかになっていない。令和 2 年度は、標準的なプログラムについて検討するための試験調査として、特定の事業所を対象に、プログラム等の実施状況や主観的な効果に対する調査を実施した。この調査結果をもとに、設問や分析方法の修正を行ったうえで、令和 3 年度に本調査を行い、最終的には、標準的プログラム等を障害種別ごとに類型化することを目指す。

A. 研究目的

自立訓練においては、障害者の自立や地域生活移行、社会参加を支援するための役割を意識したプログラム等を提供している。サービス対象となる障害は多岐にわたり、かつゴールとなる「自立」、「社会参加」の在り方も利用者個々のニーズに応じて幅広いため、同じ自立訓練であっても、提供しているプログラム等の内容は多岐にわたっていることが、「自立訓練（機能訓練、生活訓練）の実態把握に関する調査研究」（厚生労働省平成 30 年度障害者総合福祉推進事業）（以下 H30 推進事業）で示された。また、同研究では、基準該当や共生型の事業所との提供しているプログラム等の違いも明らかになった。

提供しているプログラム等はニーズやゴールに

応じて個別性が高くならざるを得ない場合もあるが、各地域で提供される事業の質の担保のため、また利用者の目標達成を効果的・効率的に実現するためには、各事業において最低限提供すべき標準的なプログラム等は必要である。現状ではそれが明らかになっていない。H30 推進事業では、機能訓練と生活訓練に分けて分析を行ったが、障害別のプログラム等は明らかになっていない。

そこで、令和 2 年度の研究においては、一部の自立訓練事業所で実際に提供されたプログラム等を試験的に調査し、障害種別ごとの提供されているプログラム等の傾向を分析し、次年度実施予定のプログラム等に関する大規模調査の調査票を完成させるために必要な情報収集を行うことを目的とする。

B. 研究方法

1. 対象

研究分担者・研究協力者の事業所及び利用者(16事業所・34事例)。事例は目標達成した事例を選択してもらった。

2. 調査内容

調査票(資料2)に従い、自立訓練事業所の利用者に対し、実際に提供したプログラム等、実施形式、実施頻度、各プログラム等における評価指標の有無、職員・利用者が目標達成に対して、そのプログラム等に効果を実感できたかを回答してもらった(利用者が効果を実感できたか以外は職員が回答)

3. 方法

調査票(資料2)のデータを調査協力事業所にメールで送信し、事業所の職員・利用者に回答を入力したデータを返信してもらい、集まったデータを統計処理し、障害種別ごとに分析を行った。

4. 障害種別の分類

主たる障害を基準に分類した。肢体不自由については、さらに疾患別で頸髄・脊髄損傷・疾患とその他で分類した。障害者手帳等を重複して所持していた3事例については、それぞれに該当する障害の分析に加えた。

5. プログラム等の分類

プログラム等は、H30推進事業の分類を元に、研究分担者等で意見交換を行い、最終的に1)機能維持・向上訓練(9項目)、2)ADL訓練(14項目)、3)IADL訓練(11項目)、4)社会生活力訓練(25項目)、5)一般就労に向けた職業訓練(6項目)、6)その他の訓練(10項目)、7)地域移行・社会参加に向けた訓練(18項目)、8)家族支援(3項目)、9)地域貢献活動(5項目)の9分類に整理した。

6. 調査期間

令和3年2月1日～2月28日

7. 倫理面への配慮

調査対象となる利用者は評価指標調査と同一のため、今回送受信したデータには個人情報に含まれていない。

C. 研究結果

1. 利用者の属性

(1) 利用サービス

利用していたサービス別では、機能訓練が21(61.8%)、生活訓練が12(35.3%)、宿泊型自立訓練が1(3.0%)であった。

(2) 性別

性別は男性が24名(70.6%)、女性が10名(29.4%)であった。

(3) 年代

年代では、10代が3名(8.9%)、20代が4名(11.8%)、30代が4名(11.8%)、40代が12名(35.3%)、50代が11名(32.4%)であった。

(4) 主たる障害

肢体不自由が15名(44.1%)、高次脳機能障害が7名(20.6%)、視覚障害が4名(11.8%)、聴覚・言語機能障害・精神障害・知的障害・発達障害が各2名であった。また、重複障害のある者が14名(41.2%)であった。

(5) 疾患・精神分類

疾患別では、脳血管障害が11名、脊髄損傷・疾患の方が6名いた。

また、精神分類では、うつ病、統合失調症が各1名であった。

(6) 手帳等

所持している手帳では、身体障害者手帳が19名(55.9%)、精神保健福祉手帳が12名(35.3%)、療育手帳が3名(8.8%)であった。

(7) 主たる利用者の意向

利用開始時の主たる利用者(家族)の意向では、

就労・就学への支援が 15 名(44.1%)、家庭復帰・地域生活への移行が 6 名(17.6%)、ADL・IADL の向上が 3 名(8.8%)、単身生活が 2 名(5.9%)、認知機能の維持・向上が 2 名(5.9%)、生活スタイルの構築・再構築が 2 名(5.9%)、その他が 4 名であった。

2. プログラム・支援内容

障害種別ごとの各プログラム等の実施割合（各プログラム実施者数/全回答数）（以下「実施率」とする）と効果実感率（職員・利用者が効果ありと感じた回答数/各プログラム等実施者数）（それぞれ「職員効果実感率」・「利用者効果実感率」とする）は表 1 の通りであった。

(1) 実施率

1) 機能維持・向上訓練(9 項目)

高次脳機能障害が最も多くなっていた。内容としては、実施率が高い順に、高次脳機能・認知訓練、代替手段の活用、身体機能の維持・向上訓練、記憶・情緒の安定であった。

視覚障害、精神障害、発達障害では実施されている項目はなかった。

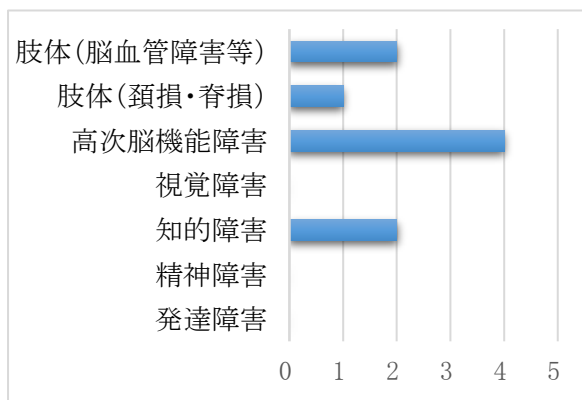


図 1:機能維持・向上訓練における実施率が 50%を超えた項目数 (障害別)

2) ADL 訓練(14 項目)

肢体不自由(頸髄・脊髄損傷・疾患)が最も多くなっていた。内容としては、移乗、屋外移動、入浴が 100%、起居訓練、車いす操作、排泄が 83.3%となっていた。

次に項目数が多かった視覚障害では、白杖操作、屋内移動、屋外移動といった移動に関する訓練が実施率が高くなっていた。

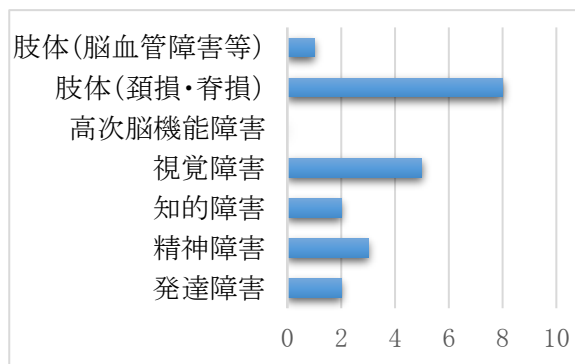


図 2:ADL 訓練における実施率が 50%を超えた項目数 (障害別)

3) IADL 訓練(11 項目)

知的障害が最も多くなっていた。電話の使用、買い物、調理、洗濯、掃除、服薬管理、金銭・財産取扱い、公共交通機関の利用など生活に密着した動作の訓練が実施率 100%となっていた。

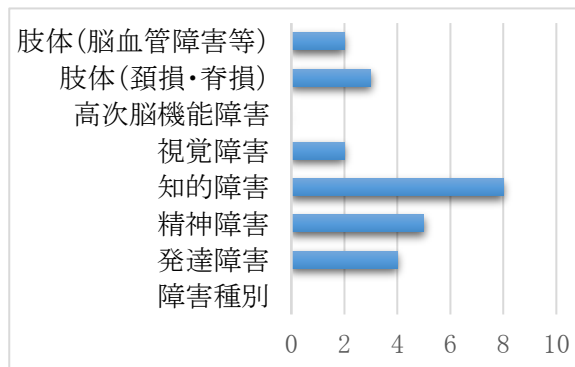


図 3:IADL 訓練における実施率が 50%を超えた項目数 (障害別)

4) 社会生活力訓練(25 項目)

知的障害が最も多く、次いで精神障害、高次脳機能障害、発達障害の順に多くなっていた。

知的障害では、すまい、恋愛・結婚・子育て、介護保険サービスを除くすべての項目で実施率が高くなっていた。

精神障害では知的障害と比べると項目ごとの実施率にばらつきがあるが、セルフケア、生活リズム

ム、自己理解、障害の理解、外出・余暇活動が実施率 100%となっていた。

高次脳機能障害では、疾病・健康管理、自己理解、障害の理解、コミュニケーション、就労生活、食生活・栄養管理、障害福祉制度・サービスが高くなっていた。

肢体不自由（頸髄・脊髄損傷・疾患）と視覚障害では全体的に実施率が低かった。

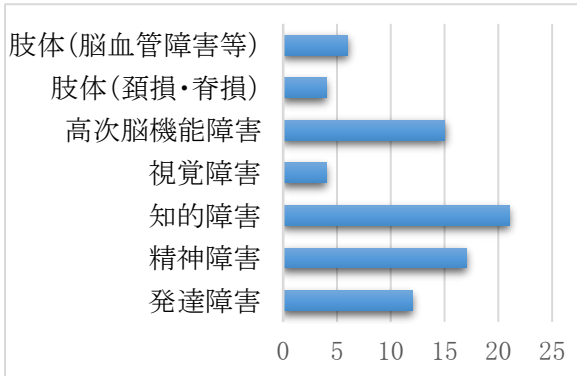


図 4:社会生活力訓練における実施率が 50%を超えた項目数 (障害別)

5) 一般就労に向けた職業訓練(6項目)

プログラム等の内容では、下のような障害ごとの特徴がみられた。

職業前訓練は、肢体不自由（脳血管障害・脳外傷等）、高次脳機能障害、知的障害、発達障害で実施率 50%を超えていた。

職業訓練・復職訓練は、肢体不自由（脳血管障害・脳外傷等）が実施率 50%を超えていた。

就職活動支援では、知的障害が実施率 50%を超えていた。

職場実習支援では、高次脳機能障害、知的障害では、精神障害・知的障害が実施率 50%を超えていた。

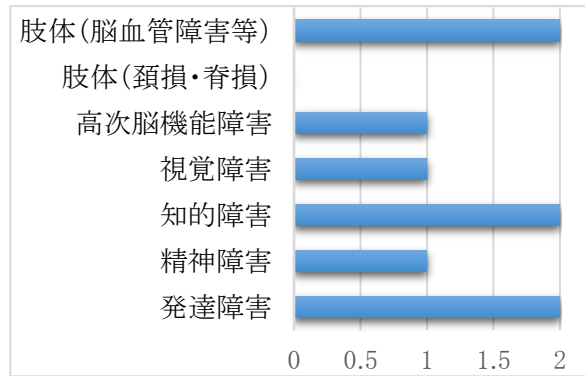


図 5:一般就労に向けた職業訓練における実施率が 50%を超えた項目数 (障害別)

6) その他の訓練(10項目)

知的障害が家庭学習、その他を除くすべての項目の実施率が高くなっていた。

スポーツ活動はすべての障害で、PC などの ICT 訓練は精神障害・発達障害を除くすべての障害で、ソーシャルスキルトレーニングは肢体不自由・視覚障害を除くすべての障害で実施率が高くなっていた。

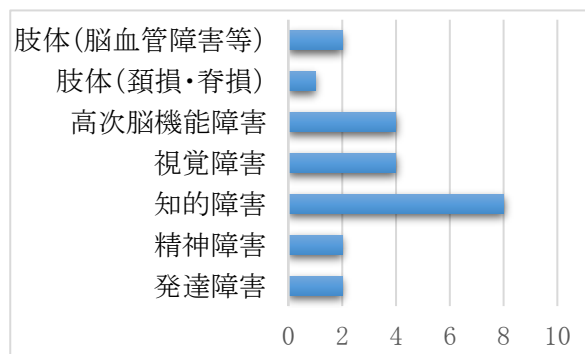


図 6:その他の訓練における実施率が 50%を超えた項目数 (障害別)

7) 地域移行・社会参加に向けた支援(18項目)

知的障害がすまい探し以外の項目で実施率が高くなっており、項目数が最も多くなっていた。

サービス担当者会議・関係機関との調整はすべての障害で実施率が高くなっていた。それ以外の障害別で実施率が高かった項目については以下のとおり。

肢体不自由では、住環境面の改善、医療機関・事

業所探し・選定支援が実施率が50%を超えていた。

高次脳機能障害では、事業所見学・同行、事業所利用体験実習支援が実施率が50%を超えていた。

精神障害では、医療機関・事業所探し・選定支援、事業所見学・同行、事業所利用体験実習支援、職場体験実習同行、契約行為等の手続き、地域生活の中でのレクリエーション・余暇活動支援が実施率が50%を超えていた。

発達障害では、職場見学同行、職場体験実習同行、契約行為等の手続き、地域生活の中でのレクリエーション・余暇活動支援が実施率が50%を超えていた。

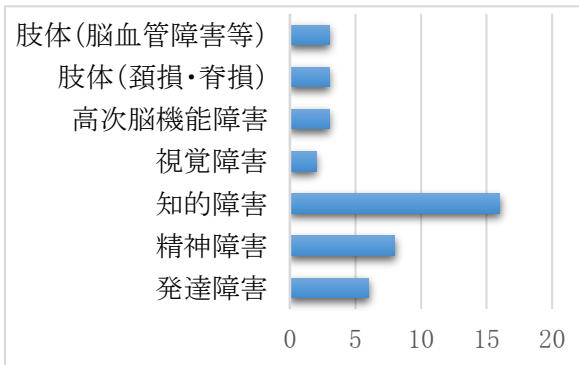


図7:地域移行・社会参加に向けた支援における実施率が50%を超えた項目数(障害別)

8) 家族支援(3項目)

障害理解促進については、高次脳機能障害が実施率が80%を超えていた。

相談対応は視覚障害を除くすべての障害で実施率が高くなっていた。

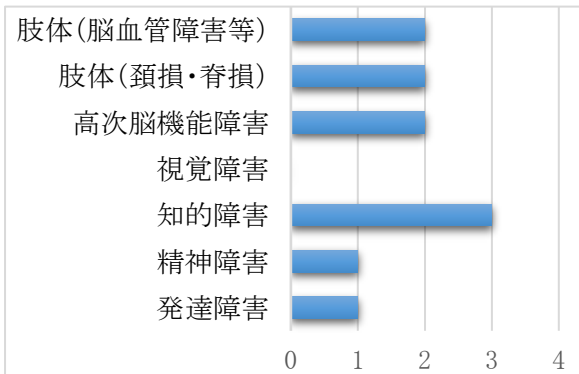


図8:家族支援における実施率が50%を超える項目数(障害別)

9) 地域貢献活動(5項目)

精神障害で、地域等に対するボランティア活動、他の障害者等に対するピアサポート活動、利用者が(と共に)行う地域交流活動、利用者が(と共に)行う地域づくり活動の実施率が6割を超えていた。

肢体不自由(頸髄脊髄損傷・疾病)、視覚障害では実施された項目がなかった。

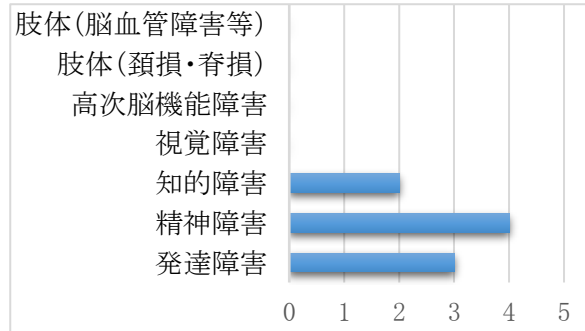


図9:地域貢献活動における実施率が50%を超える項目数(障害別)

(2) 実施率と職員効果実感率・利用者効果実感率

表1のデータをもとに、実施率と職員効果実感率、利用者効果実感率の関係を各プログラム等項目ごとにまとめたものが表2である。

◎は実施率が50%以上で、かつ職員効果実感率・利用者効果実感率がともに75%以上だった項目を、●は実施率は50%未満であったが、職員効果実感率・利用者効果実感率がともに75%以上だった項目を、△は実施率は50%以上であったが、職員効果実感率・利用者効果実感率のいずれかのみ75%以上を超えていたものである。

肢体不自由(脳血管障害・脳外傷等)では、機能維持・向上訓練、ADL訓練、社会生活力訓練、地域移行、社会参加に向けた支援で印のついた項目が過半数を超えていた。他の障害で印のついていない特徴的なプログラム等としては、利き手交換訓練、摂食・嚥下訓練、就職活動支援であった。

肢体不自由(頸髄脊髄損傷・疾病)では、ADL訓練、家族支援で印のついた項目が過半数を超え

ていた。他の障害で印のついていない特徴的なプログラム等としては、自動車利用・運転であった。

高次脳機能障害では、機能維持・向上訓練、社会生活力訓練で印のついた項目が過半数を超えていた。他の障害で印のついていない特徴的なプログラム等としては、記憶・情緒の安定、代替手段の活用であった。

視覚障害では、その他の訓練、地域移行に向けた支援で印のついた項目が過半数を超えていた。他の障害で印のついていない特徴的なプログラム等としては、白杖操作、ADL 訓練、介護保険制度・サービス、その他（ADL 訓練、IADL 訓練、一般就労に向けた職業訓練、その他の訓練）であった。

知的障害では、IADL 訓練、社会生活力訓練、その他の訓練、地域移行・社会参加に向けた支援で印のついた項目が過半数を超えていた。◎（実施率が 50%以上で、かつ職員効果実感率・利用者効果実感率がともに 75%以上）が最も多かった。他の障害で印のついていない特徴的なプログラム等としては、園芸療法、アニマルセラピー、その他の同行支援であった。

精神障害では、IADL 訓練、社会生活力訓練、一般就労に向けた職業訓練、地域移行・社会参加に向けた支援、家族支援、地域貢献活動で印のついた項目が過半数を超えていた。他の障害で印のついていない特徴的なプログラム等としては、その他（社会生活力訓練）、家庭学習、消費者トラブルなど危機回避、地域等に対するボランティア活動、利用者が（と共に）行う地域づくり活動であった。

発達障害では、地域貢献活動で印のついた項目が過半数を超えていた。印のついた項目は少ないが、◎（実施率が 50%以上で、かつ職員効果実感率・利用者効果実感率がともに 75%以上）の割合は最も高くなっていた。

(3) 訓練・支援形式について

表 2 で印のついたプログラム等の項目について、各障害別に最も多かった訓練・支援の形式について一覧にしたものが表 3 である。同数だった場合

は、文末に「他」を入れ、頻度の高い方を掲載している。なお、訓練・支援の形式は以下の分類で行った。

方法：個別/集団/訪問

頻度：週 1 回以上/月 1 回以上/年 1 回以上

1 回あたりの時間数：1 時間以内、1～3 時間、3 時間以上（表中は時間は h で表示）

方法では、どの障害においても、個別の割合が最も高く、訪問が最も低くなっていた。

社会生活力訓練、その他の訓練、地域貢献活動は、集団で行われている割合が高かった。

数は少ないが、訪問で実施されたプログラム等として、肢体不自由（脳血管障害・脳外傷等）では、身体機能の維持・向上、入浴、すまい、就労生活、職業前訓練、サービス担当者会議・関係機関との調整、住環境面の改善、すまい探しが、肢体不自由（頸髄脊髄損傷・疾病）では、すまい、住環境面の改善が、精神障害ではセルフケア、就労生活、支援の活用、職場実習支援、事業所利用体験実習支援、相談対応があげられていた。

(4) 評価指標の有無について

障害別、プログラム等の項目別に評価指標があると回答した数を一覧にしたものが表 4 である。

全体として、評価指標があると答えた割合は低かった。身体機能の維持・向上、高次脳機能認知訓練、記憶・情緒の安定、屋内移動、屋外移動、車いす操作、入浴、白杖操作、調理、公共交通機関の利用でありと回答した数が 3 を超えていた。

(5) 評価実施者の意見

調査票の今回の調査に関する自由回答で、下ののような意見をいただいた。以下 () 内はその事業所の対象となる障害をさす。

1) 設問数について

- ・回答項目が多く、内容が重複している内容もみうけられたため、職員、利用者ともにやや回答には時間がかかった（肢体不自由）。
- ・質問項目が多く、やや利用者に負担が大きいように感じた（肢体不自由）

- ・項目数は多いものの、実施している内容をもれなく調査するためには、必要な項目数であると感じた（肢体不自由）。
- ・対象者の二年間の支援を、本人と共に振り返ることができたのは良かった。初期の支援は忘れていたことも多く、対象者の変化を再認識することができた（知的障害）。
- ・視覚に障害があるだけで、身体機能や認知機能には問題ないため、設問が多い割には選択できる項目はわずかだった（視覚障害）。

2) 設問内容について

- ・全項目において、どの訓練、支援がどの項目に当てはまるか、迷うこともあったが、体系化されているため、この記入に慣れていくことにより、少しずつ理解できると思われる（肢体不自由）。
- ・B型への支援について、「5、一般就労に向けた職業訓練について」の全項目及び78)~80)の「事業所」には含まず、それ以外に「就労」「職業」という言葉が出てくる項目では含めて回答した（肢体不自由、知的障害）。
- ・ADL、IADL 訓練における視覚障害者向けの具体的な小項目に「白杖操作」「点字」とあるが、障害別にするなどしてもう少し項目を増やしても良いのではと感じた。全体的に肢体不自由、高次脳寄りの感じが否めない（視覚障害）。
- ・「相談対応」について、主に利用者の関することか、家族自身のことか、分けて整理する必要があると思う。ケアラー支援の視点から捉えると、家族自身を尊重した支援が結果として環境改善につながるかと思う（精神）。
- ・当センターではスポーツについては活動ではなく、訓練として実施しています。また、復職 B を目標に職能訓練としてパソコン訓練を行っていますが、職業訓練かその他の訓練かも迷いました（肢体不自由）。
- ・言語・コミュニケーションの設問について、外来 ST（施設での支援でない）のをカウントすべ

きか？（肢体不自由）。

- ・毎日食事していることを訓練ととるのか？ 食事時、こぼしてしまうことが課題であったので、リーダー等が見守り、こぼさない方法をその都度提案したりしていたが、この頻度と個別か集団かを迷った（肢体不自由）。

3) 頻度について

- ・利用全期間を通してコンスタントに行っていない支援の頻度をどう判断するのかが分かりにくかった（知的障害・肢体不自由・精神障害・高次脳機能障害）。
- ・目標到達に対して、累積時間が示されないため反復による訓練の実態が反映されない印象あり（視覚障害）。
- ・主たる地域づくりの活動は集中的に短期で取り組むが、それにつながる準備等は通年を通して準備している場合の頻度は、年 1 回以上か、月 1 回以上か（精神障害）。
- ・訓練は段階的進んでいくため、毎週全ての訓練を実施しているわけではないため、週 1 回以上の回答が適切なのか迷った（肢体不自由）。

4) 効果について

- ・利用者は基本的に良くなりたいと思い訓練に取り組んでおり、必然的に「効果あり」が多くなるため、アンケートの意味を感じないとの利用者からの感想を受けた（肢体不自由）。
- ・主観として効果を問うことに関しては答えやすいと感じた（肢体不自由）。
- ・「効果あり」「効果なし」「わからない」との 3 段階の答え方では評価が微妙な場合、「効果ない」と感じる想いを含んでいるが、「効果あり」と評価せざるを得ない場合もあり答えづらく、例えば 5 段階の評価にする等した方が良いと思われた。
- ・利用者さんに項目の理解をしてもらうのが難しかったため、項目についてわかりやすい表現も追加してもらえるとよいと感じた（高次脳機能障害）。

5) 有効性について

- ・今回の調査を通じては利用者と職員間での効果の受け止めのギャップに関する確認することが出来たため、有意義に感じた（肢体不自由）。
- ・自立訓練で実施している訓練内容が項目化されており、利用者支援が目に見えて確認できるような様式であると感じた。今回の調査内容の中で確認していく内容が初期・中期・終期等で利用者に振り返ってもらうためのツールとして活用できるように感じた（肢体不自由）。

D. 考察

1. 調査結果について

各事業所が多岐に渡るプログラム等を提供していることは、H30 推進事業でも明らかになっているが、今回の試験調査においても、各事業所が、幅広い分野に渡って多くのプログラム等を提供していることが示された。加えて、プログラム等の提供側の職員だけでなく、プログラム等を通じ「自立した日常生活又は社会生活を営む」ことを目標としている利用者也、効果を実感できるプログラム等が実施されていることがわかった。

今回の試験調査の分析にあたっては、機能訓練（実施者 21 名）、生活訓練（実施者 12 名）の事業毎の分析も行ったが、高次脳機能障害がどちらの事業にも含まれていること、機能訓練においても、障害種別によって提供しているプログラム等に差がみられることから、障害別による分析を実施した。

利用期間中は、プログラム等による影響だけでなく、職員や他の利用者など他者との関わりから様々な影響を受けるので、各プログラム等ごとに、目標達成との関連性を客観的に示すことは難しいと思われる。ただ、表 2 で示したように、目標達成したケースについて、プログラム等の実施率と効果実感率を複合的に分析することで、効果があると思われるプログラム等を障害種別ごとに類型化できる可能性は示唆された。

また、今回の試験調査の協力機関が限られているため、基準該当や共生型の事業所を含む本調査では、障害別による調査が適当であると思われる。

2. 次年度に向けた調査票の作成

障害種別毎による分析を行った結果、障害特性によりプログラム等の傾向が異なった。また、評価実施者の意見を踏まえ、次年度の本調査にむけいくつか整理を行いたい。

(1) 自立訓練（機能訓練）と（生活訓練）、障害別による調査票の作成

障害別プログラム等・職員効果実感率・利用者効果実感率（表 1、表 2）より、障害によってプログラム等の実施率の差が大きいことがわかる。高次脳機能障害が機能訓練と生活訓練のどちらでも対応されていることから、事業別ではなく、障害種別ごとに分析を行うことが適切であると考えられる。

また、評価実施者からは、「調査項目が多い」、「利用者負担がある」などの意見が出ていたが、今回の調査件数で障害種別ごとにプログラム等の実施の有無が明らかになったとは言い難い。設問を削除する、あるいは特定の障害種別ではそのプログラム等が実施されていないなど、調査項目の整理をする裏付けをとるためには令和 3 年度の調査でも再度同一の調査票を用いることが適切と考える。ただし、知的障害・精神障害・発達障害について、「機能維持・向上訓練」は実施対象ではないので、設問から除くなど、一部回答しやすさを考慮する。

(2) 設問数・内容について

前述のとおり、事業別・障害別による調査票を用いないことで、基本の設問数は大きくは変わらないが、プログラム等の内容や対象を明確にすることで回答しやすくなる項目については、細分化やコメント機能などを活用する、試験調査で実施率の低い項目はその他から選択できるようにするなど回答しやすい工夫を検討する。

(3) 評価回答時期について

今回の試験調査では、初期・中期・終期のように、同じ利用者で利用開始からの時期に応じて複数回調査することは、評価実施者の負担を考慮し実施しなかった。しかし、「実施頻度が時期によって異なるので答えづらかった」という意見もあった。標準的プログラムを作成するにあたり、実施時期も考慮すべき事項であるため、「訓練導入期（初期）・経験拡大期（中期）・地域移行支援期（終期）・全期間」のいずれかに実施したかを設問に加えることを検討する。

(4) プログラム等の形式について

今回の調査では、全期間を通しての方法、頻度、時間数等を調査したため、「利用開始からの時期によって実施の有無や頻度が変化しているプログラム等に関しては回答がしにくい」との意見が回答者から出ていた。

全期間を通じて実施していない項目については、前述の実施期間を設けることで、その期間の頻度として記載いただくことで可能となると考える。

(5) 効果について

主観評価にはなるが、標準的プログラム等の作成において、非常に参考となる項目であり、基準となる項目として、職員だけでなく利用者からの評価を確認したい。利用者の協力を仰ぐ際は、負担軽減のため、実施状況に記載ある項目に絞り込みを行うなど調査票の工夫を検討する。

(6) 次年度の調査における課題

全国の自立訓練系事業所に協力を要請することで、今回の試験調査より障害別で示される項目や効果実感率が分散する可能性が高い。

事業所の基本情報として、事業種別や内容、規模、入所通所の別、対象となる利用者像、専門職配置などを入れ分析に加えることで、標準的プログラム等作成の参考とする。

3. 標準的プログラム等作成にむけた課題

今回の試験調査を通じ、事業別より障害分野別で標準的プログラム等を検討することが有効であると考えられる。

ただ、障害別であっても事業所規模や入所・通所などサービスの提供方法によってもプログラム等は異なる。標準的プログラム等について、基本プログラム (A) 標準プログラム (B) 付加価値のあるプログラム (C) などプログラムの構成を検討する必要がある。

今後、プログラム等の実施が報酬等に反映する場合は、(A)を満たしている場合は、加減算なし、(B)を満たすと加算 1、(C)も満たすと加算 2 など、プログラムの多様性や効果が体制に直接影響することを想定して標準的プログラム等の開発を検討したい。

また、標準的プログラム等を実施し得た成果について、現行の就労支援体制加算のように成果を評価できる仕組みについても提言していきたい。

表1 障害別プログラム等・職員効果実感率・利用者効果実感率一覧

プログラム等の分類		n=12			n=6		
		肢体不自由 (脳血管障害・頭部外傷等)			肢体不自由 (頸髄脊髄損傷・疾患)		
		実施率	職員効果実感率	利用者効果実感率	実施率	職員効果実感率	利用者効果実感率
機能維持・向上訓練	1) 身体機能の維持・向上訓練	91.7%	90.9%	90.9%	100.0%	100.0%	83.3%
	2) 利き手交換訓練	33.3%	75.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	3) 高次脳機能・認知訓練	83.3%	90.0%	70.0%	16.7%	100.0%	100.0%
	4) 言語訓練	25.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	5) 摂食・嚥下訓練	8.3%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	6) 感覚統合訓練	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	7) 記憶・情緒の安定	41.7%	80.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	8) 代替手段の活用	25.0%	50.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	9) その他	21.4%	66.7%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%
ADL訓練	10) 起居訓練	14.3%	100.0%	100.0%	83.3%	100.0%	80.0%
	11) 転倒訓練	21.4%	100.0%	100.0%	16.7%	100.0%	100.0%
	12) 移乗	14.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	83.3%
	13) 屋内移動	42.9%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	66.7%
	14) 屋外移動	57.1%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	83.3%
	15) 車いす操作	28.6%	75.0%	75.0%	83.3%	100.0%	80.0%
	16) 食事	14.3%	50.0%	100.0%	33.3%	100.0%	50.0%
	17) 更衣	14.3%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	66.7%
	18) 排泄	7.1%	100.0%	100.0%	83.3%	100.0%	80.0%
	19) 入浴	42.9%	100.0%	83.3%	100.0%	100.0%	83.3%
	20) みだしなみ・整容	21.4%	66.7%	33.3%	16.7%	100.0%	0.0%
	21) 白杖操作	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	22) 点字	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
23) その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
IADL訓練	24) 電話の使用	14.3%	50.0%	50.0%	16.7%	0.0%	0.0%
	25) 買い物	42.9%	83.3%	83.3%	33.3%	100.0%	50.0%
	26) 調理	50.0%	71.4%	71.4%	33.3%	100.0%	100.0%
	27) 洗濯	21.4%	100.0%	100.0%	16.7%	100.0%	100.0%
	28) 掃除	42.9%	100.0%	83.3%	16.7%	0.0%	100.0%
	29) その他家事	14.3%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30) 服薬管理	35.7%	60.0%	40.0%	50.0%	100.0%	66.7%
	31) 金銭・財産取扱い	7.1%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	32) 公共交通機関の利用	57.1%	75.0%	62.5%	66.7%	75.0%	75.0%
	33) 自動車利用・運転	21.4%	66.7%	100.0%	66.7%	100.0%	50.0%
	34) その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

n=8

n=4

n=2

高次脳機能障害			視覚障害			知的障害		
実施率	職員効果実感率	利用者効果実感率	実施率	職員効果実感率	利用者効果実感率	実施率	職員効果実感率	利用者効果実感率
75.0%	83.3%	66.7%	25.0%	0.0%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
100.0%	100.0%	62.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
12.5%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
25.0%	50.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
62.5%	100.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
87.5%	100.0%	57.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
12.5%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
25.0%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
12.5%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
12.5%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	50.0%
12.5%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%
0.0%	0.0%	0.0%	75.0%	100.0%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%
0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	75.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	50.0%
25.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%
25.0%	100.0%	50.0%	75.0%	100.0%	66.7%	100.0%	100.0%	100.0%
12.5%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%
37.5%	100.0%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%
25.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%	0.0%
37.5%	66.7%	100.0%	25.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	50.0%
0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
37.5%	100.0%	66.7%	75.0%	100.0%	66.7%	100.0%	100.0%	100.0%
12.5%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

プログラム等の分類		肢体不自由 (脳血管障害・頭部外傷等)			肢体不自由 (頸髄脊髄損傷・疾患)		
		実施率	職員効果実感率	利用者効果実感率	実施率	職員効果実感率	利用者効果実感率
社会生活力訓練	35) 疾病・健康管理	64.3%	88.9%	88.9%	66.7%	100.0%	75.0%
	36) 食生活・栄養管理	71.4%	60.0%	90.0%	16.7%	0.0%	0.0%
	37) セルフケア	35.7%	100.0%	80.0%	16.7%	100.0%	100.0%
	38) 生活リズム	42.9%	83.3%	83.3%	33.3%	50.0%	100.0%
	39) 安全・危機管理	35.7%	60.0%	40.0%	16.7%	0.0%	100.0%
	40) 金銭・財産管理	28.6%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	41) すまい	28.6%	75.0%	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%
	42) 掃除・整理	50.0%	100.0%	71.4%	33.3%	50.0%	100.0%
	43) 買い物	35.7%	100.0%	100.0%	16.7%	100.0%	100.0%
	44) 服装	7.1%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	45) 自己理解	35.7%	80.0%	80.0%	33.3%	100.0%	100.0%
	46) 障害の理解	64.3%	100.0%	88.9%	66.7%	100.0%	100.0%
	47) 人間関係	7.1%	0.0%	100.0%	16.7%	0.0%	100.0%
	48) コミュニケーション	42.9%	83.3%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	49) 教育と学習	7.1%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	50) 就労生活	35.7%	100.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	51) 恋愛・結婚・子育て	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	52) 外出・余暇活動	35.7%	100.0%	60.0%	16.7%	100.0%	100.0%
	53) 地域生活・参加	21.4%	100.0%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	54) 社会保障制度活用支援	50.0%	100.0%	85.7%	16.7%	100.0%	0.0%
55) 障害福祉制度・サービス	78.6%	81.8%	72.7%	66.7%	75.0%	75.0%	
56) 介護保険制度・サービス	42.9%	66.7%	83.3%	0.0%	0.0%	0.0%	
57) 支援の活用	42.9%	83.3%	66.7%	16.7%	100.0%	100.0%	
58) 権利の行使と養護	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
59) その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
一般就労に向けた職業訓練	60) 職業前訓練	64.3%	100.0%	77.8%	16.7%	100.0%	100.0%
	61) 職業訓練・復職訓練	57.1%	100.0%	75.0%	33.3%	100.0%	50.0%
	62) 就職活動支援	7.1%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	63) 職場実習支援	7.1%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	64) 資格取得のための訓練	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	65) その他	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

高次脳機能障害			視覚障害			知的障害		
実施率	職員効果実感率	利用者効果実感率	実施率	職員効果実感率	利用者効果実感率	実施率	職員効果実感率	利用者効果実感率
75.0%	100.0%	50.0%	75.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
75.0%	100.0%	50.0%	50.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
62.5%	100.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%	0.0%
62.5%	80.0%	60.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	50.0%
50.0%	100.0%	25.0%	50.0%	100.0%	50.0%	100.0%	50.0%	0.0%
12.5%	100.0%	0.0%	25.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
12.5%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
62.5%	100.0%	40.0%	25.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
25.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%
25.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%
87.5%	85.7%	57.1%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%
100.0%	87.5%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	50.0%	50.0%
50.0%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	50.0%	100.0%
100.0%	87.5%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%
37.5%	66.7%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	50.0%	50.0%
75.0%	100.0%	33.3%	25.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
12.5%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
62.5%	100.0%	60.0%	25.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
25.0%	100.0%	100.0%	25.0%	100.0%	100.0%	100.0%	50.0%	50.0%
62.5%	100.0%	40.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%	0.0%
75.0%	100.0%	33.3%	50.0%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%
0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
37.5%	66.7%	66.7%	25.0%	100.0%	100.0%	100.0%	50.0%	50.0%
0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	100.0%	100.0%	100.0%	50.0%	50.0%
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
75.0%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%	100.0%
37.5%	100.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
12.5%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
12.5%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
12.5%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%

プログラム等の分類		肢体不自由 (脳血管障害・頭部外傷等)			肢体不自由 (頸髄脊髄損傷・疾患)		
		実施率	職員効果実感率	利用者効果実感率	実施率	職員効果実感率	利用者効果実感率
その他の訓練	66)スポーツ活動	78.6%	81.8%	63.6%	83.3%	100.0%	80.0%
	67)PCなどのICT訓練	57.1%	87.5%	75.0%	33.3%	100.0%	100.0%
	68)一般教養・強化学習	7.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	69)ソーシャルスキルトレーニング	14.3%	100.0%	0.0%	16.7%	100.0%	100.0%
	70)音楽療法	21.4%	33.3%	33.3%	16.7%	0.0%	100.0%
	71)園芸療法	14.3%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	72)アニマルセラピー	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	73)模擬生活訓練	28.6%	100.0%	100.0%	16.7%	100.0%	100.0%
	74)家庭学習	21.4%	66.7%	66.7%	0.0%	0.0%	0.0%
	75)その他	7.1%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
地域移行、社会参加に向けた支援	76)サービス担当者会議等	85.7%	100.0%	75.0%	83.3%	100.0%	80.0%
	77)住環境面の改善	50.0%	85.7%	100.0%	83.3%	100.0%	80.0%
	78)医療機関・事業所探し選定支援	50.0%	42.9%	71.4%	83.3%	80.0%	80.0%
	79)事業所見学・同行	35.7%	100.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	80)事業所利用体験実習支援	14.3%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	81)求職活動支援	7.1%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	82)職場見学同行	21.4%	66.7%	100.0%	16.7%	100.0%	100.0%
	83)職場体験実習同行	7.1%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	84)職場との調整	28.6%	100.0%	75.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	85)職場との調整・生活支援	28.6%	75.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	86)その他の同行支援	7.1%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	87)住まい探し	14.3%	100.0%	100.0%	16.7%	100.0%	100.0%
	88)契約行為等の手続き	7.1%	100.0%	100.0%	16.7%	100.0%	100.0%
	89)消費者トラブルなど危機回避	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	90)職場・地域等周囲の理解促進	14.3%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
91)レクリエーション・余暇活動支援	14.3%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
92)各種制度の活用	28.6%	75.0%	100.0%	33.3%	50.0%	0.0%	
93)その他	14.3%	50.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
家族支援	94)障害理解促進	50.0%	57.1%	71.4%	66.7%	50.0%	100.0%
	95)相談対応	57.1%	62.5%	75.0%	83.3%	40.0%	80.0%
	96)その他	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	100.0%	100.0%
地域貢献活動	97)地域等に対するボランティア活動	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	98)ピアサポート活動	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	99)利用者が行う地域交流活動	7.1%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	100)利用者が行う地域づくり活動	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	101)その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

高次脳機能障害			視覚障害			知的障害		
実施率	職員効果実感率	利用者効果実感率	実施率	職員効果実感率	利用者効果実感率	実施率	職員効果実感率	利用者効果実感率
75.0%	100.0%	33.3%	50.0%	100.0%	50.0%	100.0%	50.0%	100.0%
75.0%	100.0%	33.3%	100.0%	100.0%	75.0%	100.0%	100.0%	100.0%
50.0%	50.0%	75.0%	50.0%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%
75.0%	100.0%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%	100.0%
37.5%	0.0%	12.5%	25.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	50.0%
37.5%	66.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%	0.0%
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	50.0%
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%	100.0%
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0.0%	0.0%	0.0%	75.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
100.0%	100.0%	50.0%	75.0%	33.3%	33.3%	100.0%	100.0%	50.0%
0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	100.0%	0.0%	50.0%	100.0%	100.0%
37.5%	100.0%	66.7%	25.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
75.0%	100.0%	66.7%	25.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
50.0%	100.0%	75.0%	25.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
12.5%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%	100.0%
12.5%	100.0%	100.0%	25.0%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%
12.5%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%	100.0%
0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%
0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%
25.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	50.0%	50.0%
12.5%	100.0%	100.0%	25.0%	100.0%	100.0%	100.0%	50.0%	50.0%
25.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	50.0%	50.0%
12.5%	100.0%	0.0%	50.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%
0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
87.5%	57.1%	57.1%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
87.5%	71.4%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	50.0%	50.0%
0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	100.0%	100.0%	50.0%	0.0%	50.0%
12.5%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
12.5%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
12.5%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	50.0%	50.0%
12.5%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

プログラム等の分類		n=3			n=2		
		精神障害			発達障害		
		実施率	職員効果実感率	利用者効果実感率	実施率	職員効果実感率	利用者効果実感率
機能維持・向上訓練	1) 身体機能の維持・向上訓練	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	2) 利き手交換訓練	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	3) 高次脳機能・認知訓練	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	4) 言語訓練	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	5) 摂食・嚥下訓練	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	6) 感覚統合訓練	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	7) 記憶・情緒の安定	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	8) 代替手段の活用	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	9) その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
ADL訓練	10) 起居訓練	33.3%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%
	11) 転倒訓練	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	12) 移乗	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	13) 屋内移動	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	14) 屋外移動	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	15) 車いす操作	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	16) 食事	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	17) 更衣	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	18) 排泄	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	19) 入浴	33.3%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	20) みだしなみ・整容	66.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	21) 白杖操作	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	22) 点字	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
23) その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
IADL訓練	24) 電話の使用	66.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	25) 買い物	66.7%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%
	26) 調理	100.0%	100.0%	66.7%	100.0%	50.0%	50.0%
	27) 洗濯	33.3%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	28) 掃除	66.7%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	29) その他家事	33.3%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	30) 服薬管理	66.7%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	31) 金銭・財産取扱い	66.7%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%
	32) 公共交通機関の利用	33.3%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%
	33) 自動車利用・運転	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	34) その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

プログラム等の分類		精神障害			発達障害		
		実施率	職員効果実感率	利用者効果実感率	実施率	職員効果実感率	利用者効果実感率
社会生活力訓練	35) 疾病・健康管理	66.7%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	36) 食生活・栄養管理	33.3%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	37) セルフケア	100.0%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%
	38) 生活リズム	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	39) 安全・危機管理	33.3%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	40) 金銭・財産管理	66.7%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%
	41) すまい	66.7%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	42) 掃除・整理	66.7%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	43) 買い物	33.3%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	44) 服装	66.7%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%
	45) 自己理解	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	46) 障害の理解	100.0%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%
	47) 人間関係	66.7%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%
	48) コミュニケーション	66.7%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%
	49) 教育と学習	66.7%	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%	50.0%
	50) 就労生活	33.3%	100.0%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	51) 恋愛・結婚・子育て	33.3%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	52) 外出・余暇活動	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	53) 地域生活・参加	66.7%	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%	100.0%
54) 社会保障制度活用支援	33.3%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
55) 障害福祉制度・サービス	66.7%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
56) 介護保険制度・サービス	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
57) 支援の活用	66.7%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
58) 権利の行使と養護	66.7%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
59) その他	33.3%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
一般就労に向けた職業訓練	60) 職業前訓練	33.3%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%
	61) 職業訓練・復職訓練	33.3%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	62) 就職活動支援	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	63) 職場実習支援	66.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	64) 資格取得のための訓練	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	65) その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

プログラム等の分類		精神障害			発達障害		
		実施率	職員効果実感率	利用者効果実感率	実施率	職員効果実感率	利用者効果実感率
その他の訓練	66) スポーツ活動	100.0%	66.7%	66.7%	100.0%	0.0%	0.0%
	67) PCなどのICT訓練	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	68) 一般教養・強化学習	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	69) ソーシャルスキルトレーニング	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	70) 音楽療法	33.3%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	71) 園芸療法	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	72) アニマルセラピー	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	73) 模擬生活訓練	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	74) 家庭学習	33.3%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	75) その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
地域移行、社会参加に向けた支援	76) サービス担当者会議等	100.0%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%
	77) 住環境面の改善	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	78) 医療機関・事業所探し・選定支援	66.7%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	79) 事業所見学・同行	66.7%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	80) 事業所利用体験実習支援	66.7%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	81) 求職活動支援	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	82) 職場見学同行	33.3%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	83) 職場体験実習同行	66.7%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%
	84) 職場との調整	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	85) 就労中の職場との調整・生活支援	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	86) その他の同行支援	66.7%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	87) 住まい探し	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	88) 契約行為等の手続き	66.7%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%
	89) 消費者トラブルなど危機回避	33.3%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
90) 職場・地域等周囲の理解促進	33.3%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
91) レクリエーション・余暇活動支援	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
92) 各種制度の活用	33.3%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%	
93) その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	
家族支援	94) 障害理解促進	33.3%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	95) 相談対応	66.7%	100.0%	50.0%	50.0%	100.0%	100.0%
	96) その他	33.3%	100.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%
地域貢献活動	97) 地域等に対するボランティア活動	66.7%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
	98) ピアサポート活動	100.0%	100.0%	100.0%	50.0%	100.0%	100.0%
	99) 利用者が行う地域交流活動	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	100) 利用者が行う地域づくり活動	66.7%	100.0%	100.0%	50.0%	0.0%	0.0%
	101) その他	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

表2 障害別プログラム等・職員効果実感率・利用者効果実感率の関係

◎は実施率 50%以上かつ職員効果実感率・利用者効果実感率ともに 75%以上

●は実施率は 50%未満だが、職員効果実感率・利用者効果実感率はともに 75%以上

△は実施率 50%以上だが、職員効果実感率・利用者効果実感率はいずれかのみ 75%以上

※各分類のその他は省略している。

プログラム等の分類		肢体不自由(脳血管障害等)	肢体不自由(頸髄脊髄損傷等)	高次脳機能障害	視覚障害	知的障害	精神障害	発達障害
機能維持・向上訓練	1) 身体機能の維持・向上訓練	◎	◎	△				
	2) 利き手交換訓練	●						
	3) 高次脳機能・認知訓練	△	●	△				
	4) 言語訓練	●		●				
	5) 摂食・嚥下訓練	●						
	6) 感覚統合訓練							
	7) 記憶・情緒の安定			◎				
	8) 代替手段の活用			△				
	9) その他							
ADL訓練	10) 起居訓練	●	◎				●	◎
	11) 転倒訓練	●	●					
	12) 移乗	●	◎					
	13) 屋内移動	●	△	●	◎			
	14) 屋外移動	◎	◎	●	◎			
	15) 車いす操作	●	◎					
	16) 食事							
	17) 更衣	●	△					
	18) 排泄	●	◎	●				
	19) 入浴	●	◎	●		△	●	
	20) みだしなみ・整容			●		◎	◎	◎
	21) 白杖操作				△			
	22) 点字				△			

プログラム等の分類		肢体不自由(脳血管障害等)	肢体不自由(頸髄脊髄損傷等)	高次脳機能障害	視覚障害	知的障害	精神障害	発達障害
IADL 訓練	24) 電話の使用				●	△	◎	◎
	25) 買い物	●		●		◎	◎	◎
	26) 調理		●		△	◎	△	
	27) 洗濯	●		●		◎	●	
	28) 掃除	●				◎		
	29) その他家事			●		△	●	
	30) 服薬管理		△			△	◎	
	31) 金銭・財産取扱い					◎	◎	◎
	32) 公共交通機関の利用	△	◎		△	◎	●	◎
	33) 自動車利用・運転		◎					
社会生活力 訓練	35) 疾病・健康管理	◎	◎	△	◎	◎	◎	
	36) 食生活・栄養管理	△		△	◎	◎	●	
	37) セルフケア	●	●	△		△	◎	◎
	38) 生活リズム	●		△		△	◎	◎
	39) 安全・危機管理			△	△		●	
	40) 金銭・財産管理					◎	◎	◎
	41) すまい	●	◎				◎	
	42) 掃除・整理	△		△		◎		
	43) 買い物	●	●			◎	●	
	44) 服装	●				◎	◎	◎
	45) 自己理解	●	●	△		◎	◎	◎
	46) 障害の理解	◎	◎	△			◎	◎
	47) 人間関係			△		△	◎	◎
	48) コミュニケーション			△		◎	◎	◎
	49) 教育と学習	●					◎	△
	50) 就労生活	●		△	●	◎	●	
	51) 恋愛・結婚・子育て			●			●	
	52) 外出・余暇活動			△	●	◎	◎	◎
	53) 地域生活・参加			●	●		△	◎
	54) 社会保障制度活用支援	◎		△		△	●	
55) 障害福祉制度・サービス	△	◎	△	◎	◎	◎		
56) 介護保険制度・サービス				●				
57) 支援の活用		●		●		◎		
58) 権利の行使と養護				●		◎		

プログラム等の分類		肢体不自由(脳血管障害等)	肢体不自由(頸髄脊髄損傷等)	高次脳機能障害	視覚障害	知的障害	精神障害	発達障害
一般就労に向けた職業訓練	60) 職業前訓練	◎	●	△		◎	●	◎
	61) 職業訓練・復職訓練	◎					●	
	62) 就職活動支援	●						
	63) 職場実習支援						◎	◎
	64) 資格取得のための訓練							
その他の訓練	66) スポーツ活動	△	◎	△	△	△		
	67) PC などの ICT 訓練	◎	●	△	◎	◎		
	68) 一般教養・強化学習				◎	◎		
	69) ソーシャルスキルトレーニング		●	△		◎	◎	◎
	70) 音楽療法				●	△		
	71) 園芸療法					△		
	72) アニマルセラピー					△		
	73) 模擬生活訓練	●	●			◎		
	74) 家庭学習						●	

プログラム等の分類		肢体不自由(脳血管障害等)	肢体不自由(頸髄脊髄損傷等)	高次脳機能障害	視覚障害	知的障害	精神障害	発達障害
地域移行、社会参加に向けた支援	76) サービス担当者会議・関係機関との調整	◎	◎	△		△	◎	◎
	77) 住環境面の改善	◎	◎			◎		
	78) 医療機関・事業所探し・選定支援		◎		●	◎	◎	
	79) 事業所見学・同行	●		△	●	◎	◎	
	80) 事業所利用体験実習支援	●		◎	●	◎	◎	
	81) 求職活動支援	●				◎		
	82) 職場見学同行		●		●	◎	●	◎
	83) 職場体験実習同行					◎	◎	◎
	84) 職場との調整	●			●	◎		
	85) 就労中の職場との調整・生活支援	●			●	◎		
	86) その他の同行支援					◎		
	87) 住まい探し	●	●					
	88) 契約行為等の手続き	●	●			◎	◎	◎
	89) 消費者トラブルなど危機回避						●	
	90) 職場・地域等周囲の理解促進	●			●		●	
	91) 地域生活の中でのレクリエーション・余暇活動支援						◎	◎
92) 各種制度の活用	●			◎	△	●	◎	
家族支援	94) 障害理解促進		△				●	
	95) 相談対応	△	△				△	◎
地域貢献活動	97) 地域等に対するボランティア活動						△	
	98) 他の障害者等に対するピアサポート活動						◎	◎
	99) 利用者が(と共に)行う地域交流活動	●					◎	◎
	100) 利用者が(と共に)行う地域づくり活動						◎	

表3 障害別各プログラム等で最も回答数が多かったプログラム等の形式

※表2で印がつかなかったプログラム等の結果は塗りつぶして割愛している。

プログラム等の分類		肢体不自由 (脳血管障害等)	肢体不自由 (頸髄脊髄損傷等)	高次脳機能障害
機能維持・ 向上訓練	1) 身体機能の維持・ 向上訓練	個別 週1回以上 1h以内	個別 週1回以上 1h以内他	集団 週1回以上 1h以内
	2) 利き手交換訓練	個別 週1回以上 1h以内		
	3) 高次脳機能・認知 訓練	個別 週1回以上 1h以内他	集団 週1回以上 1h以内	集団 週1回以上 1h以内
	4) 言語訓練	個別 週1回以上 1h以内		個別 週1回以上 1h以内
	5) 摂食・嚥下訓練	個別 週1回以上 1h以内		
	7) 記憶・情緒の安定			個別 週1回以上 1h以内
	8) 代替手段の活用			集団 週1回以上 1h以内
ADL 訓練	10) 起居訓練	個別 週1回以上 1h以内他	個別 週1回以上 1h以内	
	11) 転倒訓練	個別 週1回以上 1h以内	集団 年1回以上 1h以内	
	12) 移乗	個別 週1回以上 1h以内他	集団 週1回以上 1h以内	
	13) 屋内移動	個別 週1回以上 1h以内	個別 週1回以上 1h以内	個別 週1回以上 1h以内 他
	14) 屋外移動	集団 週1回以上 1h以内	個別 週1回以上 1h以内	個別 月1回以上 1h以内
	15) 車いす操作	個別 週1回以上 1~3h他	個別 週1回以上 1h以内他	
	17) 更衣	集団 週1回以上 1h以内他	個別 毎日 1h以内	
	18) 排泄	個別 月1回以上 1h以内	個別 週1回以上 1h以内	個別 週1回以上 1h以内
	19) 入浴	個別 週1回以上 1h以内	個別 週1回以上 1h以内	個別 週1回以上 1h以内 他
	20) みだしなみ・整容			個別 週1回以上 1h以内
IADL 訓練	25) 買い物	個別 年1回以上 1h以内		個別 月1回以上 1h以内
	26) 調理		個別 月1回以上 1h以内他	
	27) 洗濯	個別 週1回以上 1h以内他		個別 週1回以上 1h以内
	28) 掃除	個別 週1回以上 1h以内		
	29) その他家事			個別 週1回以上 1h以内
	30) 服薬管理		個別 毎日 1h以内	
	32) 公共交通機関の 利用	個別 月1回以上 1~3h他	個別 年1回以上 1~3h	
	33) 自動車利用・運 転		個別 月1回以上 1h以内	

プログラム等の分類	肢体不自由 (脳血管障害等)	肢体不自由 (頸髄脊髄損傷等)	高次脳機能障害	
社会生活力訓練	35) 疾病・健康管理	個別 毎日 1h 以内	個別 週 1 回以上 1h 以内他	個別 毎日 1h 以上他
	36) 食生活・栄養管理	集団 年 1 回以上 1h 以内		個別 月 1 回以上 1h 以内他
	37) セルフケア	集団 年 1 回以上 1h 以内	集団 週 1 回以上 1h 以内	集団 年 1 回以上 1h 以内
	38) 生活リズム	集団 年 1 回以上 1h 以内		集団 年 1 回以上 1h 以内
	39) 安全・危機管理			集団 年 1 回以上 1h 以内
	41) すまい	個別 年 1 回以上 1h 以内	訪問 年 1 回以上 1h 以内他	
	42) 掃除・整理	集団 年 1 回以上 1h 以内		個別 週 1 回以上 1h 以内
	43) 買い物	個別 年 1 回以上 1h 以内	個別 年 1 回以上 1h 以内	
	44) 服装	集団 年 1 回以上 1h 以内		
	45) 自己理解	集団 年 1 回以上 1h 以内	集団 年 1 回以上 1h 以内	個別 週 1 回以上 1h 以内他
	46) 障害の理解	集団 年 1 回以上 1h 以内	集団 年 1 回以上 1h 以内	個別 週 1 回以上 1h 以内他
	47) 人間関係			個別 週 1 回以上 1h 以内
	48) コミュニケーション			個別 週 1 回以上 1h 以内
	49) 教育と学習	集団 年 1 回以上 1h 以内		
	50) 就労生活	集団 年 1 回以上 1h 以内		集団 年 1 回以上 1h 以内
	51) 恋愛・結婚・子育て			個別 年 1 回以上 1h 以内
	52) 外出・余暇活動			個別 週 1 回以上 1~3h 他
	53) 地域生活・参加			個別 週 1 回以上 1~3h 他
	54) 社会保障制度活用支援	集団 年 1 回以上 1h 以内		集団 年 1 回以上 1h 以内
	55) 障害福祉制度・サービス	集団 年 1 回以上 1h 以内	集団 週 1 回以上 1h 以内他	集団 年 1 回以上 1h 以内
57) 支援の活用		集団 週 1 回以上 1h 以内		
一般就労に向けた職業	60) 職業前訓練	個別 年 1 回以上 3h 以上	個別 年 1 回以上 1~3h	個別 年 1 回以上 3h 以上他
	61) 職業訓練・復職訓練	個別 月 1 回以上 1~3h 他	個別 年 1 回以上 1~3h	
	62) 就職活動支援	個別 年 1 回以上 1h 以内		
その他の訓練	66) スポーツ活動	集団 週 1 回以上 1h 以内	集団 週 1 回以上 1h 以内	集団 週 1 回以上 1h 以内
	67) PC などの ICT 訓練	集団 週 1 回以上 1h 以内	個別 月 1 回 1~3h 他	集団 週 1 回以上 1h 以内
	69) ソーシャルスキルトレーニング		集団 週 1 回以上 1h 以内	集団 週 1 回以上 1h 以内
	73) 模擬生活訓練	個別 年 1 回以上 3h 以上	個別 年 1 回以上 3h 以上	

プログラム等の分類		肢体不自由(脳血管障害等)	肢体不自由(頸髄脊髄損傷等)	高次脳機能障害
地域移行、社会参加に向けた支援	76) サービス担当者会議・関係機関との調整	個別 年 1 回以上 1～3h 他	個別 月 1 回以上 1h 以内他	個別 年 1 回以上 1～3h
	77) 住環境面の改善	個別 年 1 回以上 1h 以内	個別 月 1 回以上 1～3h	
	78) 医療機関・事業所探し・選定支援		個別 月 1 回以上 1h 以内他	
	79) 事業所見学・同行	個別 年 1 回以上 1～3h		個別 年 1 回以上 1～3h
	80) 事業所利用体験実習支援	個別 月 1 回以上 1h 以内他		個別 年 1 回以上 1～3h 他
	81) 求職活動支援	個別 年 1 回以上 1h 以内		
	82) 職場見学同行		個別 年 1 回以上 3h 以上	
	84) 職場との調整	個別 年 1 回以上 1～3h 他		
	85) 就労中の職場との調整・生活支援	個別 年 1 回以上 1h 以内		
	87) 住まい探し	個別 月 1 回以上 3h 以上他	個別 年 1 回以上 3h 以上	
	88) 契約行為等の手続き	個別 月 1 回以上 1h 以内	個別 年 1 回以上 1h 以内	
	90) 職場・地域等周囲の理解促進	個別 年 1 回以上 1～3h 他		
	92) 各種制度の活用	個別 年 1 回以上 1h 以内		
家族支援	94) 障害理解促進		個別 年 1 回以上 1h 以内	
	95) 相談対応	個別 月 1 回以上 1h 以内他	個別 年 1 回以上 1h 以内	
交流 地域	99) 利用者が(と共に)行う地域交流活動	個別 年 1 回以上 1h 以内		

プログラム等の分類		視覚障害	知的障害	精神障害	発達障害
ADL 訓練	10) 起居訓練			個別 週 1 回以上 1h 以内	個別 週 1 回以上 1h 以内
	13) 屋内移動	個別 週 1 回以上 1h 以内			
	14) 屋外移動	個別 週 1 回以上 1~3h			
	19) 入浴		個別 毎日 1h 以内	個別 週 1 回以上 1h 以内	
	20) みだしなみ・整容		個別 毎日 1h 以内他	個別 週 1 回以上 1h 以内	個別 月 1 回以上 1~3h 他
	21) 白杖操作	個別 週 1 回以上 1h 以内			
	22) 点字	個別 週 1 回以上 1~3h 他			
IADL 訓練	24) 電話の使用	個別 年 1 回以上 1h 以内	個別 週 1 回以上 1h 以内他	個別 週 1 回以上 1h 以内他	個別 年 1 回以上 3h 以上
	25) 買い物		個別 月 1 回以上 1~3h 他	個別 週 1 回以上 1~3h 他	個別 月 1 回以上 3h 以上
	26) 調理	個別 週 1 回以上 1~3h 他	個別 月 1 回以上 1~3h 他	個別 月 1 回以上 1h 以内	
	27) 洗濯		個別 毎日 1h 以内	個別 週 1 回以上 1h 以内	
	28) 掃除		個別 週 1 回以上 1h 以内		
	29) その他家事		個別 毎日 1h 以内	集団 週 1 回以上 1h 以内	
	30) 服薬管理		個別 毎日 1h 以内	個別 週 1 回以上 1h 以内他	
	31) 金銭・財産取扱い		個別 週 1 回以上 1h 以内他	個別 週 1 回以上 1h 以内他	個別 月 1 回以上 3h 以上
	32) 公共交通機関の利用	個別 週 1 回以上 1~3h	個別 月 1 回以上 1~3h	個別 月 1 回以上 1~3h	集団 年 1 回以上 3h 以上
社会生活力訓練	35) 疾病・健康管理	個別 週 1 回以上 1h 以内他	集団 年 1 回以上 1h 以内	個別 毎日 1h 以内他	
	36) 食生活・栄養管理	個別 年 1 回以上 1h 以内他	個別 毎日 1h 以内他	集団 月 1 回以上 1~3h	
	37) セルフケア		個別 週 1 回以上 1h 以内	個別 週 1 回以上 1h 以内	個別 月 1 回以上 1~3h
	38) 生活リズム		個別 毎日 1h 以内他	個別 毎日 1h 以内他	個別 週 1 回以上 1h 以内 他

プログラム等の分類		視覚障害	知的障害	精神障害	発達障害
社会生活力訓練	38)生活リズム		個別 毎日 1h以内他	個別 毎日 1h以内他	個別 週 1 回以上 1h 以内 他
	39)安全・危機管理	集団 月 1 回以上 1h 以内他		集団 年 1 回以上 1~3h	
	40)金銭・財産管理		個別 月 1 回以上 1h 以内	個別 週 1 回以上 1h 以内	個別 月 1 回以上 3h 以上
	41)すまい			個別 月 1 回以上 1h 以内他	
	42)掃除・整理		個別 週 1 回以上 1h 以内他		
	43)買い物		個別 月 1 回以上 1~3h 他	集団 年 1 回以上 1~3h	
	44)服装		個別 月 1 回以上 1h 以内他	個別 月 1 回以上 1~3h 他	個別 月 1 回以上 1~3h
	45)自己理解		個別 月 1 回以上 1h 以内他	集団 月 1 回以上 1~3h	個別 毎日 1h 以内他
	46)障害の理解			集団 月 1 回以上 1~3h	個別 月 1 回以上 3h 以上
	47)人間関係		個別 月 1 回以上 1h 以内	個別 週 1 回以上 1h 以内他	個別 月 1 回以上 1~3h
	48)コミュニケーション		個別 月 1 回以上 1h 以内他	集団 月 1 回以上 1~3h	集団 毎日 1h 以内
	49)教育と学習			集団 月 1 回以上 1~3h	集団 週 1 回以上 1~3h 他
	50)就労生活	個別 月 1 回以上 3h 以上	個別 月 1 回以上 1~3h 他	訪問 年 1 回以上 1~3h	
	51)恋愛・結婚・子育て			個別 月 1 回以上 1~3h	
	52)外出・余暇活動	集団 年 1 回以上 1h 以内	個別 週 1 回以上 1h 以内他	集団 月 1 回以上 1~3h	集団 月 1 回以上 1~3h 他
53)地域生活・参加	集団 年 1 回以上 1h 以内		個別 月 1 回以上 1~3h	集団 週 1 回以上 1~3h	

プログラム等の分類		視覚障害	知的障害	精神障害	発達障害
社会生活力訓練	54) 社会保障制度活用支援		個別 月 1 回以上 1h 以内他	集団 年 1 回以上 1~3h	
	55) 障害福祉制度・サービス	個別 月 1 回以上 1h 以内他	個別 月 1 回以上 1h 以内他	個別 年 1 回以上 1~3h 他	
	56) 介護保険制度・サービス	個別 月 1 回以上 1h 以内			
	57) 支援の活用	個別 年 1 回以上 1h 以内		集団 月 1 回以上 1~3h	
	58) 権利の行使と養護	個別 年 1 回以上 1h 以内		集団 年 1 回以上 1~3h	
一般就労に向けた職業訓練	60) 職業前訓練		個別 年 1 回以上 1~3h	個別 年 1 回以上 3h 以上	個別 週 1 回以上 1~3h 他
	61) 職業訓練・復職訓練			個別 年 1 回以上 3h 以上他	
	63) 職場実習支援			個別 年 1 回以上 3h 以上他	個別 月 1 回以上 3h 以上他
その他の訓練	66) スポーツ活動	個別 年 1 回以上 1h 以内他	集団 週 1 回以上 1~3h		
	67) PC などの ICT 訓練	個別 毎日 1h 以内他	個別 月 1 回以上 1h 以内		
	68) 一般教養・強化学習	集団 月 1 回以上 1h 以内	個別 月 1 回以上 1h 以内他		
	69) ソーシャルスキルトレーニング		個別 月 1 回以上 1h 以内他	集団 週 1 回以上 1~3h	集団 月 1 回以上 1~3h 他
	70) 音楽療法	集団 年 1 回以上 1h 以内	集団 月 1 回以上 1~3h		
	71) 園芸療法		集団 週 1 回以上 1~3h		
	72) アニマルセラピー		集団 年 1 回以上 1h 以内		
	73) 模擬生活訓練		個別 年 1 回以上 3h 以上		
	74) 家庭学習			集団 月 1 回以上 1~3h	
家族支援	94) 障害理解促進			個別 年 1 回以上 1~3h	
	95) 相談対応			集団 年 1 回以上 1~3h 他	個別 年 1 回以上 3h 以上

プログラム等の分類	視覚障害	知的障害	精神障害	発達障害	
地域移行、社会参加に向けた支援	76) サービス担当者会議・関係機関との調整		個別 年1回以上 3h 以上他	個別 月1回以上 1~3h 他	個別 年1回以上 3h 以上
	77) 住環境面の改善		個別 年1回以上 3h 以上		
	78) 医療機関・事業所探し・選定支援	個別 月1回以上 1h 以内	個別 年1回以上 3h 以上	個別 年1回以上 3h 以上他	
	79) 事業所見学・同行	個別 年1回以上 1~3h	個別 年1回以上 1~3h	個別 年1回以上 1~3h 他	
	80) 事業所利用体験実習支援	個別 年1回以上 1~3h	個別 月1回以上 3h 以上	個別 年1回以上 1~3h 他	
	81) 求職活動支援		個別 年1回以上 3h 以上		
	82) 職場見学同行	個別 年1回以上 1~3h	個別 年1回以上 3h 以上	個別 年1回以上 3h 以上	個別 年1回以上 3h 以上
	83) 職場体験実習同行		個別 月1回以上 1~3h	個別 年1回以上 3h 以上	個別 年1回以上 3h 以上
	84) 職場との調整	個別 月1回以上 1~3h	個別 月1回以上 1h 以内		
	85) 就労中の職場との調整・生活支援	個別 月1回以上 1h 以内	個別 月1回以上 1h 以内		
	86) その他の同行支援		個別 月1回以上 1~3h 他		
	88) 契約行為等の手続き		個別 年1回以上 3h 以上	個別 年1回以上 3h 以上	個別 年1回以上 3h 以上
	89) 消費者トラブルなど危機回避			集団 年1回以上 1~3h	
	90) 職場・地域等周囲の理解促進	個別 月1回以上 1h 以内		集団 年1回以上 1~3h	
地域貢献活動	91) 地域生活の中でのレクリエーション・余暇活動支援		集団 月1回以上 1~3h	個別 月1回以上 1~3h 他	
	92) 各種制度の活用	個別 月1回以上 1h 以内	個別 月1回以上 1h 以内他	個別 年1回以上 3h 以上	個別 年1回以上 3h 以上
	97) 地域等に対するボランティア活動			集団 週1回以上 1~3h 他	
	98) 他の障害者等に対するピアサポート活動			集団 年1回以上 3h 以上	集団 年1回以上 3h 以上
	99) 利用者が(と共に)行う地域交流活動			集団 週1回以上 1~3h	集団 週1回以上 1~3h
	100) 利用者が(と共に)行う地域づくり活動			集団 週1回以上 1h 以内	

表4 障害別・プログラム等別の評価指標ありの回答数

※数字は評価指標ありと回答した件数

プログラム等の分類		肢体不自由(脳血管障害等)	肢体不自由(頸髄脊髄損傷等)	高次脳機能障害	視覚障害	知的障害	精神障害	発達障害
機能維持・向上訓練	1) 身体機能の維持・向上訓練	7	4	5	0	0	0	0
	3) 高次脳機能・認知訓練	5	0	5	0	0	0	0
	4) 言語訓練	1	0	1	0	0	0	0
	5) 摂食・嚥下訓練	1	0	0	0	0	0	0
	6) 感覚統合訓練	0	0	2	0	0	0	0
	7) 記憶・情緒の安定	1	0	3	0	0	0	0
	8) 代替手段の活用	0	0	2	0	0	0	0
ADL訓練	10) 起居訓練	1	1	0	0	0	0	0
	11) 転倒訓練	1	0	0	0	0	0	0
	12) 移乗	1	1	0	0	0	0	0
	13) 屋内移動	3	2	0	2	0	0	0
	14) 屋外移動	4	2	2	2	0	0	0
	15) 車いす操作	1	3	0	0	0	0	0
	16) 食事	2	1	0	0	0	0	0
	17) 更衣	2	1	0	0	0	0	0
	18) 排泄	1	1	0	0	0	0	0
	19) 入浴	4	3	0	0	0	0	0
	20) みだしなみ・整容	2	1	0	0	0	0	0
	21) 白杖操作	0	0	0	3	0	0	0
22) 点字	0	0	0	2	0	0	0	
IADL訓練	24) 電話の使用	0	0	0	1	0	0	0
	25) 買い物	2	0	0	0	0	0	0
	26) 調理	1	1	0	3	0	0	0
	28) 掃除	1	0	1	0	0	0	0
	30) 服薬管理	0	0	1	0	0	0	0
	31) 金銭・財産取扱い	0	0	0	1	0	0	0
	32) 公共交通機関の利用	2	1	3	3	0	0	0
33) 自動車利用・運転	2	2	1	0	0	0	0	

プログラム等の分類		肢体不自由(脳血管障害等)	肢体不自由(頸髄脊髄損傷等)	高次脳機能障害	視覚障害	知的障害	精神障害	発達障害
社会生活力訓練	35) 疾病・健康管理	1	0	2	0	0	0	0
	37) セルフケア	0	0	1	0	0	1	0
	38) 生活リズム	0	0	0	0	0	1	1
	41) すまい	0	1	0	0	0	0	0
	42) 掃除・整理	0	0	1	0	0	0	0
	45) 自己理解	0	0	2	0	0	0	1
	46) 障害の理解	0	0	2	0	0	0	0
	47) 人間関係	0	0	1	0	0	0	1
	48) コミュニケーション	0	0	1	0	0	0	1
	49) 教育と学習	0	0	1	0	0	0	1
	50) 就労生活	0	0	1	0	0	0	0
	52) 外出・余暇活動	0	0	2	0	0	0	1
	53) 地域生活・参加	0	0	1	0	0	0	1
	55) 障害福祉制度・サービス	0	0	1	0	0	0	0
57) 支援の活用	0	0	1	0	0	0	0	
けた一般就労に向けた職業訓練	60) 職業前訓練	1	1	0	0	0	1	0
	61) 職業訓練・復職訓練	0	0	0	0	0	1	0
	63) 職場実習支援	0	0	0	0	0	1	0
その他の訓練	66) スポーツ活動	1	1	1	2	0	0	0
	67) PCなどのICT訓練	0	0	0	3	0	0	0
	68) 一般教養・強化学習	0	0	1	0	0	0	0
	69) ソーシャルスキルトレーニング	0	0	1	0	0	0	0
	70) 音楽療法	0	0	1	0	0	0	0

プログラム等の分類		肢体不自由(脳血管障害等)	肢体不自由(頸髄脊髄損傷等)	高次脳機能障害	視覚障害	知的障害	精神障害	発達障害
地域移行、社会参加に向けた支援	76) サービス担当者会議・関係機関との調整	2	1	1	0	0	0	0
	77) 住環境面の改善	0	1	0	0	0	0	0
	78) 医療機関・事業所探し・選定支援	0	0	1	0	0	0	0
	79) 事業所見学・同行	0	0	1	0	0	0	0
	80) 事業所利用体験実習支援	1	0	0	0	0	0	0
	83) 職場体験実習同行	0	0	1	0	0	0	0
	86) その他の同行支援	0	0	1	0	0	0	0
	90) 職場・地域等周囲の理解促進	0	0	1	0	0	0	0
	91) 地域生活の中でのレクリエーション・余暇活動支援	0	0	1	0	0	0	0
家族支援	94) 障害理解促進	0	0	2	0	0	0	0
	95) 相談対応	0	0	1	0	0	0	0
地域貢献活動	97) 地域等に対するボランティア活動	0	0	1	0	0	0	0
	98) 他の障害者等に対するピアサポート活動	0	0	1	0	0	0	0
	99) 利用者が(と共に)行う地域交流活動	0	0	1	0	0	0	0
	100) 利用者が(と共に)行う地域づくり活動	0	0	1	0	0	0	0

参考文献

吉永勝訓ほか(2019) 自立訓練(機能訓練、生活訓練)の実態把握に関する調査研究, 厚生労働省
平成30年度障害者総合福祉推進事業

令和 2 年度厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
分担 研究報告書

回復期リハビリテーション病院の生活期支援に関する実態調査の研究

研究分担者 鈴木 智敦 名古屋市総合リハビリテーションセンター 副センター長
研究協力者 田中 雅之 名古屋市総合リハビリテーションセンター 自立支援部長
松尾 稔 名古屋市総合リハビリテーションセンター 生活支援課長

研究要旨

障害福祉サービスのひとつである機能訓練は障害がある方に対して社会生活力を高め、自立や社会復帰に向けた支援を行っている。しかしながら現状では機能訓練と他サービスについて対象者や役割の違いが見えづらくなっている。そこで、機能訓練事業所・回復期リハビリテーション病棟を持つ病院・介護保険上の通所リハビリテーション事業所のそれぞれが実施している訓練プログラム及び支援について、内容やその実施頻度を比較し、機能訓練の役割や他分野との違いを明らかにすることを目的とした研究を行う。令和 2 年度は研究実施に向けて調査の内容や方法に関する検討を実施した。令和 3 年度は検討した調査票を用いて調査を実施していく。

A. 研究目的

障害者総合支援法上のサービスのひとつである自立訓練では、障害がある方に対して社会生活力を高め、自立や社会復帰に向けた支援を行っている。

他方医療リハビリテーションにおいては病院の機能分化が進み、現状では後遺症に対する機能回復訓練や在宅復帰に関する支援は回復期リハビリテーション病棟を持つ病院（以下回復期リハ病院）が担っている。回復期リハ病院では、院外訓練や退院前訪問が診療報酬上算定できることも手伝って、自立訓練で実施している外出訓練や自宅内の環境調整を実施している。さらに回復期リハ病院と職場が復帰に関する調整を直接行っている事例が出てきていることから、これまで自立訓練が担っていた役割と回復期リハ病院が実施している支援が重なっている部分が増えてきているのではな

いかと考えられる。

一方、介護保険との関係では、平成 19 年 3 月 28 日付厚生労働省通知「障害者自立支援法に基づく自立支援給付と介護保険制度との適用関係等について」の中で「サービス内容や機能から、介護保険サービスには相当するものがない障害福祉サービス固有のものと認められるもの（同行援護、行動援護、自立訓練（生活訓練）、就労移行支援、就労継続支援等）については、当該障害福祉サービスに係る介護給付費等を支給する。」と介護保険優先原則があり、かつ機能訓練は障害福祉サービス固有のものと認められていない。実際に介護保険分野においても「生活行為向上リハビリテーション加算」など実際の生活に即した加算が近年新設されており、機能回復訓練に留まらない役割が期待されていることがうかがえる。以上の事から、利用者の立場からみると、機能訓練と他サービス

との違いが見えづらい状況に、支援者の立場からみれば機能訓練を利用することが適切だと思われる利用者に必要な情報が届いていないと考えられている。そのため機能訓練の果たしている役割や他分野との違いを明確にしていかなければならないと考えるが、医療・福祉・介護のプログラムを横断的に比較するような先行研究は見当たらない。そこで以下4点を明らかにする調査を実施することとした。

- ①機能訓練事業所と回復期リハ病院間の比較の中で、地域生活に向けた訓練プログラムや支援（以下プログラム等）の差異の有無をみる
 - ②機能訓練事業所と介護保険上の通所リハビリテーション事業所（以下通りハ）間の比較の中で、地域生活に向けた訓練等の差異をみる
 - ③回復期リハ病院入院患者のうち、機能訓練利用対象の可能性がある患者の割合を調査する
 - ④回復期リハ病院のスタッフが入院期間中にさらに実施できた方がよかったと感じている支援内容（機能訓練事業所に期待される役割）を調査する
- 本研究は、機能訓練・回復期リハ病院・通りハのそれぞれが実施しているプログラム等について、医療・福祉・介護と異なる事業を比較するための調査内容を考慮する必要があった。そのため研究分担者と研究協力者でまず検討を行い、試作案を作ったうえで、病院及び事業所側に実際に回答してもらうことで、回答が可能な構成になっているか意見を聴取する。その後修正を加え、令和3年度の本調査に向けて調査票を完成させることを目的とした。

B. 研究方法

1. 調査票試案の作成

(1) 資料収集

試案作成にあたり、以下の資料収集し項目や内容を参照した。

- ・一般社団法人回復期リハビリテーション協会による回復期リハビリテーション調査票

- ・介護保険事業所情報公表
- ・令和2年度厚生労働科学研究「自立訓練の効果測定に関する研究」
- ・平成30年度障害者総合福祉推進事業「自立訓練（機能訓練、生活訓練）の実態把握に関する調査研究」
- ・平成28年度千葉リハビリテーションセンター「回復期リハビリテーション病院障害福祉サービス自立訓練（機能訓練）認知度調査」
- ・その他回復期リハ病院が作成するリハビリテーションサマリー

(2) 調査票の検討及び作成

令和2年8月より調査分担者および調査協力者で検討を実施した。

試案に関するヒアリング調査

(3) 対象

A 県の回復期リハビリテーション病院および通所リハビリテーション事業所各1カ所

(4) 期間

令和2年12月17日から令和3年1月20日

(5) 方法

調査票に回答してもらったうえで、記入のしやすさなどについて、電話による聞き取りを行った。

2. 試案作成の考え方

(1) 基本情報

調査負担の軽減を図ることができるよう、業務で取り扱っていると思われる項目を抜粋して採用することとした。また回復期リハ病院、通所リハそれぞれに以下の項目を追加した。

〔回復期リハ病院〕

- ・機能訓練利用の可能性がある患者がどの程度入院しているか把握するため、65歳未満の脳血管疾患リハ算定者の1年間の退院者数およびその帰結、退院時の合計のFIMを追加

〔通りハ〕

- ・65歳未満の脳血管疾患がある方の利用者数および1年間にサービス利用を終了した数

(2) 調査対象者

1) 対象疾患

現在の機能訓練の利用者に関して原因疾患の中心となっているのが脳血管障害、頭部外傷、脳炎、低酸素脳症等の脳の器質的な後遺症、脊髄損傷のような中枢性の障害、視覚障害などである。大腿骨頸部骨折に代表されるような運動器疾患については受傷から医療リハビリの期間の間で在宅復帰していることから、調査対象の疾患名は医療の疾患別リハにおける脳血管疾患等リハビリテーション料の算定対象疾患とした。

2) 年齢

障害福祉サービス利用が想定できる 65 歳未満とした。

3) 状態像

令和 2 年度厚生労働科学研究「機能訓練で標準化された評価手法の確立」であがってきた機能訓練事業所利用者 FIM の値で下限値であった合計 50 台以上を仮想で「機能訓練利用可能な対象者」として、その患者数を調査することとした。

4) プログラム等に関する調査

プログラム等の内容を調査する上で医療・福祉・介護で実施している内容を網羅するような項目立てにすると設問が多くなるため、本研究では地域生活を行うためのプログラム等にしばって作成した。

実施されているプログラム等の深さを調査する点について、当初の試案ではプログラムごとに病院や事業所を利用している間にどの程度仕上がるができるのかを主観的に 5 段階で評価する形式を検討していたが、回答者が想定するケースの状態によって大きく差がでることが予想されるため、病院または事業所として利用期間中最大何回そのプログラムを行うことができるのかを問う形式とした。

また、特に回復期リハ病院については入院期間には限りがあることから、スタッフとしては利用者支援上、さらに実施できた方がよかった内容が

あるのではないかと考え、調査項目に加えた。この内容については先行研究である平成 28 年度千葉リハビリテーションセンター「回復期リハビリテーション病院障害福祉サービス自立訓練（機能訓練）認知度調査」において「機能訓練に望む支援」についての項目と値を比較する。

3. 調査票試案について

(1) 医療機関もしくは事業所に関する基本情報〔回復期リハ病院〕

- ・病院全体の病床数および回復期リハビリテーション病床として扱うベッド数
- ・平均在院日数（脳血管疾患リハ算定者のみ）
- ・算定している回復期リハビリテーション入院料
- ・併設施設
- ・65 才未満の脳血管疾患リハ算定者の 1 年間の退院者数および帰結、日中活動状況、FIM の合計〔通りハ〕
- ・職種別の従業者数および勤務形態
- ・サービス提供所要時間
- ・65 才未満の脳血管疾患の利用者数および 1 年間で利用が終了した数とその理由

(2) 調査対象者について

下記の条件を満たす利用者を想定し回答する。

- ・年齢が 65 才未満
- ・原因疾患が脳血管障害もしくは脳血管疾患リハ対象者
- ・帰結が自宅
- ・歩行や車いすを利用し、移動が可能

(3) プログラム等に関する調査について

「日常生活動作」「家事動作」「生活管理/健康管理」「移動手段の確立」「自動車運転支援」「障害認識の促進や対処法の獲得に関する訓練」「コミュニケーション」「対人技能/集団適応に関する訓練」「就労に向けた訓練」「住まいに関する訓練」「家族支援」「経済面に関する支援」「制度活用・社会参加に関する支援」「アフターフォロー」の計 61 項目について、上記対象者に病院や事業所としてプ

プログラム等を実施しているか、また最大で何回プログラム等を実施できるか、併せて「さらに実施できた方がよかった」と感じている内容について回答してもらうこととした。

C. ヒアリング結果

1. 聴取した意見

(1) 医療機関もしくは事業所に関する基本情報

- ・項目に関する意見は特段なかった。
- ・調査を回答する職員について、試案の内容の場合、「基本情報は事務員、訓練等に関する調査はリハビリスタッフと複数にまたがるのが想定される」との意見があった。

(2) 調査対象者について

- ・特段意見はなかった

(3) 訓練等に関する調査

以下の意見があげられた。

- ・「訓練回数を計数するにあたり、1回のリハビリで複数の内容にまたがる場合にどこまでカウントするのか判断に困った。」
- ・事業所として行っているプログラムと最大回数の記載について、「(個別性もあるため、) 病院や事業所単位であると難しい。ケースごとであれば記載可能ではないか。」
- ・「訓練回数を数えるときに記録をすべて読み返して計数する必要があるので、非常に手間がかかる。調査方法を郵送で考えているのであれば回収率が低くなる可能性があると思う。」

D. 考察

ヒアリング結果を踏まえ、以下のように調査票を修正した。

1. 修正内容

- ・医療機関もしくは事業所に関する基本情報 変更なしとした。
- ・調査対象者について 変更なしとした。
- ・プログラム等に関する調査について

訓練回数の計数については、プログラム内で複数の内容が行われていた場合はそれぞれにカウントすると思われるが、計数する負担が増えてしまうため、実数を記入する形式から「1回」「2回から5回」「6回から10回」「11回以上」の4段階とした。

次に実施しているプログラム等の選択および最大回数を記載する点について、事業所としての最大回数を記載する方法を改め、具体的な症例を3ケース選定し症例に対し、実際に行った内容を選択し、実施回数を計数する形式とした。

2. 調査対象の再検討について

ヒアリング調査から、本研究の回答を行うためには複数の職員を要することや電子カルテを遡って確認するなど、大きな負担をかけることが予測された。そこで、回復期リハ病院については、ある程度関係性が取れている病院に限定して調査依頼を行うこととした。回復期リハ病院は大きな地域差はないと予測しているが、A県以外の地域もサンプル的に調査を行うこととする。

通りハについては今回の研究では副次的な調査の位置づけとし、郵送調査のみとした。通りハは事業所数が非常に多いため地域の範囲を決めて実施する。

以上から調査対象を下記のように設定する。

(1) 回復期リハビリテーション病院

- ・A県内の回復期リハビリテーション病院のうち、N総合リハビリセンター障害者支援施設への利用実績がある病院(約10か所)
- ・地域的な偏りが出ないように、他地域から調査協力を募る(4~5か所)

(2) 通所リハビリテーション事業所

- ・N市内の通所リハビリテーション事業所(約170か所)

(3) 機能訓練事業所

- ・A県の他、調査協力を得られる事業所(4~5か所)

3. 令和3年度の実施計画

今後の本研究に関する実施は以下のとおりである。

(1) 調査票の配布

・令和3年7月

(2) 調査票の集計、分析、とりまとめ

・令和3年8月～9月

(3) 報告書の作成

・令和3年9月～10月

資料：回復期リハビリテーション病院 生活期支援実態調査票（案）

調査票1-1基本情報 回復期リハビリテーション病院向け

病院名()
 回答者氏名()
 回答者の所属部署と職種()

1: 病院全体の病床数 ()床
 うち、回復期リハビリテーション病床として扱うベッド数()床

2: 平均在院日数(令和3年3月分 脳血管疾患リハ算定者のみ)()日

3: 回復期リハビリテーション入院料
入院料1 入院料2 入院料3 入院料4 入院料5 入院料6

4: 併設施設
入院病床(一般病床、医療療養病床、介護療養病床、精神病床)
入所サービス(介護老健施設、特別養護老人ホーム)
通所サービス(通所リハビリ、通所介護)
訪問サービス(訪問リハビリ、訪問看護、訪問介護、訪問入浴)
居住系施設(サービス付高齢者向け住宅、有料老人ホーム、グループホーム)

5: 65歳未満の脳血管疾患リハ算定者の退院者数(令和2年4月～令和3年3月の1年間)
 ()名

(1) 上記患者の帰結情報
 自宅 ()名
 老健施設 ()名
 居住系施設 ()名
 障害者支援施設 ()名
 その他(転院・転棟、院内他病棟、有床診療所、介護医療院など)
 ()名

(2) 上記患者の退院後の日中活動
 復職 ()名
 介護保険利用(通所リハビリ・訪問リハビリ) ()名
 障害福祉サービス利用(就労系サービス) ()名
 障害福祉サービス利用(自立訓練) ()名
 障害福祉サービス利用(生活介護、地域活動支援)()名
 特になし ()名
 その他(新規就職活動等) ()名

(3) 上記患者の退院時のFIM(身体項目と認知項目の合計)
 18～50 ()名
 51～80 ()名
 81～126 ()名

調査票1-2基本情報 介護保険事業所(通所リハビリ)

事業所名()
 回答者氏名()
 回答者の所属部署と職種()

1: 法人等の名称()

2: 事業所において介護サービス(予防を含む)に従事する従業者に関する事項
 ・職種別の従業者の数、勤務形態

実人数	常勤		非常勤		合計	常勤換算人数
	専従	兼務	専従	兼務		
医師	人	人	人	人	人	人
理学療法士	人	人	人	人	人	人
作業療法士	人	人	人	人	人	人
言語聴覚士	人	人	人	人	人	人
看護職員	人	人	人	人	人	人
介護職員	人	人	人	人	人	人
相談援助員	人	人	人	人	人	人
歯科衛生士	人	人	人	人	人	人
管理栄養士	人	人	人	人	人	人
事務員	人	人	人	人	人	人
その他の従業者	人	人	人	人	人	人

3: 介護サービス(予防を含む)の内容に関する事項

- (1) サービス提供所要時間
- 1時間以上2時間未満
 - 2時間以上3時間未満
 - 3時間以上4時間未満
 - 4時間以上5時間未満
 - 5時間以上6時間未満
 - 6時間以上7時間未満
 - 7時間以上8時間未満
 - 8時間以上9時間未満
 - 9時間以上

4: 65歳未満の脳血管疾患の利用者数(令和2年4月～令和3年3月の1年間)
 ()名

5: 65歳未満の脳血管疾患の利用者のうち、令和2年4月1日から令和3年
 3月31日までのうち、終了した利用者数 ()名

- (1) 上記のうち、終了した理由
- ・介護保険制度上の他サービスへ移った ()名
 - ・障害者総合支援法上のサービスへ移った ()名
 - ・就職した ()名
 - ・その他(死亡による等) ()名

調査票1-3基本情報 機能訓練事業所

事業所名()
 利用したサービス 機能訓練 共生型機能訓練 基準該当機能訓練
 利用期間()
 回答者氏名()

【調査対象者の基礎項目】

1 性別	<input type="checkbox"/> 男性	<input type="checkbox"/> 女性
2 年齢（現在もしくは利用終了時）	歳	
3 (主たる)障がい	<input type="checkbox"/> 肢体（上肢） <input type="checkbox"/> 聴覚・言語 <input type="checkbox"/> 発達	<input type="checkbox"/> 肢体（下肢） <input type="checkbox"/> 内部 <input type="checkbox"/> 高次脳機能
4 重複障がい(複数可)	<input type="checkbox"/> 肢体（上肢） <input type="checkbox"/> 聴覚・言語 <input type="checkbox"/> 発達	<input type="checkbox"/> 肢体（下肢） <input type="checkbox"/> 内部 <input type="checkbox"/> 高次脳機能
5 (主たる障がい)疾患名	<input type="checkbox"/> 脳血管障害 <input type="checkbox"/> 脊髄損傷・疾患 <input type="checkbox"/> その他の外傷	<input type="checkbox"/> 外傷性脳損傷 <input type="checkbox"/> 変形性股・膝関節 <input type="checkbox"/> その他脳の器質的
6 身体障害者手帳等級	<input type="checkbox"/> 1級 <input type="checkbox"/> 5級	<input type="checkbox"/> 2級 <input type="checkbox"/> 6級
7 精神保健福祉手帳等級	<input type="checkbox"/> 1級	<input type="checkbox"/> 2級
8 障害支援区分	<input type="checkbox"/> 区分1 <input type="checkbox"/> 区分5	<input type="checkbox"/> 区分2 <input type="checkbox"/> 区分6
9 要介護度	<input type="checkbox"/> 要支援1 <input type="checkbox"/> 要介護3 <input type="checkbox"/> 未申請	<input type="checkbox"/> 要支援2 <input type="checkbox"/> 要介護4 <input type="checkbox"/> その他
	<input type="checkbox"/> 3級 <input type="checkbox"/> 7級 <input type="checkbox"/> なし	<input type="checkbox"/> 4級 <input type="checkbox"/> 精神 <input type="checkbox"/> 難病 <input type="checkbox"/> その他
	<input type="checkbox"/> 脳性麻痺 <input type="checkbox"/> 関節リウマチ <input type="checkbox"/> 難病等	<input type="checkbox"/> 神経疾患 <input type="checkbox"/> 切断 <input type="checkbox"/> その他

調査票2	実施している	実施していない	実施回数	さらに実施できた方がよかった内容
(1)日常生活動作				
排泄動作	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
入浴動作	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自具の製作	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
福祉用具の紹介	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
福祉用具の使用練習	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
利き手交換	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(2)家事動作				
調理	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
買い物	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
洗濯	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
衣類の管理	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
掃除	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ゴミ捨て	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(3)生活管理/健康管理				
生活リズムの安定	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自己による時間管理/予定管理	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
食事管理の指導	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自己による服薬管理	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
血圧管理	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
体重管理の指導	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(4)移動手段の確立				
階段昇降	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
坂道歩行	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
エスカレーター	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
補装具の製作	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
屋外歩行	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
公共交通機関の利用	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ルート歩行(自宅~職場や通所先まで等)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(5)自動車運転支援				
カーシミュレーション	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自動車運転の実地指導もしくは乗車同行	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(6)障害認識の促進や対処法の獲得に関する訓練				
障害認識の促進に向けたフィードバック	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
代償手段や補償行動など対処法の定着	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(7)コミュニケーション				
書字訓練	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
集団場でのコミュニケーション	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
携帯電話・スマートフォンの操作	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
メール・Line等文字ツールの活用	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(8)対人技能/集団適応に関する訓練				
集団訓練(GW・SST等)の実施	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
社会的行動障害への対処行動	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(9)就労に向けた支援				
作業性の評価	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
職業前訓練	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
職場との調整	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ハローワーク等への同行	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(10)住まいに関する支援				
住宅改修に関する助言・指導	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
居宅訪問による動作確認等	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
住まい探し(見学・同行)	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(11)家族支援				
介助方法の指導	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
障害理解や対応に関する支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
今後の見通しに関する支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
家族へのカウンセリング	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
家族会など社会資源への紹介	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(12)経済面に関する支援				
医療費助成に関する支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
傷病手当金受給に関する支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
雇用保険に関する支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
障害年金受給に関する支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(13)制度活用・社会参加に関する支援				
趣味・余暇活動への支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
相談支援専門員との調整	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
介護支援専門員との調整	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
近隣等における地域活動に関する支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
身体障害者手帳取得に向けた支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
精神保健福祉手帳取得に向けた支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
役所等への同行	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
各種社会資源の見学や体験の同行	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
(14)アフターフォロー				
外来などでの相談対応	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
訪問による支援	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
			該当なし				

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
			該当なし		

令和3年4月28日

厚生労働大臣
~~(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿~~
~~(国立保健医療科学院長)~~

機関名 社会福祉法人千葉県身体障害者福祉事業団
千葉県千葉リハビリテーションセンター

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 伊 東 健 司

次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 障害者政策総合研究事業
2. 研究課題名 障害者に対する社会リハビリテーション支援プログラム及びその評価手法開発に関する研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 診療部・センター長
(氏名・フリガナ) 菊地尚久・キクチナオヒサ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称：)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項) _____

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

令和3年5月7日

厚生労働大臣 殿

機関名 かがわ総合リハビリテーション事業団

所属研究機関長 職名 理事長

氏名 松尾 恭成



次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 1. 研究事業名 障害者政策総合研究事業
- 2. 研究課題名 障害者に対する社会リハビリテーション支援プログラム及びその評価手法開発に関する研究
- 3. 研究者名 (所属部局・職名) 地域生活支援部 部長
(氏名・フリガナ) こじま しょうへい 小島 正平

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項) _____

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

令和 3 年 4 月 27 日

厚生労働大臣
—(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿
—(国立保健医療科学院長)—

機関名 名古屋市総合リハビリテーションセンター

所属研究機関長 職名 センター長

氏名 山田 和雄

次の職員の令和 2 年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 障害者政策総合研究事業
2. 研究課題名 障害者に対する社会リハビリテーション支援プログラム及びその評価手法開発に関する研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 名古屋市総合リハビリテーションセンター 副センター長
(氏名・フリガナ) 鈴木 智敦 (スズキ トモアツ)

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項) _____

(※2) 未審査に場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関における COI の管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関における COI 委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係る COI についての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係る COI についての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)

令和 3年 4月 28日

厚生労働大臣
（国立医薬品食品衛生研究所長）殿
（国立保健医療科学院長）

機関名 社会福祉法人
横浜市リハビリテーション事業団

所属研究機関長 職 名 理事長

氏 名 小 出 重 佳

次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

- 研究事業名 障害者政策総合研究事業
- 研究課題名 障害者に対する社会リハビリテーション支援プログラム及びその評価手法開発に関する研究
- 研究者名 （所属部局・職名） 自立支援部 生活支援課
（氏名・フリガナ） 渡邊 崇子・ワタナベ タカコ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入（※1）		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査（※2）
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（※3）	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること （指針の名称：)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

（※1）当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他（特記事項）

（※2）未審査に場合は、その理由を記載すること。

（※3）廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合はその理由：)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合は委託先機関：)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> （無の場合はその理由：)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> （有の場合はその内容：)

令和3年4月28日

厚生労働大臣
~~(国立医薬品食品衛生研究所長) 殿~~
~~(国立保健医療科学院長)~~

機関名 社会福祉法人千葉県身体障害者福祉事業団
千葉県千葉リハビリテーションセンター

所属研究機関長 職名 理事長

氏名 伊東健司

次の職員の令和2年度厚生労働科学研究費の調査研究における、倫理審査状況及び利益相反等の管理については以下のとおりです。

1. 研究事業名 障害者政策総合研究事業
2. 研究課題名 障害者に対する社会リハビリテーション支援プログラム及びその評価手法開発に関する研究
3. 研究者名 (所属部局・職名) 地域リハ推進部・部長
(氏名・フリガナ) 田中康之・タナカヤスユキ

4. 倫理審査の状況

	該当性の有無		左記で該当がある場合のみ記入 (※1)		
	有	無	審査済み	審査した機関	未審査 (※2)
ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
遺伝子治療等臨床研究に関する指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
人を対象とする医学系研究に関する倫理指針 (※3)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
厚生労働省の所管する実施機関における動物実験等の実施に関する基本指針	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>
その他、該当する倫理指針があれば記入すること (指針の名称:)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="checkbox"/>

(※1) 当該研究者が当該研究を実施するに当たり遵守すべき倫理指針に関する倫理委員会の審査が済んでいる場合は、「審査済み」にチェックし一部若しくは全部の審査が完了していない場合は、「未審査」にチェックすること。

その他 (特記事項) _____

(※2) 未審査の場合は、その理由を記載すること。

(※3) 廃止前の「疫学研究に関する倫理指針」や「臨床研究に関する倫理指針」に準拠する場合は、当該項目に記入すること。

5. 厚生労働分野の研究活動における不正行為への対応について

研究倫理教育の受講状況	受講 <input checked="" type="checkbox"/> 未受講 <input type="checkbox"/>
-------------	---

6. 利益相反の管理

当研究機関におけるCOIの管理に関する規定の策定	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究機関におけるCOI委員会設置の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合は委託先機関:)
当研究に係るCOIについての報告・審査の有無	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> (無の場合はその理由:)
当研究に係るCOIについての指導・管理の有無	有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/> (有の場合はその内容:)